

2024 年度

理工学部 便覧



国士舘大学

Kokushikan

令和 6 (2024) 年度

理工学部便覧

(履修要項)

目次

令和6(2024)年度 理工学部 履修要項	i
○理工学部の教育研究上の目的・方針	iv
○関係施設窓口案内	xiv
○学生ポータルサイト「Kaede-i」・講義支援システム「manaba」	xvi

I 単位・授業・試験・進級及び卒業

① 授業と単位制	2
(1) 授業	2
(2) 単位算定の基準	2
(3) 出席・欠席・公欠	3
(4) 休講	3
(5) 補講	3
② 履修登録	4
(1) 履修登録の流れ	4
(2) 履修上の注意事項	5
③ 試験	6
(1) 定期試験	6
(2) レポート・小試験等	6
(3) 追試験	6
(4) 受験資格	6
(5) 受験上の注意	7
(6) 不正行為	7
(7) 再試験	7
(8) レポート・課題等の提出	7
(9) 試験の重複	7
④ 成績評価	8
(1) 成績と単位の認定	8
(2) GPA 制度	8
(3) 成績通知書	9

II 授業科目と履修要領

① 理工学部の構成	12
② 進級・留年および卒業	13
③ 修学指導	15
④ 履修に関する注意事項	16
⑤ 授業科目	17
(1) 全学共通教育科目	18
保健体育教育科目	21
(2) 外国語科目	24

(3)専門科目	33
(4)副専攻	37
⑥ インターンシップ単位認定	38
⑦ 教職課程	39
⑧ 他学部履修・学内聴講	40
⑨ ボランティア活動に対する単位認定	41
Ⅲ 学系の特徴	
① 機械工学系	44
② 電子情報学系	52
③ 建築学系	62
④ まちづくり学系	72
⑤ 人間情報学系	78
⑥ 基礎理学系	84
Ⅳ 科目ナンバリング	
科目ナンバリングについて	94
科目ナンバリングの活用	94
Ⅴ 首都圏西部大学単位互換・世田谷6大学コンソーシアム連携授業	
首都圏西部大学単位互換	96
世田谷6大学コンソーシアム連携授業	96
Ⅵ 学籍と学費	
① 休学・復学・退学・除籍・復籍・再入学	98
② 願出・届出の手續きについて	100
③ 学費の納入	101
Ⅶ 転部・転学系	
① 転部	104
② 転学系	104
Ⅷ 学則・諸規程	
① 国土館大学学則・諸規程	106
Ⅸ キャンパス	
案内建物配置図	108
X 付録	
非暴力宣言	134
国土館スポーツアスリート憲章	135
国土館々歌	136

理工学部の研究上の目的・方針

建学の由来と理念

日本は明治維新後、西洋文明を積極的に受容し、社会の近代化を急速に推進してきました。このため社会はおおいに伸張を遂げましたが、あまりに急激な近代化であったため、伝統文化を破壊し、軽視する風潮さえ生じました。日露戦争後には、国内問題が悪化し国民意識が変化するなかで、さまざまな社会問題が発生し、深刻な社会不安が引き起こされました。

このような当時の社会状況を憂い、柴田徳次郎ら有志は、日本の「革新」をはからんと、「社会改良」と「青年指導」を目的として1913（大正2）年「青年大民団」を組織し、1917（大正6）年「活学を講ず」の宣言とともに、私塾「国土館」を創立するに至りました。

創立者たちのねらいは、吉田松陰の精神を範とし、教学の適地として世田谷の松陰神社隣接地に学舎を建設し、「国土館設立趣旨」でうたわれているように、日々の「実践」のなかから心身の鍛錬と人格の陶冶をはかり、国家社会に貢献する智力と胆力を備えた人材「国土」を養成することにありました。

以来、「国土」養成を理念として、学ぶ者みずからが不断の「読書・体験・反省」の三綱領を実践しつつ、「誠意・勤労・見識・気魄」の四徳目を涵養することを教育理念に掲げ、さまざまな分野で活躍する人材を世に輩出してきました。

今日、国土館は、このような建学の志を大切に継承しながら、新たに発展を遂げた研究教育の諸領域でも、知識と実践の水準を高めつつ、世界の平和と進運を目指し、現代社会に積極的に貢献する真摯な努力を続けています。

建学の精神

「物質文明」を統御する「精神教育」を重視し、「心身の修練」と「知徳の精進向上」を目指し、国家社会の将来を思い、世界の平和と国家社会の改革向上に貢献する人材、即ち「国を思い、世のため、人のために尽くせる人材『国土』の養成」を目指す。

教育理念

「国土」養成のため、四徳目「誠意・勤労・見識・気魄」を兼ね備える教育を行う。

「誠意」とは、真心と慈悲の心で、世のため、人のために尽くすこと

「勤労」とは、向上心を持って、誠実に仕事をする事

「見識」とは、道理のもと、物事を見抜く力をもつこと

「気魄」とは、信念と責任を持って強い心でやり通す力のこと

教育指針

四徳目を備えるには、不断の「読書・体験・反省」を実践し「思索」すること。

「読書」とは、善き書物に学び、世の中や自然界の真を理解すること

「体験」とは、智恵を持って善悪を判断し、善なる判断を実行すること

「反省」とは、何事も行った後、その行為を省みること

「思索」とは、省みた内容を検討し、次なる目標を立案すること

○ 教育研究上の目的

地球規模で起こっている環境問題、外国に例を見ない速さで進行している少子高齢化、科学技術立国日本の基本であるものづくりが抱える問題点等の深刻な社会問題をふまえて、理工学という広大な分野を従来のような狭い専門分野にとらわれず、幅広い教養と知識に裏付けられた視野の広さと大局的な判断力を身につけさせる教育を目的とする。理工学基礎知識を十分理解し、広い視野と柔軟な思考力、大局的な判断力、積極的に問題を発見し、解決のための方策を考える能力、それを周囲の人に理解してもらえる表現力、周囲の人々とのコミュニケーションを取りながら実行する能力、職業人としての倫理観を備えた人材の育成に努める。

以上の教育目標を達成するために理工学科の中に次の6学系を設ける。それらの特徴は次の通りである。

【機械工学系】

プロジェクト教育形式の実習授業を通じ、あらゆる工業分野に必要な機械工学について具体的に体得し、工業社会を支えることのできる人材の育成を目的とする。

【電子情報学系】

通信機器やコンピュータ、情報処理技術などの情報工学分野および電子機器や電力などの電気電子工学分野に関する講義、実験を通して、次々と開発される新技術に柔軟に対応し、快適な環境を創造できる人材の育成を目的とする。

【建築学系】

建築福祉、建築デザイン、サステナブルをキーワードに自然と調和の取れた建築、町並み、都市の計画・設計を目指し、これに必要なデザイン、工学の深い知識と技術を持った人材の育成を目的とする。

【まちづくり学系】

多くの人々が暮らす都市から自然豊かな農村漁村まで、そこに住む人々が安全・安心で生き生きと暮らせる「まち」を創造し、維持するための基礎知識や技術を持った人材の育成を目的とする。

【人間情報学系】

日常の健康管理から医療・福祉、スポーツ現場など多様な分野で、ヒトの身体から得られる情報を活用することのできる知識・技能を持った人材の育成を目的とする。

【基礎理学系】

科学技術を支える理学の各分野を体系的また専門的に学び、情報を的確に判断し、新たな知識を創造し発信していける人材の育成を目的とする。教職関係の科目を配置し、数学・理科の教員の育成も目指す。

入学者受入れの方針「アドミッション・ポリシー」(AP)

理工学部では、理工学に強い興味を持ち、高等教育により知識と倫理観を身に付けて社会に貢献しようとする学生を受け入れます。

理工学部は、希望する専門に応じた教育を機械工学系・電子情報学系・建築学系・まちづくり学系・人間情報学系・基礎理学系で行います。学系にまたがる教育を行うために、入学者を学科として適正に判定します。そのために、次に掲げる観点から、多様な方法による入学者選抜を実施します。

AP1. 【知識・理解・技能】

理工学部の教育を受けるために必要な基礎学力、あるいは秀でた実技能力を有している。

(AP 1-1) 数学、理科、英語、国語などについて、中等教育で身に付けるべき標準的な知識を有している。

(AP 1-2) スポーツ活動において優秀な成績を収め、入学後にスポーツ活動を継続する意欲と卒業要件を達成する強い意志を有している。

AP2. 【思考力・判断力・表現力】

積極的に新しい知見を吸収する向上心と、入学後に学修する知識を活かして、社会に貢献する意欲を有している。

AP3. 【主体性・多様性・協働性】

様々な考えを持つ多くの人々と協調的な関係を築くことができる。

[入学前に身に付けておくべきこと]

1. 数学については、基本的な概念や原理・法則を理解し、ものごとを論理的に考察し、処理できる能力を有していること。
2. 理科については、様々な科目に興味を持ち、自然現象の規則性、法則性を理解していること。
3. 論理的に理解し、表現できる国語力を持ち、理工学分野での共通言語である英語の素養を身に付けていること。

卒業認定・学位授与の方針「ディプロマ・ポリシー」(DP)

理工学部は、大学の卒業認定の方針に加えて、所定の課程を経て所定の単位を修め、かつ理工学部ならびに各学系が指定する卒業要件を満たした学生に対し、学系が求める次の資質・能力を有しているとして卒業を認定し、機械工学系、電子情報学系、建築学系、まちづくり学系、人間情報学系では学士(工学)、基礎理学系では学士(理学)の学位を授与します。

【機械工学系】

- DP1. 4 大力学の基礎をはじめとした機械工学に関する専門知識や技術、手さばきと幅広い教養を身に付け、機械工学技術者の役割を深く理解し、技術者をめぐる倫理的問題に関し適切な判断を行う資質を有している。
- DP2. 修得した機械工学の知識や技術、手さばきをもとに創造性と応用性を発揮し、機械工学に関わる諸問題を分析・理解し、その過程や結果を他者にわかりやすく説明する能力を有している。
- DP3. 社会に責任ある機械工学技術者としての高い倫理観を持ち、不断の努力により機械工学の新たな知識・技術を修得・活用して、社会が抱える問題の解決に主体的に取り組む強い意志を有している。
- DP4. 機械工学の学修を通して多様な他者への理解力を養い、他者と協調してチームワークを発揮し社会的責任を果たす能力を身に付けている。

【電子情報学系】

- DP1. 電気、電子、情報に関する基礎知識・技能と幅広い教養を身に付け、電子情報技術者の役割を深く理解し、技術者をめぐる倫理的問題に関し適切な判断を行う資質を有している。
- DP2. 実験やコンピュータシミュレーションを通じて、自ら設定した課題について考察・理解し、その結果を他者にわかりやすく説明する能力を有している。
- DP3. 電子情報技術者としての高い倫理感を持ち、不断の努力により電気、電子、情報に関する新たな知識・技術を修得・活用して、地域や社会の創造に進んで貢献する強い意志を持っている。
- DP4. 電気、電子、情報に関する学修を通して多様な他者への理解力を養い、他者と協調してチームワークを発揮し社会的責任を果たす能力を身に付けている。

【建築学系】

- DP1. 建築総合技術・サステナブル、建築・都市デザイン、または建築福祉・医療に関わる専門的知識・技能と幅広い教養を身に付け、建築技術者の役割を深く理解し、技術者をめぐる倫理的問題に関し適切な判断を行う資質を有している。
- DP2. 設計演習や実験・調査などを通じて修得した創造性と応用力を発揮して、問題や課題を分析・理解し、その過程や結果を他者にわかりやすく説明する能力を有している。
- DP3. 建築技術者としての高い責任感と倫理観を持ち、不断の努力により新たな建築知識・技術を修得・活用して、地域や社会の課題解決に主体的に貢献する強い意志を持っている。
- DP4. 建築知識・技術の学修を通して多様な他者への理解力を養い、他者と協調してチームワークを発揮し社会的責任を果たす能力を身に付けている。

【まちづくり学系】

- DP1. まちづくりや都市計画、空間デザインや土木工学の知識・技能および幅広い教養を身に付け、まちづくりの計画設計者や土木技術者の役割を深く理解し、計画設計や技術者をめぐる倫理的問題に関し適切な判断を行う資質を有している。
- DP2. 設計演習や実験、グループワークなどを通じて修得した、まちづくりにかかわる社会的な問題や課題を分析・理解し、その過程や結果を他者にわかりやすく説明することができる。
- DP3. まちづくりの計画設計者や土木技術者としての高い責任感と倫理感を持ち、不断の努力によりまちづくりの新たな知識・技術を修得・活用して、人々が暮らしやすい地域や社会の創造に貢献する強い意志を持っている。
- DP4. まちづくりにかかわる知識・技術の学修を通して多様な他者への理解力を養い、他者と協働してチームワークを発揮し社会的責任を果たす能力を身に付けている。

【人間情報学系】

- DP1. 健康や医療に関する専門的知識・技能と幅広い教養を修得し、人間情報学の果たす役割を深く理解し、技術者をめぐる倫理的問題に関し適切な判断を行う資質を有している。
- DP2. 演習や実験などを通して修得した創造性と応用力を発揮して、人間情報学に関わる諸問題を理解し、関連する情報を客観的に分析し、その過程や結果を他者にわかりやすく説明し、多角的に活用する能力を有している。
- DP3. 人間情報学に携わる者としての高い倫理観を持ち、不断の努力により人間情報学の新たな知識・技術を修得・活用して、地域や社会に貢献する強い意志を持っている。
- DP4. 人間情報学やスポーツ・医療にかかわる学修を通して、多様な他者への理解力を養い、他者と協調してチームワークを発揮し社会的責任を果たす能力を身に付けている。

【基礎理学系】

- DP1. 理学の各分野に関する基本的かつ体系的知識と幅広い教養を修得し、理学が果たす役割を深く理解し、科学者をめぐる倫理的問題に関し適切な判断を行う資質を有している。
- DP2. 理学の基礎的な知識と専攻分野の専門知識をもとに、設定したテーマを理解し論理的に考え、その過程や結果を他者にわかりやすく説明する能力を有している。
- DP3. 理学の素養を基礎とした専門職業人として高い倫理観を持ち、不断の努力により新たな知識を修得・活用して、社会・文化に貢献する強い意志を持っている。
- DP4. 理学の各分野にかかわる学修を通して、多様な他者への理解力を養い、他者と協調してチームワークを発揮し社会的責任を果たす能力を身に付けている。

教育課程編成・実施の方針「カリキュラム・ポリシー」(CP)

理工学部は、学生が卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で掲げる能力や態度を身に付けるために、今後社会で役立つ情報系の基礎を含む教育課程を編成し、それらを系統的に履修することによって教育目的を達成します。

教育内容、教育方法、学修成果の評価については、次のように定めます。

[機械工学系]

1. 教育課程・内容

- (1) 「全学共通教育科目」を設け、幅広くかつ深い教養と総合的判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、専門分野と調和・発展させます。
- (2) 「外国語科目」を設け、英語や他の言語を学び、コミュニケーション能力の向上を図ります。
- (3) 「専門科目」を設け、基礎力を培うために専門導入教育として「基礎数学」「基礎力学」などの基礎科目、キャリア教育科目、ならびに技術者倫理科目を学系共通で配置します。また、機械工学の基盤である材料、熱、流体、機械の力学と設計製図を学ぶ科目を中心に、実験・製作などの実習を通じて体験や技能（手さばき）を得て、問題解決能力・工学的説明能力を身に付けるための科目と、先端的・基盤的な社会ニーズに応えられる体系的な知識と幅広い教養・倫理的素養を身に付けるための科目を設けます。
- (4) 専門とする技術の学修方法や内容への理解を進めるため「卒業研究」を設けます。
- (5) 高度情報化社会に適用できる認識と技能の習得のため、AI・データサイエンス副専攻を設置し、その修了認定を卒業要件に含めます。

2. 教育方法

- (1) ものづくりと機械工学を担う技術者として必要な素養（資質・能力）を培うために、講義やPBL教育を含む実習教育を実施します。
- (2) 基礎数学や英語は、習熟度別にクラスを分け、少人数教育で行い、きめ細やかな指導を行います。
- (3) 講義に関連した実験・実習や少人数のグループワーク等を行い、知識及び技術の修得を図ります。
- (4) 在学期間を通じて学修したことを「卒業研究」で自分自身の研究テーマに結実させ、卒業後の進路を見据えた専門知識・技能の定着を図ります。

3. 学修成果の評価

- (1) 各授業科目については、到達目標や成績評価の基準と具体的評価方法をシラバスに明示して学生に周知し、公正で厳格な成績評価を実施します。
- (2) 在学期間を通じた総合的な学修成果は、必修科目の「卒業研究」によって提出された卒業論文等の研究成果をもとに総合的評価を行います。

【電子情報学系】

1. 教育課程・内容

- (1) 「**全学共通教育科目**」を設け、幅広くかつ深い教養と総合的判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、専門分野と調和・発展させます。
- (2) 「**外国語科目**」を設け、英語や他の言語を学び、コミュニケーション能力の向上を図ります。
- (3) 「**専門科目**」を設け、基礎力を培うために専門導入教育として「**基礎数学**」「**基礎力学**」などの基礎科目、キャリア教育科目、ならびに技術者倫理科目を学系共通で配置します。また、通信機器やコンピュータ、情報処理技術などの情報工学分野および電子機器や電力などの電気電子工学分野に関する分野で体系的に学修する科目を設けます。
- (4) 専門とする技術の学修方法や内容への理解を進めるため「**卒業研究**」を設けます。
- (5) 高度情報化社会に適用できる認識と技能の習得のため、AI・データサイエンス副専攻を設置し、その修了認定を卒業要件に含めます。

2. 教育方法

- (1) 電子情報の基礎科目においては、少人数で演習を行い、電子情報への興味や関心を高めます。
- (2) 基礎数学や英語は、習熟度別にクラスを分け、少人数教育で行い、きめ細やかな指導を行います。
- (3) 講義に関連した実験・実習や少人数のグループワーク等を行い、知識及び技術の修得を図ります。
- (4) 在学期間を通じて学修したことを「**卒業研究**」で自分自身の研究テーマに結実させ、卒業後の進路を見据えた専門知識・技能の定着を図ります。

3. 学修成果の評価

- (1) 各授業科目については、到達目標や成績評価の基準と具体的評価方法をシラバスに明示して学生に周知し、公正で厳格な成績評価を実施します。
- (2) 在学期間を通じた総合的な学修成果は、必修科目の「**卒業研究**」によって提出された卒業論文等の研究成果をもとに総合的評価を行います。

【建築学系】

1. 教育課程・内容

- (1) 「**全学共通教育科目**」を設け、幅広くかつ深い教養と総合的判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、専門分野と調和・発展させます。
- (2) 「**外国語科目**」を設け、英語や他の言語を学び、コミュニケーション能力の向上を図ります。
- (3) 「**専門科目**」を設け、基礎力を培うために専門導入教育として「**基礎数学**」「**基礎力学**」などの基礎科目、キャリア教育科目、ならびに技術者倫理科目を学系共通で配置します。また、建築デザイン系（設計製図・構造デザイン等）、環境サステナブル系（耐震構造解析・環境設備等）、生産マネジメント系（建築施工等）、福祉・医療系（福祉住環境等）の科目を設けます。体系的に学修できるように「**建築総合技術・サステナブルコース**」、「**建築・都市デザインコー**

ス]、「建築福祉・医療コース」の3コースを設置します。

- (4) 専門とする技術の学修方法や内容への理解を進めるため「卒業研究」を設けます。
- (5) 高度情報化社会に適用できる認識と技能の習得のため、AI・データサイエンス副専攻を設置し、その修了認定を卒業要件に含めます。

2. 教育方法

- (1) スタジオ教育で専門分野を同時的・重層的に学び、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を磨きます。
- (2) 基礎数学や英語は、習熟度別にクラスを分け、少人数教育で行い、きめ細やかな指導を行います。
- (3) 講義に関連した実験・実習や少人数のグループワーク等を行い、知識及び技術の修得を図ります。
- (4) 在学期間を通じて学修したことを「卒業研究」で自分自身の研究テーマに結実させ、卒業後の進路を見据えた専門知識・技能の定着を図ります。

3. 学修成果の評価

- (1) 各授業科目については、到達目標や成績評価の基準と具体的評価方法をシラバスに明示して学生に周知し、公正で厳格な成績評価を実施します。
- (2) 在学期間を通じた総合的な学修成果は、必修科目の「卒業研究」によって提出された卒業論文等の研究成果をもとに総合的評価を行います。

[まちづくり学系]

1. 教育課程・内容

- (1) 「全学共通教育科目」を設け、幅広くかつ深い教養と総合的判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、専門分野と調和・発展させます。
- (2) 「外国語科目」を設け、英語や他の言語を学び、コミュニケーション能力の向上を図ります。
- (3) 「専門科目」を設け、基礎力を培うために専門導入教育として「基礎数学」「基礎力学」などの基礎科目、キャリア教育科目、ならびに技術者倫理科目を学系共通で配置します。また、まちづくり系科目として「まちづくり概論」、「景観デザインの基礎」を基礎とし、地域・都市・まちづくりに関連した科目を設置しています。関連して、建築基礎系の選択科目も配置します。
- (4) 専門とする技術の学修方法や内容への理解を進めるため「卒業研究」を設けます。
- (5) 高度情報化社会に適用できる認識と技能の習得のため、AI・データサイエンス副専攻を設置し、その修了認定を卒業要件に含めます。

2. 教育方法

- (1) ICT 技能を活用したプロジェクト形式の授業を通じ、多様な情報を正確に理解、説明する能力を身に付けるよう指導します。
- (2) 基礎数学や英語は、習熟度別にクラスを分け、少人数教育で行い、きめ細やかな指導を行い

ます。

- (3) 講義に関連した実験・実習や少人数のグループワーク等を行い、知識及び技術の修得を図ります。
- (4) 在学期間を通じて学修したことを「卒業研究」で自分自身の研究テーマに結実させ、卒業後の進路を見据えた専門知識・技能の定着を図ります。

3. 学修成果の評価

- (1) 各授業科目については、到達目標や成績評価の基準と具体的評価方法をシラバスに明示して学生に周知し、公正で厳格な成績評価を実施します。
- (2) 在学期間を通じた総合的な学修成果は、必修科目の「卒業研究」によって提出された卒業論文等の研究成果をもとに総合的評価を行います。

【人間情報学系】

1. 教育課程・内容

- (1) 「全学共通教育科目」を設け、幅広くかつ深い教養と総合的判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、専門分野と調和・発展させます。
- (2) 「外国語科目」を設け、英語や他の言語を学び、コミュニケーション能力の向上を図ります。
- (3) 「専門科目」を設け、基礎力を培うために専門導入教育として「基礎数学」「基礎力学」などの基礎科目、キャリア教育科目、ならびに技術者倫理科目を学系共通で配置します。また、人体の構造及び特性や身体情報処理に関する科目を設けます。体系的に学修できるように、「医療情報分野」と「身体情報分野」の2分野に分けます。
- (4) 専門とする技術の学修方法や内容への理解を進めるため「卒業研究」を設けます。
- (5) 高度情報化社会に適用できる認識と技能の習得のため、AI・データサイエンス副専攻を設置し、その修了認定を卒業要件に含めます。

2. 教育方法

- (1) ICT 技能を活用したプロジェクト形式の授業を通じ、多様な情報を正確に理解、説明する能力を身に付けるよう指導します。
- (2) 基礎数学や英語は、習熟度別にクラスを分け、少人数教育で行い、きめ細やかな指導を行います。
- (3) 講義に関連した実験・実習や少人数のグループワーク等を行い、知識及び技術の修得を図ります。
- (4) 在学期間を通じて学修したことを「卒業研究」で自分自身の研究テーマに結実させ、卒業後の進路を見据えた専門知識・技能の定着を図ります。

3. 学修成果の評価

- (1) 各授業科目については、到達目標や成績評価の基準と具体的評価方法をシラバスに明示して学生に周知し、公正で厳格な成績評価を実施します。
- (2) 在学期間を通じた総合的な学修成果は、必修科目の「卒業研究」によって提出された卒業論文

文等の研究成果をもとに総合的評価を行います。

[基礎理学系]

1. 教育課程・内容

- (1) 「全学共通教育科目」を設け、幅広くかつ深い教養と総合的判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、専門分野と調和・発展させます。
- (2) 「外国語科目」を設け、英語や他の言語を学び、コミュニケーション能力の向上を図ります。
- (3) 「専門科目」を設け、基礎力を培うために専門導入教育として「基礎数学」「物理実験」などの基礎科目、キャリア教育科目、ならびに技術者倫理科目を学系共通で配置します。また、数学、物理学、化学、地球科学、情報科学を中心とした理学分野の科目を設けます。さらに、数学・理科の中学校・高等学校教員を育成するための科目も設けます。
- (4) 専門とする技術の学修方法や内容への理解を進めるため「卒業研究」を設けます。
- (5) 高度情報化社会に適応できる知識と技能の習得のため、AI・データサイエンス副専攻を配置し、その修了認定を卒業条件に含めます。

2. 教育方法

- (1) 段階的に配置した少人数の科目を通じて、専門分野を理解するために必要な知識、計算力、論理的思考力を身に付けます。
- (2) 基礎数学や英語は、習熟度別にクラスを分け、少人数教育で行い、きめ細やかな指導を行います。
- (3) 講義に関連した実験・実習や少人数のグループワーク等を行い、知識及び技術の修得を図ります。
- (4) 在学期間を通じて学修したことを「卒業研究」で自分自身の研究テーマに結実させ、卒業後の進路を見据えた専門知識・技能の定着を図ります。

3. 学修成果の評価

- (1) 各授業科目については、到達目標や成績評価の基準と具体的評価方法をシラバスに明示して学生に周知し、公正で厳格な成績評価を実施します。
- (2) 在学期間を通じた総合的な学修成果は、必修科目の「卒業研究」によって提出された卒業論文等の研究成果をもとに総合的評価を行います。

関係施設窓口案内

学生生活を過ごすにあたって各種情報や注意事項は、『国士館大学手帳』（学生部発行）に記載されているのでよく確認すること。

■関係施設窓口案内

窓口	受付内容	場所	電話	受付時間	
				月～金	土・授 業休講 日
教務課	学生証・学費・証明書担当 教室担当 教職担当	世田谷 5号館1階	03-5481-3202 (学費・証明書) 03-5481-3203 (教室) 03-5481-3204 (教職)	9:00～ 17:00	9:00～ 17:00
		町田 鶴川メイプルホール1階	042-736-2331	9:00～ 17:00	9:00～ 17:00
	政経学部担当	世田谷 5号館1階	03-5481-3159	9:00～ 17:00	9:00～ 17:00
	理工学部担当	世田谷 5号館1階	03-5481-3159	9:00～ 17:00	9:00～ 17:00
	法学部担当	世田谷 5号館1階	03-5481-3159	9:00～ 17:00	9:00～ 17:00
	文学部担当	世田谷 5号館1階	03-5481-3159	9:00～ 17:00	9:00～ 17:00
	経営学部担当	世田谷 5号館1階	03-5481-3159	9:00～ 17:00	9:00～ 17:00
	21世紀アジア学部事務課	町田 30号館1階	042-736-1050	9:00～ 17:00	9:00～ 17:00
	体育学部事務課 こどもスポーツ 教育学科担当	町田 14号館1階	042-736-2330	9:00～ 17:00	9:00～ 17:00
	体育学部事務課	多摩 18号館1階	042-339-7202	9:00～ 17:00	9:00～ 17:00
学生・厚生課	学生生活全般をサポートする 手続、指導、相談、掲示 等を行っています。 課外活動、奨学金（奨学生 制度）、遺失物・拾得物、 アルバイト情報、学生保険、 学生寮、アパート関係など	世田谷 34号館A棟1階	03-5451-8114	9:00～ 17:00	9:00～ 17:00
		町田 13号館1階	042-736-2316	9:00～ 17:00	9:00～ 17:00
		多摩 18号館2階	042-339-7225	9:00～ 17:00	9:00～ 17:00
学生相談室	教職員、家族、友人等に相談しにくい問題など、専門の カウンセラーが直接相談に 応じます。電話での相談 や家族からの相談も受け付 けています。	世田谷 34号館A棟1階	03-5451-8116	※カウンセラーの 在室日は 学生相談 室入口の 掲示板で お知らせ します。確 認の上、相 談に来て ください。	原則として閉室
		町田 11号館1階	042-736-5498		
		多摩 21号館1階	042-339-7365		

窓口	受付内容	場所		電話	受付時間	
					月～金	土・授業 休講日
国際交流 センター	海外研修や交換留学など、 海外へ留学を希望する学生 へのアドバイスや外国人留 学生へのサポートを行って います。	世田谷	7号館1階	03-5481-3206	9:00～ 17:00	9:00～ 17:00
		町田	鶴川メイプル ホール2階	042-736-2317	9:00～ 17:00	9:00～ 17:00
		ホームページ	http://www.kokushikan.ac.jp/research/IC/			
キャリア形成 支援センター	学生の進路に関する各種支 援を行っています。業種別 企業ファイルや就職情報誌 等の資料を自由に閲覧でき るほか、求人票及び各種セ ミナーの案内等を行ってい ます。また、就職活動にお ける悩みを相談できるスタ ッフも常時待機していま す。	世田谷	8号館1階	03-5481-3308	9:00～ 17:00	9:00～ 17:00
		町田	12号館1階	042-736-2318	9:00～ 17:00	9:00～ 17:00
		多摩	18号館2階	042-339-7230	9:00～ 17:00	9:00～ 17:00
		ホームページ	http://www.kokushikan.ac.jp/career/			
		Eメールアドレス (全キャンパス共通)	career@kokushikan.ac.jp			
健康管理室	校医や看護師等を配置し て、応急処置や健康相談、 健康診断証明書の発行、健 康情報の発信等を行ってい ます。なお、校医の健康相 談や診察を希望する場合 は、各キャンパスの健康管 理室にお問い合わせくださ い。	世田谷	34号館A棟 1階	03-5451-8115	9:00～ 21:00	9:00～ 19:00
		町田	11号館1階	042-736-2319	9:00～ 18:00	9:00～ 17:00
		多摩	21号館1階	042-339-7206	9:00～ 18:00	9:00～ 17:00
図書館・ 情報メディア センター	蔵書はもちろん、学外情報 検索のための各種データ ベースや電子デバイス等の 設備、視聴覚や閲覧・学習 施設等が完備されていま す。蔵書は3キャンパスど こでも貸出・返却ができま す。なお、図書館入館の際 には学生証が必要です。	世田谷	中央図書館 1～5階	03-5481-3216	8:30～ 20:30	8:30～ 18:00
		町田	鶴川メイプル ホール2～4階	042-736-2341	8:30～ 19:00	8:30～ 18:00
		多摩	18号館1階	042-339-7204	8:30～ 19:00	8:30～ 18:00
		ホームページ	http://www.kokushikan.ac.jp/education/library/			
地域連携・ 社会貢献推進 センター	学生のスキルアップと就職 のための資格講座を実施し ています。	世田谷	梅ヶ丘校舎 地域交流文化 センター1階	03-5451-1921	9:00～ 17:00	9:00～ 17:00
		町田	鶴川メイプル ホール1階	042-736-2327	10:00～ 17:00	10:00～ 17:00
		多摩	18号館1階	042-339-7372	10:00～ 17:00	10:00～ 17:00
		ホームページ	http://www.kokushikan.ac.jp/research/LLC/			

※受付時間は、大学行事開催日等は閉室または時間が変更となる場合があります。

※詳しい内容は、各部署まで直接お問い合わせください。

学生ポータルサイト「Kaede-i」 講義支援システム「manaba」

【学生ポータルサイト「Kaede-i」】

授業に関する情報など、大学生活に必要な情報については「Kaede-i」から確認することができます。Kaede-iのID及びパスワードは、入学後のオリエンテーションに出席することで配布され、IDと大学が発行したメールアドレスは卒業するまでの間、原則として変わらない。紛失しないように注意すること。

- ・ 授業の休講、補講、教室変更などの情報
- ・ 大学からのお知らせ（※掲示板にも掲示される）
- ・ 履修登録（履修登録期間のみ）
- ・ My 時間割（履修科目の一覧）の確認
- ・ プロファイル（学生情報）の確認・変更（住所、電話番号、学費納入者の変更など）
- ・ 成績確認（春期成績は9月中旬、秋期成績は3月下旬から） など

◆ Kaede-i へのアクセス方法

大学ホームページから「在学生・保護者の皆さま」→「学生ポータルサイト（Kaede-i）」をクリック

URL : <https://kaedei.kokushikan.ac.jp/>



QRコード
(Kaede-i)

◆ プロファイル（学生情報）の確認・変更方法

学生ポータルサイト「Kaede-i」TOPページから、「プロフィール」→「プロフィール（学生情報）」欄の「確認・変更する」をクリック。変更箇所を修正し、最後に「登録」ボタンをクリック。なお、学生本人だけでなく、保証人や学費納入者の住所、緊急連絡先等の変更ができる。

※住所・電話番号は、怪我や病気をした時や災害時の連絡など緊急時に連絡する際に必要となるため、変更が生じた場合には速やかに最新の情報に変更すること。

【講義支援システム「manaba」】

「manaba」は、講義資料の配布や掲示板等のやりとり、課題レポートやアンケートの提示・提出等を行える機能がある。また、各部署からの案内やお知らせなども掲載している。このシステムを利用するには、入学時に配付されるユーザIDとパスワードが必要となる。

◆ manaba へのアクセス方法

大学ホームページから「在学生・保護者の皆さま」→ページ中ほどにある「manaba」をクリック

URL : <https://kokushikan.manaba.jp/ct/login>



QRコード
(manaba)

I

単位・授業・試験・ 進級及び卒業

1 授業と単位制

1. 授業
2. 単位算定の基準
3. 出席・欠席・公欠
4. 休講
5. 補講

2 履修登録

1. 履修登録の流れ
2. 履修上の注意事項

3 試験

1. 定期試験
2. レポート・小試験等
3. 追試験
4. 受験資格
5. 受験上の注意
6. 不正行為
7. 再試験
8. レポート・課題等の提出
9. 試験の重複

4 成績評価

1. 成績と単位の認定
2. GPA 制度
3. 成績通知書

授業と単位制

大学における学修は「単位制」によって行われている。

単位制とは、一定の基準により単位を付与された各授業科目を履修要領等にしたがって履修し、所定の試験またはこれにかわるものに合格することによって単位を修得していく制度である。

授業科目の履修は、すべて単位制による。卒業は、休学期間を除いて4年以上8年まで在学し、履修要領に従って所定の単位を修得することによって認められ、卒業により学士の学位が授与される。(学則第52・53条参照)

1 授業

授業科目は、各科目とも1時間に1回1時限(継続90分)が配当されている。

1年は、「春期」15週、「秋期」15週に区別され、年間の授業日数(週数)は、原則として、1科目につき15週(半期科目:週1回×15時限)、または30週(通年科目:週1回×30時限)実施される。

授業時間は次の通りである。

時限	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	7時限
時間	09:00~10:30	10:45~12:15	12:55~14:25	14:40~16:10	16:25~17:55	18:05~19:35	19:45~21:15

2 単位算定の基準

授業は、「講義」「実習」「実技」等の方法で行われ、各科目には単位が付与されている。大学において「1単位」と計算される学修時間は45時間であり、この時間数は教室における授業時間だけでなく、各自が行う自習(予習・復習等)時間を含め計算される。

各科目には次の基準により単位が付与されている。

		授業時間	授業時間外に必要な学修	単位数
講義科目	半期科目	毎週1時限 2時間×15週	4時間×15週	計6時間×15週÷45時間=2単位
	通年科目	毎週1時限 2時間×30週	4時間×30週	計6時間×30週÷45時間=4単位
演習科目 ※科目によって単位数等が異なります。	半期科目	毎週1時限 2時間×15週	4時間×15週	計6時間×15週÷45時間=2単位
		毎週1時限 2時間×15週	1時間×15週	計3時間×15週÷45時間=1単位
	通年科目	毎週1時限 2時間×30週	4時間×30週	計6時間×30週÷45時間=4単位
		毎週1時限 2時間×30週	1時間×30週	計3時間×30週÷45時間=2単位
外国語科目	半期科目	毎週1時限 2時間×15週	1時間×15週	計3時間×15週÷45時間=1単位
	通年科目	毎週1時限 2時間×30週	1時間×30週	計3時間×30週÷45時間=2単位
実験・実習・実技科目等		体育実技、実験及び実習については、学修はすべて体育館や実験室等で行われるものとし、30時間又は45時間の授業をもって1単位とする。		

※時間割上の1時限は1時間30分であるが、制度上2時間とみなされている。

3 出席・欠席・公欠

○出席

履修登録したすべての授業に原則として出席しなければならない。総授業数（試験を含む）の3分の2以上の出席がなければ単位が付与されない。

授業の出席の確認は、出席記録システム（学生証を使用）により行われる。また、出席カードの提出または点呼等により行われる場合もある。

○欠席

病気・怪我等、やむを得ない理由により7日以上欠席する（した）時は、教務課学部担当窓口にてその旨を報告し、欠席届を各科目担当教員へ提出すること。また、正当な理由がなく、無届で3か月以上連続して欠席した場合、除籍（学則第20条）の対象となる。

○公欠（公認欠席）

次の場合は公欠となるので、「公欠願」に必要事項を記入し認印を受けたうえで各科目担当教員へ願い出るものとする。公欠は欠席として取り扱われるが、科目担当教員の判断により、配慮が受けられる場合がある。（「公欠に関する取扱要領」参照）

公欠事由		認印をもらう人	添付書類
1	大学・学部行事	教務課：学部担当 学部教員	
	学生・厚生課関連	学生・厚生課	
2	教育実習・介護等体験	教務課：教職担当	
	他の学外実習	教務課：学部担当 学部教員	
3	対外公式試合・コンクール等登録出場者として出場する場合	学生・厚生課	（学生・厚生課への大会参加願の事前提出が必要）
4	学生の親族が死亡した場合（※忌引基準による）	教務課：学部担当	会葬礼状など葬儀日程が分かる書類
5	裁判員制度によって従事した場合	教務課：学部担当	従事したことを証明する書類
6	その他特に学部長が必要と認めた事由	学部長 （教務課学部担当経由）	関連資料、証明書等

4 休講

大学の行事または科目担当教員の都合等により授業が休講になることがある。休講情報は Web サイト（学生ポータルサイト「Kaede-i」）で確認すること。なお、授業開始後 30 分を経過しても科目担当教員もしくは教務課からの連絡、指示がない場合は、教務課学部担当窓口まで連絡し、指示があるまで待機すること。

5 補講

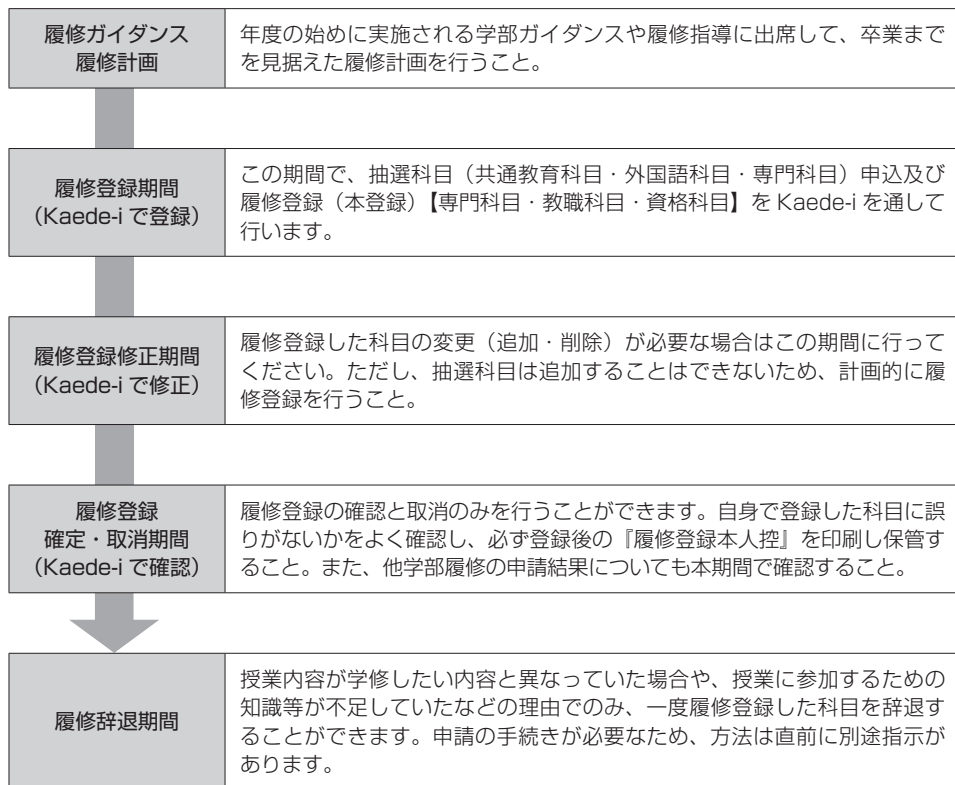
休講等により授業時間数の不足を補う必要が生じた場合は、補講を行うことがある。この場合、メールまたは学生ポータルサイト「Kaede-i」で連絡するので、指示に従い出席すること。

2

履修登録

履修登録とは、学びたい科目や卒業するために必要な科目の単位（卒業所要単位）を修得するために、学生自身が卒業までの計画を立て、各期で履修したい科目を学生ポータルサイト（Kaede-i）にて登録することです。履修登録を行うためには、学部便覧、シラバス、時間割表を参考にし、卒業までの履修計画を立てること。

1 履修登録の流れ



※『履修登録本人控』については、登録や変更が完了した時点で印刷し、保管しておくこと。

※各期で設定された期間外の履修登録は、いかなる場合でも認められません。

2 履修上の注意事項

①上級年次配当の科目履修について

自分より下級年次に配当されている科目は履修できるが、上級年次に配当されている科目を履修することはできない。

②重複履修について

次に示すような履修は重複履修と呼ばれ、登録することができない。

- ・ 同一時限の他の科目を履修すること。
- ・ 同一科目を同一学期内に並行履修すること。
- ・ 既に単位を修得した科目を再び履修すること。

③世田谷キャンパスと町田・多摩両キャンパス間における履修について

町田または多摩キャンパスの科目を履修し、同一日に世田谷キャンパスでも科目を履修する場合、最低1時限分の移動時間を設けなければならない。昼休みをはさみ、2時限と3時限の履修も認められない。

④抽選科目

授業科目の中で定員の定まっている科目について、履修希望者が多数の場合は抽選によって履修者を決定することがある。

3

試験

1 定期試験

定期試験は、春期及び秋期それぞれの学期末に実施される。各科目の具体的試験日程は、試験前に掲示等で発表される。

この試験結果等により評価されるが、演習（ゼミ）等の一部の科目については、試験に代えてレポート、論文または平常の成績により評価される。なお、正当な理由が無く試験を欠席した場合は、該当科目を放棄したものとみなされる。

2 レポート・小試験等

定期試験以外に、授業時に小試験が実施される場合やレポートの提出が指示される場合がある。

いずれも通常は、授業時に担当教員からの指示によって実施される。また、同様に掲示板等で指示される場合もあるので、あわせて留意すること。

3 追試験

追試験は、次の表に該当する事由により、やむを得ず定期試験を受験できなかった場合にのみ実施される。ただし、担当教員の判断により、出席不良等の事由で追試験を受験できない場合がある。また、定期試験において30分を超える遅刻、日程表の見間違え等本人の不注意により受験できなかった場合は、追試験は一切認められない。

◆追試験が認められる事由

事由	必要書類
病気・怪我	医療機関発行の診断書等 学校感染症の場合は、学校感染症治癒証明書（大学ホームページからダウンロード可能）または医療機関発行の診断書
忌引き	会葬礼状など葬儀日程が分かる書類
公共交通機関の遅延等	鉄道会社等で発行する遅延証明書又は事故証明書
その他	その他正当な事由がある場合は、教務課学部担当窓口へ申出

◆追試験の手続き方法

- ①電話等により、欠席した試験当日中に教務課学部担当窓口（5号館1階）に連絡する。
- ②後日、定められた期限までに、追試験申請を行い、事由に伴う「必要書類」を添えて教務課学部担当窓口へ提出する。

4 受験資格

次のような者は、試験の受験資格を失い、単位の取得ができない。

- ・学費、その他の納入金の未納者
- ・学生証のない者又は学生証の不備の者
- ・その他、授業担当教員が定める条件を満たしていない者

このうち、当日学生証を忘れた者に対しては、学生証に代わる「受験票」を学部担当窓口で発行する。受験資格を満たしていない者は、試験受験後、または採点後であっても、その試験を無効とすることがある。

5 受験上の注意

学生は試験受験に際して次の事項を守らなければならない。

- ・試験開始 10 分前までに試験場に入場し、指示された座席に着席の上、学生証を机上通路側に常に提示しておく。また、携帯電話の電源はあらかじめ切っておく。
- ・机上には、学生証、筆記用具、時計、およびあらかじめ許可された参考資料以外のものを置いてはいけない。
- ・試験開始後 30 分を経過した場合、試験場に入場することはできない。また試験開始後 30 分を経過し退場者が出た後では、いかなる理由があっても試験場に入場することは出来ない。
- ・試験開始後 30 分を経過しなければ、退場することはできない。
- ・答えは白紙であってもこれを持ち帰ることはできない。

6 不正行為

○. 定期試験（定期試験に準ずるものを含む）における不正行為

試験は公正に行われるべきものであり、次に示す行為は不正行為とみなされる。

- ・あらかじめ机等に書き込んだり、カンニングペーパー等を持ち込んだりすること
- ・あらかじめ許可されたもの以外の資料、電子機器等を持ち込むこと
- ・言語、動作等をもって、受験者相互に連絡すること
- ・他の学生の答案を見て答案を作成すること
- ・身代わり受験をすること、あるいはその依頼をすること
- ・他人の答案を作成することまたは不正に作成された答案を提出すること
- ・許可なく、みだりに席を離れる、または監督者の指示に反する行為をすること
- ・不正行為と疑われるような行為をすること、または試験中に物品の貸し借りをすること

試験中にこのような行為をした者に対しては、監督者が学生証、答案、その他の証拠品を取り上げ、退場を命じた上で、事後の試験は受けさせない。追試験、再試験も同様の扱いとする。

不正行為者は、当該期の中履修科目の単位認定がなされない（通年科目を含む）。あわせて学則第 73 条に基づき、懲戒処分の対象となる。

7 再試験

本学部では、全学共通教育科目、外国語科目及び専門科目のすべてに関して得点不足等を理由としての再試験を行わない。ただし他学部と合同で開講される授業科目については、授業担当教員の判断に任せる。

8 レポート・課題等の提出

レポート・課題等は試験と同様に扱われる。したがって提出期限を過ぎたものや規定外のものは受理されないこともある。

9 試験の重複

同一の日時に 2 つ以上の科目の試験が重複している場合、当該試験日の 1 週間前までに学部担当窓口で申し出て、その指示を受けなければならない。

4

成績評価

1 成績評価と単位の認定

- ①成績は 100 点法をもって評価され、成績評価は秀、優、良、可、不可及び欠席と表記される。また、「認定」とは点数評価をせずに単位を認定する成績評価を指す。

点数と成績評価の関係は下表のとおりとなる。

点数		100～90	89～80	79～70	69～60	59以下	評価不能	—
成績評価	Kaede-i の表示	秀	優	良	可	不可	欠席	認定
	成績通知書の表示	秀	優	良	可	不	欠	認
	成績証明書の表示	秀	優	良	可	—	—	認
合否		合格				不合格		合格

※総授業数の3分の2以上の出席がない場合や定期試験を放棄した場合などは、成績評価に値せず、点数は評価不能となり成績評価は「欠席」となる。

※編転入などにより、他大学等で修得した単位を本学の単位として認めたものを「認定」とする。

※成績証明書には合格した科目及び単位認定された科目のみ記載される。

- ②再試験の評価は、可または不可となる。(再試験が行われる場合のみ。)

2 GPA 制度

本学では、学生の学修意欲を高めることを目的として GPA (Grade Point Average : 成績点平均値) を導入している。この GPA とは、科目ごとの評価をそれぞれ点数化することにより、学修状況を客観的にみられるようにするための数値であり、全履修科目の平均を算出したものである。

◆ GPA の計算方法

- ① GPA 計算式

$$\text{GPA} = \frac{\text{(評価を受けた科目の GP} \times \text{その科目の単位数) の合計}}{\text{履修登録科目単位数の合計}}$$

※ GPA は四捨五入して、小数第 2 位まで表します。

- ② GP (Grade Point)

GP は、履修登録した科目の成績 (秀、優、良、可、不可、欠席) を数値に置き換えたもの。

合否	成績評価	点数	GP
合格	秀	100～90	4
	優	89～80	3
	良	79～70	2
	可	69～60	1
不合格	不可	59以下	0
	欠席	評価不能	0
合格	認定	—	対象外

※不合格の科目を再履修して合格した場合および再び不合格の場合、いずれにおいても再履修前の成績評価については、総 GPA には算入しない。

◆ GPA の対象

次の科目は GPA の対象とならない。

- ①成績評価が「認定」の科目
- ②卒業要件の対象とならない科目（教職科目や随意科目など）

◆ GPA の利用

GPA によって、年間もしくは半期の学修成果を自分自身で把握することが可能となり、主体的かつ充実した学修成果をあげることも目的としている。また、履修指導や学修指導において指針とするほか、成績優秀者、留学や奨学金対象者の選考等の判断基礎資料として活用する。

原則として、単年度 GPA が 1.0 未満の時は、個別面談等学修指導を実施する場合がある。また、単年度の GPA が 3.5 以上のときは、年間成績優秀者として表彰する。

◆ GPA の通知

Kaede-i 及び成績通知書に学期（春期・秋期）GPA、年間 GPA、総 GPA の 3 種類を表記する。

◆ 履修登録の修正および辞退

授業内容が学修したい内容と異なっていた場合や、学修するにあたっての知識が不足していたなどの理由で、履修登録した科目を辞退することができる。

辞退を希望する場合には、春期・秋期のそれぞれ指定された期間に指定された方法で手続きを行うこと。なお、辞退した科目は GPA の計算対象から除外される。

指定された期間内に手続きを行わず、自らの判断で履修を放棄した場合は「不合格」となり、GPA の値が下がるので注意すること。

◆ GPA の計算の一例

科目名	単位数	成績評価	GP
政治学 A	2	優	3
A I とサイエンス	2	秀	4
英語 1	1	可	1
中国語 1	1	不可	0
地方自治入門	2	優	3
簿記論（基礎）	2	良	2

計算式に当てはめると以下のとおり。

$$\frac{2 \times 3 + 2 \times 4 + 1 \times 1 + 1 \times 0 + 2 \times 3 + 2 \times 2}{2 + 2 + 1 + 1 + 2 + 2} = 2.50$$

この学生の GPA は、2.50 となる。

3 成績通知書

成績通知書は、春期（9月上旬頃）と秋期（3月上旬頃）にそれぞれ保証人宛に郵送される。次年度の履修登録や卒業・進級の状況を確認する上で必要なものとなるので、各自大切に保管しておくこと。いかなる場合においても成績通知書の再発行は行わない。

成績通知書には過去に修得した科目の成績が累計記載されている。ただし、不合格となった科目については、履修した年度のみ不合格である旨の記載がされる。

II

授業科目と履修要領

- 1** 理工学部構成
- 2** 進級・留年および卒業
- 3** 修学指導
- 4** 履修に関する注意事項
- 5** 授業科目
 1. 全学共通教育科目
 2. 外国語科目
 3. 保健体育教育科目
 4. 専門科目
 5. 副専攻
- 6** インターンシップ制度
- 7** 教職課程
- 8** 他学部履修・学内聴講
- 9** ボランティア活動に対する単位認定

理工学部

の構成

理工学部理工学科へ入学した学生は、次の6学系のいずれかに属する。

理工学部	理工学科	機械工学系
		電子情報学系
		建築学系
		まちづくり学系
		人間情報学系
		基礎理学系

各学系ごとに卒業要件があり、それを満たすと理工学部理工学科（〇〇学系）の卒業になる。

アカデミック・アドバイザー制度

理工学部の専任教員が、各学生のアカデミック・アドバイザーとして学習に関する相談、大学生活に関する相談に応じている。また、「理工学基礎科目群」（P22 参照）の授業も担当する。

オフィスアワー

本学にはオフィスアワー制度が設けられている。

オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんの授業履修や学生生活についての質問や相談等を受け付ける授業以外の時間のことをいう。

相談する際は事前に連絡（アポイント）を取ることが望ましい。専任教員の相談時間等詳細については、別途掲示等で周知するので確認すること。なお、非常勤教員のオフィスアワーについては、授業前後の時間を利用すること。

2

進級・留年および卒業

卒業所要単位数は124単位であり、4年間で卒業するためには、各年次に計画的に科目履修して必要単位を取得することが望まれる。なお、休学期間を除き8年を超えて在学することはできない(学則第41条)。また、休学期間は在学年数に算入されない(学則第18条)。

卒業に必要な単位数

全学共通教育科目		外国語科目	専門科目	自由選択枠	総計
必修	選択				
13単位	6単位	8単位	86単位	11単位	124単位

- ・全学共通教育科目の必修13単位には、「体育実習」と「AI・データサイエンス副専攻の科目群」が含まれる。
- ・専門科目86単位には、学系ごとに卒業要件がある。
- ・自由選択枠については、以下を参照のこと。
- ・卒業するには、4年(8期)以上の在学期間を満たしたうえで、6学系のうちいずれか1学系が定める卒業要件を満たしていなければならない。

自由選択枠

卒業所要単位数124単位のうち11単位が自由選択枠となっている。この自由選択枠とは、「全学共通教育科目」「外国語科目」「専門科目」のそれぞれの科目群において必要最低単位を超えて取得した単位を卒業所要単位に組み入れることができる制度である。各自の興味や関心に応じた学習ができるように設けられている。

教職科目に関する注意事項

年間履修単位数の上限48単位に含まれない教職科目は、卒業に必要な単位数に含まれない。詳細は「教職課程履修ガイダンス」で配布される「教職課程履修要項」で確認のこと。

進級および留年

理工学部では、進級要件を設けていない。したがって、在学期間に応じて4年次まで進級することができる。

4年次配当の必修科目「卒業研究」を履修するためには着手条件が課せられており、これを満たしていなければ4年次に進級したとしても次年度は留年となる。4年次終了時に卒業要件を満たしていない場合も同様に留年となる。

休学者は休学期間が満了する次の期に復学することができるが、年間休学者または半期休学者のうち所定の単位数に満たない者は次学年に進級せず留年となる(学籍管理規程第7条第6項)。

	卒業・進級に必要な単位数などの条件			進級時点で4年次留年となる単位数※	
	年間在学者	春期のみ の休学者	秋期のみ の休学者		年間休学者
2年次進級	条件なしに 進級	1年次終了時の取得単位数が 9単位以上は進級		次年度は進級しない	8単位以下
3年次進級	条件なしに 進級	2年次終了時の取得単位数が 57単位以上は進級		次年度は進級しない	56単位以下
4年次進級	条件なしに 進級	3年次終了時の取得単位数が 105単位以上は進級		次年度は進級しない	104単位以下
卒 業	便覧の各学系の項に記載された「卒業要件」 を含む124単位以上の取得、および、4年（8 期）以上の在学期間が必要				※年間履修単位数の上限 が48単位であり、4年 次の卒業研究着手には少 なくとも105単位が必要 なため

注) 年間履修単位数の上限48単位は、学生にとって無理のない学生生活をおくることができ、学力を確実に身につけることができる適正単位として設けている。

9月卒業

本学に4年（8期）以上在学して、所定の授業科目を履修し、定められた単位数を修得した者は卒業となる（学則第52条第1項）。卒業の時期は各期の終わりとして規定されており（同第2項）、春期および秋期末（9月および3月）の卒業がある。

原則として卒業は、第4学年終了時の秋期末（3月）となる。4年（8期）を経過して卒業できなかった学生（高学年生）が、卒業に必要な単位を次の半期（1期）で修得することが可能な場合は、「9月卒業」の対象となる。ただし、修得しなければならない科目の中に通年科目がある場合は9月卒業できない。なお、「卒業研究」は通年科目である。

3

修学指導

取得単位数または GPA が、以下に示した基準を下回る学生に対しては、随時相談に応じるとともに、修学指導を行う。修学指導とは、所属する学系の学年担任等が、学年ごとに定められた基準に満たない学生に対し、今後に向けた助言を行うなど、修学上の問題に対する早期対応として実施する指導のことである。

	春期（前年度3月末～4月末実施）	秋期（9月初～10月初実施）
1年次		春期取得単位数10以下または春期 GPA 1.0 未満の者
2年次	総取得単位数25以下または単年度 GPA 1.0 未満の者	春期取得単位数10以下、春期 GPA 1.0 未満、または総取得単位数45以下の者
3年次	総取得単位数65以下または単年度 GPA 1.0 未満の者	春期取得単位数10以下、春期 GPA 1.0 未満、または総取得単位数85以下の者
4年次・高学年生	卒業研究未着手者または次年度在籍者	←

その他対象者

- ・ 正当な理由なく、無届けで3週以上連続して欠席した者
- ・ 所属学系が定めた基準を満たさない者
- ・ 学年担任が特に必要と判断した者

4

履修に関する注意事項

(1) 学生は、Web シラバス等を参考にして学習内容を決定し、あらかじめ履修する科目を登録する。履修登録は、指定された期日までに必ず行わなければならない。
1年生は入学時に実施される履修ガイダンスで履修登録の方法を学ぶ。

(2) 授業科目の中で定員の定まっている科目について、履修希望者が多数の場合は抽選によって履修者を決定する場合がある。

(3) 授業科目は配当されている年次に履修するのが望ましいが、下級年次に配当された科目を履修することもできる。しかし、上級年次に配当された科目を履修することはできない。

(4) 先修条件

一部の科目については、履修に際して順序が設定されており、前の科目を履修しなければ次の科目を履修できない。これを先修条件という。詳細は④授業科目を参照。

(5) 「卒業研究」着手条件

- (1) 卒業に必要な 124 単位中、105 単位以上を取得していること。
- (2) 2 年次までの理工学科共通必修科目 7 単位をすべて取得していること。
- (3) 各学系で定める条件をみたしていること。(Ⅲ. 学系の特色を参照のこと)

(6) 再履修

履修登録をし、単位を取得できなかった授業科目を再度履修することを「再履修」という。

(7) 専門科目の重複履修の禁止

次に示すような履修は重複履修と呼ばれ、登録することはできない。

- ① 同一時間に 2 つ以上の科目を同時に履修すること。
- ② 同一学期内に、同一科目を 2 つ以上履修すること。
- ③ 既に単位を取得した科目を、再度履修すること。

(8) 年間履修単位

年間の履修単位の合計は、再履修科目を含んで 44 単位を標準とし、48 単位を上限とする。
ただし、教職科目等の随意科目は除く。

随意科目：卒業に必要な単位に算入されない科目。

上限の 48 単位に含まれない教職科目は、「教職課程履修ガイダンス」で配布される「教職課程履修要項」で確認すること。

(9) 半期履修単位

半期（春期または秋期）の履修単位の合計は、原則として、24 単位を上限とする。
通年科目については、その単位数の 1/2 を半期ごとの合計に組み入れる。
ただし、教職科目等の随意科目は除く。

理工学部の開設科目は次のように区分される。

全学共通
教育科目

幅広く深い教養および総合的判断力を培い、豊かな人間性を養い、専門分野と調和・発展させる科目。

P18 

保健体育
教育科目

身体や身体運動に関する幅広い知識を授け、学問的な思考態度を養うとともに、身体や身体運動の合理的実践を通して知的、道徳的、身体的教養を育成し、心身ともに健康でゆとりある生活を実現する能力や態度を育てることをねらいとする科目

P21 

外国語
科目

英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語および日本語（留学生対象）等について専門領域の外国文献の読解、実際の運用を目的とする科目。

P24 

専門
科目

理工学に関する科目。

- 【理工学科共通必修科目】理工学科のすべての学生が必ず履修しなければならない科目。
- 【理工学科共通選択科目】理工学科に共通におかれている科目で各自の希望で選択して履修する科目。

P33 

【学系必修科目】各学系の卒業生として特色づけるために各学系で定める必修科目。

【学系選択必修科目】定められた科目群の中から、所定の科目数を必ず履修しなければならない科目。各学系でそれぞれ定められている。

【学系選択科目】各学系で定められている科目の中から各自の希望で選択して履修する科目。

各学系の特徴 (P43 ~) 

副専攻

主専攻に加え、多様な関心や目的に応じて学部等の枠を超えた様々な知識や技能を体系的に幅広く修得することができる

P37 

教職
科目

教員免許状取得のための科目。卒業に必要な単位に入る場合とそうでない場合があるので注意が必要である。

P39 

1 全学共通教育科目

【必修科目】

科目名	年次及び単位数				備考
	1年次	2年次	3年次	4年次	
国士館を知る (建学の精神と教育理念)	2				
AIとサイエンス	2				
データサイエンス基礎		2			
データエンジニアリング基礎		2			
AI基礎		2			
AI基礎演習			1		
体育実習		2			

【選択科目】

科目名	年次及び単位数				備考
	1年次	2年次	3年次	4年次	
国士館を語る (継承する精神文化の探究)	2				
国士館ゼミ		1			
統計学入門		2			
確率論入門		2			
防災リーダー養成論		2			
防災リーダー養成論実習		2			
文章表現の基礎		2			
社会人基礎スキル		2			
現代の論理		2			
哲学と現代		2			
宗教と人生		2			
人間と倫理		2			
人生と教育		2			
からだと心のつながり		2			
心の理解と対応		2			
日本の文学		2			
世界の名作		2			
中国の古典を読む		2			
現代の政治		2			
経済のしくみ		2			
社会と人間		2			
法と社会		2			
日本の歴史と文化		2			
アジアの歴史と文化		2			
ヨーロッパの歴史と文化		2			
アメリカの歴史と文化		2			
イスラムの歴史と文化		2			
アフリカの歴史と文化		2			

科目名	年次及び単位数				備考
	1年次	2年次	3年次	4年次	
地理と人間生活			2		
仕事と社会			2		
保育理論			2		
ジェンダーと社会			2		
文化と人間			2		
現代社会論			2		
持続可能な社会と生活			2		
日本国憲法			2		
グローバル社会を学ぶ			2		
人と宇宙			2		
数学入門			2		
数学（線形代数）			2		
数学（微分積分）			2		
数学（多変数関数の微積分）			2		
生物とその進化を探る			2		
変動する地球			2		
人間と地球環境			2		
データリテラシー			2		
コンピュータリテラシー			2		
コンピュータネットワーク			2		
プログラミング基礎			2		
Webデザインの基礎			2		
栽培			2		
基礎物理学			2		
物理学			2		
スポーツと人体			2		
スポーツと社会			2		
スポーツ実習A		2			
スポーツ実習B			2		
スポーツ実習C				2	
スポーツ実習I	1				町田キャンパス開講
スポーツ実習II	1				町田キャンパス開講
スポーツ実習III		1			町田キャンパス開講
スポーツ実習IV		1			町田キャンパス開講
スポーツ実習V			1		町田キャンパス開講
スポーツ実習VI			1		町田キャンパス開講
スポーツ実習VII				1	町田キャンパス開講
スポーツ実習VIII				1	町田キャンパス開講
書の世界			2		
アニメの世界			2		
日本の伝統芸能			2		
芸術の世界			2		
英語で学ぶ教養			2		
ドイツ語で学ぶ教養			2		
フランス語で学ぶ教養			2		

科目名	年次及び単位数				備考
	1年次	2年次	3年次	4年次	
中国語で学ぶ教養			2		
韓国語で学ぶ教養			2		
日本の歩み			2		留学生のみ履修可
日本の国際化			2		留学生のみ履修可
日本の自然環境			2		留学生のみ履修可
総合講座			2		世田谷6大学コンソーシアム連携授業科目 (末尾に提供科目名を表記する)
ボランティア実践Ⅰ			1		単位認定科目
ボランティア実践Ⅱ			1		単位認定科目
ボランティア実践Ⅲ			1		単位認定科目
ボランティア実践Ⅳ			1		単位認定科目
インターンシップ			2		単位認定科目

保健体育教育科目

(1)保健体育教育のねらい

本学における保健体育教育は、身体や身体運動に関する幅広い知識を授け、学問的な思考態度を養うとともに、身体や身体運動の合理的実践を通して知的、道徳的、身体的教養を育成し、心身ともに健康でゆとりある生活を実現する能力や態度を育てることをねらいとしている。

(2)保健体育教育のカリキュラム

①保健体育教育のカリキュラムと配当年次

	保健体育教育の授業科目	単位数	配当年次				
			1	2	3	4	
共通教育科目 保健体育科目	実技と理論（通年）	体育実習	2	○			
		スポーツ実習 A	2		○		
		スポーツ実習 B	2			○	
		スポーツ実習 C	2				○
	講義（半期）	スポーツと人体	2		○		
		スポーツと社会	2		○		

②各授業科目の概要

ア) 体育実習（実技と理論：1年次）

主に実技を中心として行われる授業であり、開講されている各種目の合理的実践を通して、スポーツや運動に親しみながら、身体運動の幅広い知識を身に付けるとともに、生涯スポーツの獲得を目指す。

イ) スポーツ実習（実技と理論：2～4年次：毎年履修可）

主に実技を中心として行われる授業であり、開講されている各種目の合理的実践を通して、身体運動、特に各スポーツ種目特有の技術の仕組みやその理論を深めるとともに、技術の向上を図ることをねらいとしている。施設などの諸事情により、A、B、Cの合同授業としている。

ウ) スポーツと人体・スポーツと社会（講義）

講義を中心として行われる授業（1～4年次開設の選択科目）であり、身体や身体運動の基本的な方法論とその機能的側面や歴史的・社会的・文化的側面に関する理論を教授し、それを通して学問的な思考態度を養うことをねらいとしている。

(3) 体育実習スポーツ実習の種目と評価

① 体育実習の種目、定員および準備するもの

種目コード	種目	定員	準備する衣服・用具
01	柔道	20	柔道着
04	剣道	15	剣道着・袴
06	合気道	20	合気道着（柔道着可）
37	空手道	20	空手道着
12	サッカー	40	サッカーを行うのに相応しいウエアとシューズ
14	バレーボール	30 (40)	バレーボールを行うのに相応しいウエアとシューズ
15	バスケットボール	33	バスケットボールを行うのに相応しいウエアとシューズ
16	バドミントン	30	バドミントンを行うのに相応しいウエアとシューズ
17	卓球	40	卓球を行うのに相応しいウエアとシューズ
26	ニュースポーツ	26	運動を行うのに相応しいウエアとシューズ
31	T. E.	若干名	運動を制限されている学生の授業 (個々の身体的条件に適する諸運動を行う)
32	フィジカルコンディショニング (ボディメイクエクササイズ)	32	運動を行うのに相応しいウエアとシューズ
38	アクアフィットネス	25	水着、スイミングキャップ、ゴーグル
39	ダンスエクササイズ	35	運動を行うのに相応しいウエアとシューズ
40	ピラティス (呼吸法・体幹エクササイズ)	32	運動を行うのに相応しいウエアとシューズ
41	ヘルスケアトレーニング	25	運動を行うのに相応しいウエアとシューズ、タオル(2枚)
42	フィジカルトレーニング	40	運動を行うのに相応しいウエアとシューズ、タオル(2枚)

() の定員は体育武道館 3 階アリーナで開講する場合の定員

※「T.E.」は、一般の種目の実施が難しい身体的・精神的状況の場合に限り履修が可能となるので、診断書を提出するとともに、自己の症状について担当教員へ詳細に説明すること。

②体育実習の評価

体育実習の評価は、技能程度・進歩度、理解（ペーパーテストなど）、態度、運動の実践状況等によって総合評価するが、とりわけ実践状況を重視する。

(4)スポーツ実習の種目、定員および準備するもの

世田谷キャンパス	種目コード	種目	定員	準備する衣服・用具
	01	柔道	20	柔道着
	04	剣道	15	剣道着、袴
	06	合気道	20	合気道着（柔道着可）
	12	サッカー	45	サッカーを行うのに相応しいウエアとシューズ
	14	バレーボール	(45)	バレーボールを行うのに相応しいウエアとシューズ
	15	バスケットボール	33	バスケットボールを行うのに相応しいウエアとシューズ
	16	バドミントン	(40)	バドミントンを行うのに相応しいウエアとシューズ
	17	卓球	40	卓球を行うのに相応しいウエアとシューズ
	22	スキー（秋期から学内で授業＋集中授業）	20	運動を行うのに相応しいウエアとシューズ
	32	フィジカルコンディショニング	32	運動を行うのに相応しいウエアとシューズ
38	アクアフィットネス	25	水着、スイミングキャップ、ゴーグル	

() の定員は体育武道館 3 階アリーナで開講する場合の定員

町田キャンパス	01	柔道	40	柔道着
	11	テニス	32	テニスを行うのに相応しいウエアとシューズ
	12	サッカー	40	サッカーを行うのに相応しいウエアとシューズ
	14	バレーボール	40	バレーボールを行うのに相応しいウエアとシューズ
	15	バスケットボール	40	バスケットボールを行うのに相応しいウエアとシューズ
	16	バドミントン	40	バドミントンを行うのに相応しいウエアとシューズ
	20	ゴルフ	25	ゴルフを行うのに相応しいウエアとシューズ、手袋、帽子
	22	スキー（秋期から学内で授業＋集中授業）	20	運動を行うのに相応しいウエアとシューズ
	34	複合スポーツ	30	運動を行うのに相応しいウエアとシューズ

①スポーツ実習の評価

スポーツ実習の評価は、技能程度・進歩度、理解（ペーパーテストなど）、態度、運動の実践状況等によって総合評価するが、とりわけ技能を重視する。

2 外国語科目

(1) 外国語科目のねらい

外国語を知ること、自分の国やその中で育った自分自身を違った角度から見つめることとなる。大学に入学したのを機に、さらに英語の力に研ぎをかけると共に、ぜひもう一つの新たな外国語にも触れることを強く勧める。それによって、より一層、多角的な視点を身につけることができるだろう。また、外国語の力を養うことで、外国語で発信された各人の専門領域についての情報を入手できるようになり、その分野における知識を深めることにもなる。

これらのことを考慮し、どの言語を学びたいかよく考え、以下の外国語の履修要領やシラバスを参考に履修する科目を選んでほしい。

(2) 外国語科目の履修要領

①単位

外国語科目は基本的に1科目1単位、卒業所要単位8単位である。8単位を超えて取得した単位は、学部ごとに以下の扱いとなる。

- ・政経学部：共通教育科目と外国語科目の30単位の区分あるいは自由選択枠
- ・理工学部：自由選択枠
- ・法学部：自由選択枠
- ・文学部：共通教育科目
- ・経営学部：自由選択枠

②言語コース

外国語履修には、1言語コースと2言語コースが用意されている。1言語コースは英語（留学生は日本語）のみ8単位を履修する。2言語コースは英語4単位（留学生は日本語）と、ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・スペイン語・ロシア語から1つ選択した第2外国語4単位を履修する。1年次の履修登録時にいずれかのコースを選択する。

(1 言語コース)

	1 年次履修科目	2 年次履修科目
一般の学生	「英語 1」*・「英語 2」*	「英語 3」*・「英語 4」*
	英語選択科目	英語選択科目
留学生	「日本語リーディング 1・2」* 「日本語ライティング 1・2」*	日本語選択科目
	日本語選択科目	

- ・*のついた科目は指定クラス。履修登録時には、指定されたクラスを履修登録する。
- ・選択科目は「(3)-② 選択科目」を参照。

(2 言語コース)

	1 年次履修科目	2 年次履修科目
一般の学生	「英語 1」*・「英語 2」*	「英語 3」*・「英語 4」*
	第 2 外国語〇〇語 1・〇〇語 2	第 2 外国語〇〇語選択科目
留学生	「日本語リーディング 1・2」* 「日本語ライティング 1・2」*	日本語選択科目
	第 2 外国語〇〇語 1・〇〇語 2	第 2 外国語〇〇語選択科目

- ・*のついた科目は指定クラス。履修登録時には、指定されたクラスを履修登録する。
- ・留学生の第 2 外国語には、英語も含まれる。
- ・選択科目は「(3)-② 選択科目」を参照。

(言語コース組み合わせ表)

一般の学生	英語のみ (8 単位)		留学生	日本語のみ (8 単位)	
	英語 (4 単位)	ドイツ語 (4 単位)		日本語 (4 単位)	英語 (4 単位)
	英語 (4 単位)	フランス語 (4 単位)		日本語 (4 単位)	ドイツ語 (4 単位)
	英語 (4 単位)	中国語 (4 単位)		日本語 (4 単位)	フランス語 (4 単位)
	英語 (4 単位)	韓国語 (4 単位)		日本語 (4 単位)	中国語 (4 単位)
	英語 (4 単位)	スペイン語 (4 単位)		日本語 (4 単位)	韓国語 (4 単位)
	英語 (4 単位)	ロシア語 (4 単位)		日本語 (4 単位)	スペイン語 (4 単位)
		日本語 (4 単位)	ロシア語 (4 単位)		

- ・2 言語コースでは、2 つの言語を各 4 単位以上ずつ履修する。たとえば、「英語 5 単位 + ドイツ語 3 単位」では、8 単位を満たしているものの、各言語 4 単位以上を満たしていないので、卒業が認められない。
- ・留学生が 2 言語コースを選択する場合、第 2 言語として母語を選択することはできない。
- ・留学生が 2 言語コースを選択する場合、英語選択科目は「英語 1」～「英語 4」に代替できる。
- ・選択した言語コースは原則変更できない。3 年次以降、正当な理由がある場合に限り 1 回の変更を認める。なお、言語コース・組合せの変更を希望する場合には、あらかじめ学部担当教員（学年担任等）に相談のうえ、教務課で申請手続きを行う。
- ・選択した言語コースにないその他の言語（第 3 言語）は、外国語科目の卒業所要単位 8 単位を取得し終えた後に履修することができ、学部ごとに以下の扱いとなる。
 - ・政経学部：「その他の外国語」として共通教育科目と外国語科目の 30 単位の区分あるいは自由選択枠

- ・理工学部：自由選択枠
- ・法学部：自由選択枠
- ・文学部：共通教育科目
- ・経営学部：自由選択枠

履修を希望する場合は、「他学部・他学科：第3言語科目履修申込書」に記入し、教務課で申請する。

(3) 外国語科目

外国語科目は以下の通り。開講学期や科目の詳細については、『外国語学習情報サイト』(<https://homepage.kokushikan.ac.jp/gaikokugo/index/html>) およびシラバスで確認する。

① 必修科目

[1 年次配当必修科目]

言語	科目名	単位	先修条件・その他
英語	英語 1*	1	なし 政経学部では選択科目
	英語 2*	1	英語 1 (理工学部のみ) 政経学部では選択科目
ドイツ語	ドイツ語 1	1	なし
	ドイツ語 2	1	「ドイツ語 1」の単位を取得済み
フランス語	フランス語 1	1	なし
	フランス語 2	1	「フランス語 1」の単位を取得済み
中国語	中国語 1	1	なし
	中国語 2	1	「中国語 1」の単位を取得済み
韓国語	韓国語 1	1	なし
	韓国語 2	1	「韓国語 1」の単位を取得済み
スペイン語	スペイン語 1	1	なし
	スペイン語 2	1	なし
ロシア語	ロシア語 1	1	なし
	ロシア語 2	1	なし
日本語	日本語リーディング 1*	1	なし・留学生のみ履修可
	日本語リーディング 2*	1	なし・留学生のみ履修可
	日本語ライティング 1*	1	なし・留学生のみ履修可
	日本語ライティング 2*	1	なし・留学生のみ履修可

・*の付された科目はクラス指定。履修登録時には、指定されたクラスを履修登録する。

・それ以外の科目は、時間割に掲載されているクラスの中から選択して履修する。なお、「〇〇語 1」「〇〇語 2」に代えて、「〇〇語インテンシヴ 1」を履修してもよい。

〔2 年次配当必修科目〕

言語	科目名	単位	先修条件・その他
英語	英語 3	1	英語 2（理工学部のみ） 政経学部では選択科目
	英語 4	1	英語 3（理工学部のみ） 政経学部では選択科目

・* の付された科目はクラス指定。履修登録時には、指定されたクラスを履修登録する。

② 選択科目

〔1～4 年次配当選択科目〕

言語	科目名	単位	先修条件・その他
英語	TOEIC Listening & Reading 1	1	なし・レベル別クラス設定
	TOEIC Listening & Reading 2	1	なし・レベル別クラス設定
	英会話 1	1	なし
	英会話 2	1	なし
	英語プレゼンテーション・スキル	1	なし
	英語ライティング・スキル	1	なし
	英語リスニング・スキル	1	なし
	英語リーディング・スキル	1	なし
ドイツ語	ドイツ語インテンシヴ 1	2	なし
	ドイツ語インテンシヴ 2	2	「ドイツ語インテンシヴ 1」または「ドイツ語 2」の単位を取得済み
	ドイツ語会話 1	1	なし
	ドイツ語会話 2	1	なし
フランス語	フランス語インテンシヴ 1	2	なし
	フランス語インテンシヴ 2	2	「フランス語インテンシヴ 1」または「フランス語 2」の単位を取得済み
	フランス語会話 1	1	なし
	フランス語会話 2	1	なし
中国語	中国語インテンシヴ 1	2	なし
	中国語インテンシヴ 2	2	「中国語インテンシヴ 1」または「中国語 2」の単位を取得済み
	中国語会話 1	1	なし
	中国語会話 2	1	なし
韓国語	韓国語インテンシヴ 1	2	なし
	韓国語インテンシヴ 2	2	「韓国語インテンシヴ 1」または「韓国語 2」の単位を取得済み
	韓国語会話 1	1	なし
	韓国語会話 2	1	なし
スペイン語	スペイン語会話 1	1	なし
	スペイン語会話 2	1	なし
日本語	日本語スピーキング 1	1	なし・留学生のみ履修可
	日本語スピーキング 2	1	なし・留学生のみ履修可

- ・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語のインテンシヴ科目は週2回の授業を履修することで、それぞれの外国語の速習を目指すクラスである。「〇〇語インテンシヴ1」は「〇〇語1」および「〇〇語2」に相当し、「〇〇語インテンシヴ2」は「〇〇語3」および「〇〇語4」に相当する。したがって、インテンシヴ科目の単位を取得した場合は、「〇〇語1」～「〇〇語4」を履修しても重複しての単位認定は行われない。
- ・「TOEIC Listening & Reading 1」および「TOEIC Listening & Reading 2」には先修条件はないが、レベル別のクラス設定になっているので、各自の TOEIC Bridge®（または TOEIC®）のスコアを確認し、適切なレベルのクラスを履修する。

〔2 年次配当選択科目〕

言語	科目名	単位	先修条件・その他
ドイツ語	ドイツ語 3	1	「ドイツ語 2」または「ドイツ語インテンシヴ 1」の単位を取得済み
	ドイツ語 4	1	「ドイツ語 3」の単位を取得済み
フランス語	フランス語 3	1	「フランス語 2」または「フランス語インテンシヴ 1」の単位を取得済み
	フランス語 4	1	「フランス語 3」の単位を取得済み
中国語	中国語 3	1	「中国語 2」または「中国語インテンシヴ 1」の単位を取得済み
	中国語 4	1	「中国語 3」の単位を取得済み
韓国語	韓国語 3	1	「韓国語 2」または「韓国語インテンシヴ 1」の単位を取得済み
	韓国語 4	1	「韓国語 3」の単位を取得済み
スペイン語	スペイン語 3	1	なし
	スペイン語 4	1	なし
ロシア語	ロシア語 3	1	なし
	ロシア語 4	1	なし

〔2～4 年次配当選択科目〕

言語	科目名	単位	先修条件・その他
ドイツ語	ドイツ語スキルアップ A	1	ドイツ語科目 4 単位を取得済み
	ドイツ語スキルアップ B	1	
	ドイツ語スキルアップ C	1	
	ドイツ語スキルアップ D	1	
フランス語	フランス語スキルアップ A	1	フランス語科目 4 単位を取得済み
	フランス語スキルアップ B	1	
	フランス語スキルアップ C	1	
	フランス語スキルアップ D	1	
中国語	中国語スキルアップ A	1	中国語科目 4 単位を取得済み
	中国語スキルアップ B	1	
	中国語スキルアップ C	1	
	中国語スキルアップ D	1	

韓国語	韓国語スキルアップ A	1	韓国語科目 4 単位を取得済み
	韓国語スキルアップ B	1	
	韓国語スキルアップ C	1	
	韓国語スキルアップ D	1	
日本語	時事日本語 1	1	なし・留学生のみ履修可
	時事日本語 2	1	なし・留学生のみ履修可
	ビジネス日本語 1	1	なし・留学生のみ履修可
	ビジネス日本語 2	1	なし・留学生のみ履修可
	日本語スキルアップ 1	1	なし・留学生のみ履修可
	日本語スキルアップ 2	1	なし・留学生のみ履修可

(4) 先修条件（科目履修順）

以下の科目については、単位取得の順序が定められている。これを先修条件という。

- ・理工学部の「英語 1～4」
- ・全学部のドイツ語・フランス語・中国語・韓国語の「〇〇語 1～4」「〇〇語インテンシヴ 1～2」「〇〇語スキルアップ」

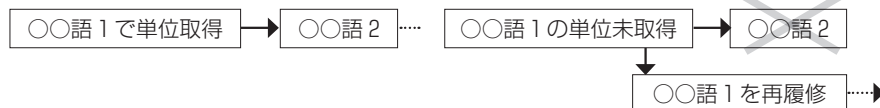
先修条件のある科目は以下の順序で履修し単位を取得すること。順序を飛び越えた履修や単位取得は認められていない。

「〇〇語 1」単位取得→「〇〇語 2」単位取得→「〇〇語 3」単位取得→「〇〇語 4」

「〇〇語インテンシヴ 1」単位取得→「〇〇語インテンシヴ 2」

4 単位取得 → 「〇〇語スキルアップ」

* 先修条件のある科目の履修順序例



政経学部・法学部・文学部・経営学部では、「英語 1～4」に先修条件はない。例えば、1 年次春期に「英語 1」が不合格だった場合、1 年次秋期に「英語 2」を指定クラスで履修すると並行して、「英語 1」の再履修科目を登録し履修することができる。

(5) 海外演習（1～4 年次配当科目）

国際交流センターが実施する「海外演習」に参加し所定の成績を修めることにより単位を認定する。（1 科目 2 単位を卒業所要単位に算入する。）なお、学部ごとに以下の扱いとなる。

- ・政経学部：自由選択枠
- ・理工学部：自由選択枠
- ・法学部：自由選択枠
- ・文学部：共通教育科目
- ・経営学部：自由選択枠

言語	科目名	研修先	研修時期	単位
英語	海外演習（英語）	米・ニューヨーク	夏季	2
		米・カリフォルニア	春季	2
		カナダ	夏季	2
		オーストラリア	春季	2
中国語	海外演習（中国語）	中国	夏季	2
韓国語	海外演習（韓国語）	韓国	夏季	2

- ・学年が異なれば、複数回履修し、その都度単位を取得できる。その際、科目名は単位を取得した研修の回数に応じて「海外演習 1（〇〇語）」「海外演習 2（〇〇語）」というように順に番号が付される。
- ・春季に実施される研修は、4 年次には卒業所要単位として認定されない。
- ・研修の詳細については、国際交流センターに問い合わせる。

(6) 外国語検定試験による単位認定（1～4 年次配当科目）

- ・外国語の検定試験で一定の成績を収めることにより単位を認定する。（1 科目 1 単位（最大 4 科目 4 単位）を卒業所要単位に算入する。）なお、学部ごとに以下の扱いとなる。
 - ・政経学部：自由選択枠
 - ・理工学部：外国語選択科目
 - ・法 学 部：自由選択枠
 - ・文 学 部：共通教育科目
 - ・経営学部：自由選択枠
- ・認定対象は、入学後、かつ過去 1 年間に受験し取得した資格とする（ただし、学内で受験した TOEIC® のスコアは単位認定の対象としない）。
- ・評価は行わず「可否」による単位認定とする。
- ・同一言語で、同一の基準の資格を複数取得しても、重複しての認定は行わない。
- ・認定を受ける当該学生が検定結果の証明書を提示の上、教務課に申請する。申請期限を 7 月末、1 月末とする。
- ・認定された単位は年間履修単位に含まれる。

◆認定対象科目（各1単位）及び認定基準

認定者：教務主任

認定科目名	認定対象検定試験とレベル	TOEFL			英検	IELTS	ケンブリッジ英検	国連英検
		iBT	CBT	PBT				
検定英語 1	400以上	40以上	120以上	433以上	準2級	4.0以上	-	D級
検定英語 1, 2	450以上	45以上	135以上	455以上	2級	-	PET	-
検定英語 1, 2, 3	500以上	50以上	150以上	470以上	-	4.5以上	-	C級
検定英語 1, 2, 3, 4	550以上	55以上	163以上	487以上	準1級、1級	5.5以上	FCE	B級, A級, 特A級

認定科目名	認定対象検定試験とレベル
検定ドイツ語 1	独検 4級 Start Deutsch 1
検定ドイツ語 1, 2	独検 3級 Start Deutsch 2
検定ドイツ語 1, 2, 3	独検 2級 Goethe-Zertifikat B1
検定ドイツ語 1, 2, 3, 4	独検 1級以上 Goethe-Zertifikat B2以上

認定科目名	認定対象検定試験とレベル
検定フランス語 1	仏検 4級
検定フランス語 1, 2	仏検 3級 DELF A1
検定フランス語 1, 2, 3	仏検準2級 DELF A2
検定フランス語 1, 2, 3, 4	仏検 2級以上 DELF B1以上

認定科目名	認定対象検定試験とレベル
検定中国語 1	中国語検定 4級 HSK 筆記試験 2級
検定中国語 1, 2	中国語検定 3級 HSK 筆記試験 3級
検定中国語 1, 2, 3	中国語検定 2級 HSK 筆記試験 4級 HSK 口頭試験中級
検定中国語 1, 2, 3, 4	中国語検定準1級以上 HSK 筆記試験 5級以上 (180点以上) HSK 口頭試験高級

認定科目名	認定対象検定試験とレベル
検定韓国語 1	ハングル検定 4級 TOPIK (韓国語能力試験) 2級
検定韓国語 1, 2	ハングル検定 3級 TOPIK (韓国語能力試験) 3級
検定韓国語 1, 2, 3	ハングル検定 準2級 TOPIK (韓国語能力試験) 4級
検定韓国語 1, 2, 3, 4	ハングル検定 2級 TOPIK (韓国語能力試験) 5級以上

(7) 外国語科目の配当表

		1年次		2年次		3年次		4年次		卒業 所要 単位	
		科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位		
英語	註1 参照	英語 1	1	英語 3	1						
		英語 2	1	英語 4	1						
	選択	TOEIC Listening & Reading 1						1			
		TOEIC Listening & Reading 2						1			
		英会話 1						1			
		英会話 2						1			
		英語プレゼンテーション・スキル						1			
		英語ライティング・スキル						1			
		英語リスニング・スキル						1			
	註2 参照	英語リーディング・スキル						1			
		海外演習 (英語)						2			
	ドイツ語	必修	通常	ドイツ語 1	1						
			速修	ドイツ語 2	1						
			ドイツ語インテンシヴ 1	2							
選択		ドイツ語インテンシヴ 2	2	ドイツ語 3	1						
		ドイツ語会話 1	1	ドイツ語 4	1						
		ドイツ語会話 2	1								
				ドイツ語スキルアップ A・B・C・D				各 1			
フランス語	必修	通常	フランス語 1	1							
		速修	フランス語 2	1							
		フランス語インテンシヴ 1	2								
	選択	フランス語インテンシヴ 2	2	フランス語 3	1						
		フランス語会話 1	1	フランス語 4	1						
		フランス語会話 2	1								
				フランス語スキルアップ A・B・C・D				各 1			
中国語	必修	通常	中国語 1	1							
		速修	中国語 2	1							
		中国語インテンシヴ 1	2								
	選択	中国語インテンシヴ 2	2	中国語 3	1						
		中国語会話 1	1	中国語 4	1						
		中国語会話 2	1								
				中国語スキルアップ A・B・C・D				各 1			
註2 参照	海外演習 (中国語)						2				
韓国語	必修	通常	韓国語 1	1							
		速修	韓国語 2	1							
		韓国語インテンシヴ 1	2								
	選択	韓国語インテンシヴ 2	2	韓国語 3	1						
		韓国語会話 1	1	韓国語 4	1						
		韓国語会話 2	1								
				韓国語スキルアップ A・B・C・D				各 1			
註2 参照	海外演習 (韓国語)						2				
スペイン語	必修	スペイン語 1	1								
		スペイン語 2	1								
	選択	スペイン語会話 1	1	スペイン語 3	1						
		スペイン語会話 2	1	スペイン語 4	1						
ロシア語	必修	ロシア語 1	1								
		ロシア語 2	1								
	選択			ロシア語 3	1						
				ロシア語 4	1						
日本語 (註3 参照)	必修	日本語リーディング 1	1								
		日本語リーディング 2	1								
		日本語ライティング 1	1								
		日本語ライティング 2	1								
	選択							1			
								1			
						時事日本語 1		1			
						時事日本語 2		1			
				ビジネス日本語 1		1					
				ビジネス日本語 2		1					
				日本語スキルアップ 1		1					
				日本語スキルアップ 2		1					

8 単位

註1 政経学部では選択科目、理工・法・文・経営学部では必修科目。
 註2 政経・理工・法・経営学部では自由選択枠、文学部では共通教育科目。
 註3 日本語は留学生のみ履修可。

3 専門科目

理工学科共通必修科目

■ 1 年次配当科目

授業科目	期	単位
コンピュータリテラシー A	半期	2
キャリアデザイン A	半期	2
技術者倫理	半期	2

■ 2 年次配当科目

授業科目	期	単位
キャリアデザイン B	半期	1

■ 4 年次配当科目

授業科目	期	単位
卒業研究	通年	4

理工学基礎科目群*

■ 1 年次配当科目

授業科目	期	単位
(機械工学系)		
機械の基礎 △	半期	3

(電子情報学系)

電子情報の基礎および演習 A	半期	3
電子情報の基礎および演習 B	半期	3

(建築学系)

建築基礎演習 #	半期	1
----------	----	---

(まちづくり学系)

まちづくり概論	半期	1
まちづくり基礎演習	半期	1

(人間情報学系)

人間情報学基礎演習 A	半期	1
人間情報学基礎演習 B	半期	1

(基礎理学系)

基礎理学演習	半期	1
--------	----	---

* 理工学基礎科目群は学系により必修の指定がある。

詳細は各学系の必修科目のページで確認すること。

履修制限科目

△実験・実習設備を使用するために履修制限を行う。

機械工学系の学生を優先する。

配当科目表のみかた

配当科目表 (P32 ~ P36) には、理工学科が開講する専門科目 (選択科目) を年次ごとに記載している。これらの専門科目は、すべてが選択科目ではなく、各学系ごとに必修科目・選択必修科目・選択科目の区分があるので、履修に際しては必ず各学系のページを確認すること。(P42 ~ P89)。

また、表の「学系」の欄は、講義を担当する学系を示すが、理工学科の学生はどの科目 (履修制限科目は除く) も履修できる。履修登録の際は、各学系の履修モデルを参考にすること。なお、「学系」の欄と学系の対応関係は下記のとおりである。

共通：理工学科共通選択科目	機械：機械工学系
電情：電子情報学系	建築：建築学系
まち：まちづくり学系	人情：人間情報学系
基理：基礎理学系	

各専門科目のうち、教職科目 (教員免許取得希望者用) と履修制限がある科目については、それぞれ下記に示すマークを記している。

* : 教職科目 (教員免許取得希望者用)

: 履修制限のある科目 (担当学系に所属している学生のみ履修可能)

1 年次配当科目

学系	授業科目	単位
共通	ものづくり基礎 A	1
	ものづくり基礎 B	1
	基礎数学 A1	2
	基礎数学 B1	2
	基礎数学 A2	2
	基礎数学 B2	2
	線形代数 A	2
	線形代数 B	2
	基礎力学 A	2
	基礎力学 B	2
	基礎化学 A	2
	基礎化学 B	2
	物理実験※	2
	基礎化学実験※	1
コンピュータリテラシー B	2	

(1) 基礎数学A、基礎数学Bについて

「基礎数学 A 2」を履修後に「基礎数学 A 1」を履修することは原則としてできない。また「基礎数学 A 2」と「基礎数学 A 1」を同一年度に履修することもできない。「基礎数学 B 2」と「基礎数学 B 1」も同様である。

(2) 線形代数概論A、Bと線形代数A、Bについて

「線形代数概論 A」の単位取得後に「線形代数 A」を履修することはできない。また「線形代数概論 A」と「線形代数 A」は同一年度に履修することもできない。「線形代数概論 B」と「線形代数 B」も同様である。

※物理実験、基礎化学実験の履修について

- ・同一年度に2度履修することはできない。
- ・学系によって開講する曜日と時限が異なる。
- ・1年生は春期か秋期のどちらかで履修するか指定する。

学系	授業科目	単位
機械	機械工学概論	2
	機械設計製図および DTPD A [△]	1
	機械設計製図および DTPD B [#]	2
電情	コンピュータ操作演習 [#]	2
	スクリプト言語プログラミング [#]	2
	情報技術者演習 A	1
建築	建築意匠概論	2
	福祉住環境	2
	造形基礎演習 A [#]	1
	造形基礎演習 B [#]	1
	設計基礎演習 A [#]	1
	設計基礎演習 B [#]	1
	建築構法	2
建築の力とかたち	1	
まち	景観デザインの基礎 A	1
	景観デザインの基礎 B	1
	測量学	2
	測量実習 A	2
	測量実習 B	2
	構造力学及び演習 A	3
人情	設計製図 A	1
	人間情報学序論	2
	医学概論	2
	医学各論 A	2
基理	数学基礎演習 [#]	1
	線形代数概論 A	2
	線形代数概論 B	2
	力学	2
	特別活動の理論と実践*	2
	道德教育の理論と実践*	2

* 教職科目（教員免許取得希望者用）

履修制限科目

△ 実験・実習設備を使用するために履修制限を行う。

機械工学系の学生を優先する。

2 年次配当科目

学系	授業科目	単位	学系	授業科目	単位	学系	授業科目	単位
共通	C プログラミング入門	2	建築	建築デザイン B	2	人情	人間情報学 A	2
	C プログラミング応用	2		インテリア・デザイン A	2		人間情報学技術実験	2
	科学技術と知的財産法	2		建築実務 CAD #	2		人間情報学基礎実験	2
	スクリプト言語プログラミング	2		設計演習 1 a #	2		医学各論 B	2
	理工系の数理解析 A	2		設計演習 1 b #	2		医学各論 C	2
	理工系の数理解析 B	2		建築計画	2		人間情報処理演習 A	1
化学実験	2	住居論		2	人間情報処理演習 B		1	
機械	工業熱力学 A	2		日本建築史 A	2		生理学	2
	工業熱力学 B	2		日本建築史 B	2		生化学	2
	流体力学 A	2		建築デザイン A	2		認知科学概論 A	2
	流体力学 B	2		都市計画	2		認知科学概論 B	2
	機械力学 A	2		建築福祉医療	2		機能解剖学	2
	機械力学 B	2	建築ユニバーサルデザイン	2	医療機器学	2		
	材料力学 A	2	建築環境工学	2	医療情報学	2		
	材料力学 B	2	建築設備工学 A	2	医療管理	2		
	材料力学 C	2	建築構造力学 A	2	基理	解析学精義 A	2	
	機械設計製図および DTPD C #	2	建築構造力学 B	2		解析学精義 B	2	
	機械設計製図および DTPD D #	2	建築構造力学演習 A	1		解析学 A	2	
	機械設計製作プロジェクト A #	2	建築構造力学演習 B	1		解析学 B	2	
	機械設計製作プロジェクト B #	2	建築構造材料	2		解析学 C	2	
	基礎電子回路	2	建築材料実験 #	1		解析特論 A	2	
木材加工 A	2	建築施工法 A	2	行列表論 A		2		
木材加工 B	2	建築生産	2	行列表論 B		2		
電情	電子情報実験 A #	2	まち	設計製図 B		1	代数学 A	2
	電子情報実験 B #	2		構造力学及び演習 B		3	代数学 B	2
	電磁気学 A と演習	3		水理学及び演習		3	幾何学 A	2
	電磁気学 B	2		景観デザイン A		2	代数学幾何学精義	2
	回路理論 A と演習	3		景観デザイン B	2	論理と集合	2	
	回路理論 B	2		土質力学 A	2	確率論	2	
	電気数学 A	2		まちづくりの計画と進め方 A	2	統計学	2	
	電気数学 B	2		まちづくりの計画と進め方 B	2	数情報入門	2	
	電気製図	2		防災まちづくり	2	情報と符号化 A	2	
	制御工学	2		ランドスケープデザイン	2	情報と符号化 B	2	
	電気電子計測 A	2	コンクリート工学及び演習	3	熱・統計力学	2		
	電気電子計測 B	2	まちづくりの実際	2	基礎量子力学	2		
	コンピュータ工学	2			基礎電磁気学	2		
	情報技術概論	2			振動と波動	2		
	メディアコンテンツ演習	1			無機化学	2		
	情報と職業 A	2			有機化学	2		
	情報と職業 B	2			生物学 A	2		
	情報社会及び情報倫理	2			生物学 B	2		
	情報理論	2			地球科学 A	2		
	社会と情報システム	2			地球科学 B	2		
アルゴリズムとデータ構造	2			環境科学 A	2			
オペレーティングシステム	2			環境科学 B	2			
デジタル信号処理	2			生物学実験	2			
				地学実験※	2			
				教育心理学*	2			
				教職論*	2			
				教育方法論 (情報通信技術の活用を含む) *	2			
				生徒・進路指導論*	2			

※地学実験の履修について
 ・同一年度に2度履修することはできない。
 ・春期か秋期のどちらで履修するか指定する。

*教職科目 (教員免許取得希望者用)
 #履修制限科目

3 年次配当科目

学系	授業科目	単位	学系	授業科目	単位	学系	授業科目	単位
共通	ゼミナールA	1	電情	パターン認識	2	人情	人間情報学B	2
	ゼミナールB	1		画像音響処理	2		人間情報学C	2
	インターンシップ	2		コンピュータグラフィックス	2		人間情報学実験A	2
	キャリアデザインC	2		データベース	2		人間情報学実験B	2
機械	JAVA プログラミング	2	ソフトウェア工学A	2	脳科学概論		2	
	機械設計製図およびDTPD E#	2	ソフトウェア工学B	2	統計処理論		2	
	機械設計製作プロジェクトC#	2	ソフトウェア工学B	2	ニューロテクノロジー		2	
	研究開発プロジェクト基礎#	2	オブジェクト指向設計	2	言語情報論A		2	
	機械工学実験^	2	住環境の心理学	2	言語情報論B		2	
	計測工学	2	広域・都市環境論	2	身体動作学		2	
	冷凍及び空気調和	2	インテリア・デザインB	2	生体計測論		2	
	機械材料工学	2	西洋建築史	2	トレーニング情報科学		2	
	機構学	2	都市デザイン	2	神経生理学	2		
	生産加工学	2	3DプレゼンテーションCAD	2	生体情報システムA	2		
	自動車デザイン	2	建築福祉の調査統計	2	生体情報システムB	2		
	自動車工学	2	設計演習2#	2	医療情報システムA	2		
	車両運動学	2	設計演習3#	2	医療情報システムB	2		
	メカトロニクス	2	建築設備製図	2	診療情報学	2		
	伝熱工学	2	建築構造製図	2	医用流体工学	2		
	流体工学	2	建築と人間工学	2	医用工学特別講義	2		
	エンジン工学	2	近代建築論	2	生体エネルギー応用論	2		
	エネルギー工学	2	未来建築論	2	数学特別演習	1		
	環境工学	2	建築環境・生理学実験	2	解析学D	2		
	基礎ロボット工学	2	建築設備工学B	2	解析学E	2		
基礎ロボットプログラミング	2	建築地震工学	2	解析特論B	2			
モデルベース開発基礎	2	建築構造力学C	2	解析特論C	2			
電情	電気機器A	2	建築の利用と再生	2	代数学C	2		
	電気機器B	2	構造デザインと材料力学	2	幾何学B	2		
	電力工学	2	建築構造設計A	2	幾何学C	2		
	電気電子材料A	2	建築構造設計B	2	アルゴリズム論□	2		
	電気電子材料B	2	建築仕上材料	2	素粒子と宇宙	2		
	電気電子工学実験A#	2	建築施工法B	2	相対性理論	2		
	電気電子工学実験B#	2	建築仕様積算	2	放射線科学概論	2		
	過渡現象論	2	建築材料施工演習*	2	原子・分子の科学	2		
	電子回路	2	建築の法規	2	生命科学	2		
	マイクロ波・光工学	2	まちづくりフィールド演習	1	固体地球物質科学	2		
	通信工学	2	空間情報学	2	地球惑星発達史	2		
	電磁波工学	2	まちづくりの交通計画	2	教育課程論*	2		
	デジタル通信	2	構造物設計演習	1	教育行財政*	2		
			建設材料・構造実験	2	教育相談*	2		
			土質力学B	2	物理化学	2		
			土質実験	2	計算科学入門	2		
		まち						
		都市緑地計画学	2					
		河川工学	2					
		河川環境とまちづくり	2					
		土木施工	2					
		公共空間デザイン演習	2					
		維持管理工学	2					
		まちづくりの調査解析	2					
		力学総合演習	1					

* 教職科目 (教員免許取得希望者用)

履修制限科目

□ 端末室を使用するために履修制限を行う。数学教員免許取得希望者および、基礎理学系の学生を優先する。

△ 実験・実習設備を使用するために履修制限を行う。機械工学系の学生を優先する。

4 年次配当科目

学系	授業科目	単位
電情	電波法規	2
	電気法規及び施設管理	2
	パワーエレクトロニクス	2
	高電圧プラズマ工学	2

学系	授業科目	単位
建築	生活支援工学	2
	福祉施設計画	2
	建築安全防災計画	2
	福祉のまちづくり	2
	建築設備計画	2
	建築構造計画	2
	建築材料施工計画	2
まち	プロジェクト実践演習	2
人情	ニューラルネットワーク	2

4 副専攻

所属する学部・学科等の学び（主専攻）に加え、多様な関心や目的に応じて学部等の枠を超えた様々な知識や技能を体系的に幅広く修得することができる制度で、各副専攻において所定の要件を満たすと卒業時に修了証が発行できます。

【開設している副専攻】

■防災リーダー副専攻

災害に対応するための知識と技術を習得し、震災に際し迅速な初期行動や被災支援活動が行えることができるとともに、地域社会への貢献ができるリーダーの人材を養成することを目的としています。

■AI・データサイエンス副専攻（必修）

A I やデータサイエンスの知識と技能、創造的思考力を身につけ、卒業後の社会における A I やデータサイエンス活用の基礎力を育成します。また、統計学、プログラミング、データサイエンスについての基礎的な教養を基礎として、データに基づく問題解決の手法を学ぶことを目的とします。

理工学部では、AI・データサイエンス副専攻の修了認定を受けることが卒業要件に含まれているため必修です。この副専攻の修了認定には、「AI とサイエンス」、「データサイエンス基礎」、「データエンジニアリング基礎」、「AI 基礎」、「AI 基礎演習」の必修 5 科目 9 単位（P18 参照）を修得していることに加えて、理工学部専門科目の「基礎数学 A 1」、「基礎数学 A 2」、「基礎数学 B 1」、「基礎数学 B 2」から学系が指定した 2 科目計 4 単位を修得する必要があります。

終了認定要件

授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
AI とサイエンス	2	データサイエンス基礎	2	データエンジニアリング基礎	2
AI 基礎	2	AI 基礎演習	1	基礎数学 A1*	2
基礎数学 A2*	2	基礎数学 B1*	2	基礎数学 B2*	2

* 基礎数学 4 科目のうち学系が指定した 2 科目計 4 単位を修得

【副専攻の受講方法】

AI・データサイエンスの副専攻は必修のため申請は不要ですが、それ以外の副専攻の受講を希望する学生は、あらかじめ申請が必要です。詳しくは、学生ポータルサイト（Kaede-i）や講義支援システム（manaba）に掲載するお知らせや、年度初めのガイダンス等の説明資料で確認してください。

6

インターンシップ単位認定

1. インターンシップとは

大学在学中に、企業などで業務を体験しながら、組織の仕組みや業務の実情などを学んでいくことをインターンシップという。

実践的な職場体験を通して、問題意識の醸成と広い視野の取得を行い、将来設計に対する自己の価値観と目的意識を確立し、納得できるより良い職業選択を行える正しい職業観を構築することを目的とする。

理工学部では、3年次配当科目として、インターンシップの単位認定を申請できる。

2. 単位認定について

- ◎事前にキャリア形成支援センターで手続きをしたインターンシップのみが申請可能である。
- ◎事前教育の受講、一週間（5日以上）の企業研修および報告書の提出を行うことにより2単位が与えられる。
- ◎夏季休業期間中に実践した同一研修先での5日間以上の企業研修が単位認定の対象である。研修期間が1日でも春または秋学期にかかる場合は対象とはならないので注意すること。
- ◎夏季休業期間は春学期定期試験期間終了翌日から書類上で春学期が終わる9月15日までを指す。
- ◎この認定単位は年間履修単位数の上限48単位に含まれる。

3. 申請方法

- ◎事前にキャリア形成支援センターにて手続きをし、事前教育を受けたのち、夏季休業期間中にインターンシップに赴くこと。
- ◎インターンシップ修了後は速やかに報告書を提出すること。
- ◎インターンシップ研修中は指示にしたがって研修日誌を作成すること。
- ◎単位認定の申請は10月1日から11月末日に教務課にて行うこと。

4. 単位認定の流れ

時期	内容
5月上旬	キャリア形成支援センターからmanaba等を通じて案内がある
5月～7月	キャリア形成支援センターにて事前手続きを行う 事前教育を受ける
8月～9月15日	インターンシップに参加する（同一研修先で5日間以上） インターンシップ研修中、指示にしたがって日誌を作成する ※学生生活カレンダー（学年暦）を参照して必ず夏季休業期間中に実践すること。それ以外の期間でのインターンシップ研修は単位として認められない。
9月～10月末日	報告書を提出する
10月～11月末日	教務課にて単位認定のための申請を行う ※事前手続、事前教育、報告書、研修日誌（指示がある場合）等の提出や受講がない場合には単位申請は受理できないので注意すること。

7

教職課程

理工学部には教職課程が設けられており、所定の科目の単位を取得すれば、下記の教育職員免許状を取得することができる。

- 中学校一種 数学 理科 技術
- 高等学校一種 数学 理科 情報 工業

教職課程は、将来教職に就くことを志望する学生のために設けられている課程である。将来教職に就く意思もなく、資格さえ取ればいいといった安易な姿勢で教育職員免許状の取得を目指すことのないよう、将来の志望を十分検討した上で教職課程の受講手続きをすること。

受講手続きについては、1年次の4月に行われる「教職課程履修ガイダンス（説明会）」で説明される。希望者は必ず出席すること。

教職課程では卒業所要単位の124単位に入らない科目がある。それらの科目は年間履修単位の上限48単位（春期24単位、秋期24単位）を超えて履修できる。詳細は「教職課程履修ガイダンス」で配布される「教職課程履修要項」で確認すること。

8

他学部履修・学内聴講

他学部履修

他学部履修とは、自分が在籍する学部で開講されている科目の他に、学習・研究の達成度をより高めるために、他学部で開講されている科目を履修することである。

履修料は無料とする。

他学部履修制限科目

教職課程科目、実験・実習などの履修者を制限する必要がある科目、先修条件のある科目、その他各学部で定める科目など、他学部履修を受け付けることができない授業科目がある。他学部履修制限科目は毎年2月に各学部から発表されるので、他学部履修を希望する学生は確認すること。

取得単位の取り扱い

取得単位は理工学科の専門科目として認定される。また、取得した単位の8単位までが卒業所要単位として算入される。なお、他学部履修の単位も年間履修単位に含まれる。

手続き

2月 履修制限科目でないことを確認する。

3月 「他学部履修科目履修申込書」を作成し、指定された期日までに希望する科目を開講されている学部担当窓口に応じ込む。

4月 履修先学部の回答を確認し、在籍している学部で履修登録をする。

学内聴講

教職課程科目などの他学部履修制限科目であっても、学内聴講の制度で履修可能なものがある。
(聴講料が必要である)

原則として、取得単位は卒業所要単位には算入されない。

詳しくは、学部担当窓口で相談すること。

9

ボランティア活動に対する単位認定

大学又は学部が認めた「ボランティア活動」に対して、年度ごとに指定された期日までに所定の手続きを行ったうえで活動を行うことにより、単位を認定する。

(1) 認定する科目名と成績評価・単位

「ボランティア実践Ⅰ」「ボランティア実践Ⅱ」

「ボランティア実践Ⅲ」「ボランティア実践Ⅳ」 各1単位

※認定できる単位数は、年間1単位とし、在籍期間中最大4単位までとする。

※数字のⅠ～Ⅳは、活動申請回数によって付加する。

※履修上限単位からは除外する。

※成績評価は「認定」とし、卒業所要単位（全学共通教育科目の自由選択枠）に含める。

(2) 認定の対象となる活動

①大学が組織的取組として参加を認める活動：「災害関連」及び「オリンピック関連」

②学部が認める活動

※活動の詳細は、掲示やホームページ等で確認すること。

(3) 認定にあたっての注意事項

①当年度4月から1月末までの期間に参加した活動を対象とする。なお、2月から3月末までの期間に参加した活動については、次年度に単位認定するため、次年度に手続きを行うこと。

また、4年次学年末（春期休業期間中）に参加した活動については、単位認定しない。

②指定の手続きが完了しなければ、単位認定はされないので注意すること。

詳細の活動内容や具体的な手続き方法・期限については、年度ごとに掲示またはホームページを通じて周知するので、希望者は必ず確認すること。



学系の特色

1 機械工学系

2 電子情報学系

3 建築学系

4 まちづくり学系

5 人間情報学系

6 基礎理学系

機械工学系 の教育研究上の目的・方針

○ 教育研究上の目的

プロジェクト教育形式の実習授業を通じ、あらゆる工業分野に必要な機械工学について具体的に体得し、工業社会を支えることのできる人材の育成を目的とする。

1 特色

機械工学系では、機械技術の中心となる工学専門の基礎と応用を学ぶ。そして各年次で「ものづくり」を通じて専門知識を習得できる教育課程を構成している。この「ものづくり」力は、1年から4年を通して、専門科目で習得した知識を活かし、自ら問題を解決する力を養成するというPBL形式の授業で実現される。

機械工学の基礎となる専門科目は、材料力学、熱力学、流体力学、機械力学、設計製図、機械加工などである。これらの基礎科目を土台として、「もの」をつくる授業を進めるうちに、道具としての情報技術、設計技術、工作技術などを学ぶ。2年生では機械工学の基礎科目を、3年生では将来の進路に応じた応用分野の科目を選択履修し、4年生ではその集大成として卒業研究を行う履修モデルを設けている。2年生から専門分野の応用科目を学ぶことができ、自動車、エネルギー・環境、機械材料、設計などのより高度な機械工学を身につけられるように、多くの科目を配置している。

機械工学系では、こうした教育課程を通して、工学の基礎と、自ら問題を解決する能力とをしっかりと身につけ、将来実務に携わったとき、改善力・創造力を発揮できる人材を育成することをねらいとしている。

2 卒業要件

4年間在籍し、科目区分ごとに定められた単位数、またはそれ以上の単位を取得し、かつ合計で124単位以上取得しなければならない。

科目区分		単位数	備考
全学共通教育科目 (19単位以上)	必修科目	13	体育実習、AI・データサイエンス教育プログラム科目、国士館を知る
	選択科目	6以上	
外国語科目 (8単位以上)	必修科目(英語1～4) (留学生は日本語必修)	4	
	選択科目	4以上	
専門科目 (86単位以上)	理工学科共通必修科目	11	
	機械工学系必修科目	54	
	学科・学系専門選択科目群より	21以上	
卒業に必要な単位数		124以上	

注：表中の三科目区分(全学共通教育科目、外国語科目、専門科目)の必要最低単位数は(19単位、8単位、86単位)で、合計すると113単位となる。卒業に必要な残りの11単位以上は表中の三科目区分の中から選択履修できる。

卒業研究着手条件（機械工学系）

- (1) 卒業に必要な 124 単位中、105 単位以上を取得していること。
 (2) 2 年次までの理工学科共通必修科目 7 単位をすべて取得していること。
 (3) 「研究開発プロジェクト基礎」の単位を取得していること。

機械工学系必修科目（☆：理工学科共通選択科目から指定）

科目名	学年	単位数	備考
☆基礎数学 A 2 *	1	2	
☆基礎数学 B 2 *	1	2	
☆基礎力学 A	1	2	
☆基礎力学 B	1	2	
☆基礎化学 A	1	2	
☆基礎化学 B	1	2	
☆物理実験	1	2	
機械の基礎	1	3	
機械設計製図および DTPD A	1	1	
機械設計製図および DTPD B	1	2	
工業熱力学 A	2	2	
工業熱力学 B	2	2	
流体力学 A	2	2	
流体力学 B	2	2	
機械力学 A	2	2	
機械力学 B	2	2	
材料力学 A	2	2	
材料力学 B	2	2	
機械設計製図および DTPD C	2	2	
機械設計製図および DTPD D	2	2	
機械設計製作プロジェクト A	2	2	
機械設計製作プロジェクト B	2	2	
機械設計製図および DTPD E	3	2	
機械工学実験	3	2	
機械設計製作プロジェクト C	3	2	
研究開発プロジェクト基礎	3	2	
☆ゼミナール A	3	1	
☆ゼミナール B	3	1	
	合計 54 単位		

注：* 基礎数学はプレースメントテストによる習熟度に応じて A1、A2 及び B1、B2（P23 参照）のうちそれぞれ 1 科目を選択履修するよう 4 月に指定する。A1、B1 を選択するよう指定された学生は 2 年次に A2、B2 を履修すること。

機械工学系選択科目

科目名	学年	単位数	備考
機械工学概論	1	2	
基礎電子回路	2	2	
木材加工A	2	2	
木材加工B	2	2	
計測工学	3	2	
冷凍及び空気調和	3	2	
機械材料工学	3	2	
機構学	3	2	
生産加工学	3	2	
自動車デザイン	3	2	
自動車工学	3	2	
車両運動学	3	2	
メカトロニクス	3	2	
伝熱工学	3	2	
流体工学	3	2	
エンジン工学	3	2	
エネルギー工学	3	2	
環境工学	3	2	
基礎ロボット工学	3	2	
基礎ロボットプログラミング	3	2	
モデルベース開発基礎	3	2	

3 履修モデル

自動車工学に興味のある人

●：学科必修科目 ○：学系必修科目 ☆：学系として強く履修を推奨する科目 *：他学系科目

	1 年次	単位	2 年次	単位	3 年次	単位	4 年次	単位	単位計
専門科目 (学系共通)	<ul style="list-style-type: none"> ●キャリアデザイン A ●技術者倫理 ○基礎数学 A2 ○基礎数学 B2 ○基礎力学 A ○基礎力学 B ○基礎化学 A ○基礎化学 B ○物理実験 ☆基礎化学実験 ☆線形代数 A ☆線形代数 B ●コンピュータリテラシー A コンピュータリテラシー B ものづくり基礎 A ものづくり基礎 B 	2	<ul style="list-style-type: none"> ●キャリアデザイン B C プログラミング入門 C プログラミング応用 	1	<ul style="list-style-type: none"> ☆キャリアデザイン C ○ゼミナール A ○ゼミナール B 	2	<ul style="list-style-type: none"> ●卒業研究 	4	42
専門科目 (学系指定)	<ul style="list-style-type: none"> 機械工学概論 ○機械の基礎 ○機械設計製図および DTPD A ○機械設計製図および DTPD B 	2	<ul style="list-style-type: none"> ○工業熱力学 A ○工業熱力学 B ○流体力学 A ○流体力学 B ○機械力学 A ○機械力学 B ○材料力学 A ○材料力学 B ○機械設計製図および DTPD C ○機械設計製図および DTPD D ○機械設計製作プロジェクト A ○機械設計製作プロジェクト B 	2	<ul style="list-style-type: none"> ○機械設計製図および DTPD E ○機械工学実験 ○機械設計製作プロジェクト C ○研究開発プロジェクト基礎 機構学 自動車デザイン 自動車工学 車両運動学 エンジン工学 エネルギー工学 機械材料工学 生産加工学 環境工学 モデルベース開発基礎 	2	60		
外国語科目	<ul style="list-style-type: none"> ●英語 1 ●英語 2 (留学生は日本語必修) ●外国語科目群から選択 	1	<ul style="list-style-type: none"> ●英語 3 ●英語 4 (留学生は日本語必修) ●外国語科目群から選択 	1		2	8		
全学共通教育科目	<ul style="list-style-type: none"> ●体育実習 ●AI とサイエンス ●国史館を知る 	2	<ul style="list-style-type: none"> ●データサイエンス基礎 ●データエンジニアリング基礎 ●AI 基礎 ●AI 基礎演習 全学共通教育科目から選択 	2		6	19		
計		47		46		32	4	129	

ロボット・メカトロニクスに興味のある人

●：学科必修科目 ○：学系必修科目 ☆：学系として強く履修を推奨する科目 *：他学系科目

	1 年次	単位	2 年次	単位	3 年次	単位	4 年次	単位	単位計
専門科目 (学科共通)	●キャリアデザイン A	2	●キャリアデザイン B	1	☆キャリアデザイン C	2	●卒業研究	4	42
	●技術者倫理	2	○C プログラミング入門	2	○ゼミナール A	1			
	○基礎数学 A2	2	○C プログラミング応用	2	○ゼミナール B	1			
	○基礎数学 B2	2							
	○基礎力学 A	2							
	○基礎力学 B	2							
	○基礎化学 A	2							
	○基礎化学 B	2							
	○物理実験	2							
	☆基礎化学実験	1							
	☆線形代数 A	2							
	☆線形代数 B	2							
	●コンピュータリテラシー A	2							
	コンピュータリテラシー B	2							
ものづくり基礎 A	1								
ものづくり基礎 B	1								
専門科目 (学系指定)	機械工学概論	2	○工業熱力学 A	2	○機械設計製図および DTPD E	2		60	
	○機械の基礎	3	○工業熱力学 B	2	○機械工学実験	2			
	○機械設計製図および DTPD A	1	○流体力学 A	2	○機械設計製作プロジェクト C	2			
	○機械設計製図および DTPD B	2	○流体力学 B	2	○研究開発プロジェクト基礎	2			
			○機械力学 A	2	計測工学	2			
			○機械力学 B	2	機構学	2			
			○材料力学 A	2	メカトロニクス	2			
			○材料力学 B	2	基礎ロボット工学	2			
			○機械設計製図および DTPD C	2	基礎ロボットプログラミング	2			
			○機械設計製図および DTPD D	2	車両運動学	2			
			○機械設計製作プロジェクト A	2	機械材料工学	2			
			○機械設計製作プロジェクト B	2	* 制御工学	2			
			基礎電子回路	2	モデルベース開発基礎	2			
外国語科目	●英語 1	1	●英語 3	1				8	
	●英語 2	1	●英語 4	1					
	(留学生は日本語必修) ●外国語科目群から選択	2	(留学生は日本語必修) ●外国語科目群から選択	2					
全学共通教育科目	●体育実習	2	●データサイエンス基礎	2	全学共通教育科目から選択	2		19	
	●AI とサイエンス	2	●データエンジニアリング基礎	2					
	●国士館を知る	2	●AI 基礎	2					
			●AI 基礎演習	1					
		全学共通教育科目から選択	4						
計		47		46		32		4	129

エネルギー・環境・流体工学に興味のある人

●：学科必修科目 ○：学系必修科目 ☆：学系として強く履修を推奨する科目 *：他学系科目

	1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	単位計
専門科目 (学科共通)	●キャリアデザイン A	2	●キャリアデザイン B	1	☆キャリアデザイン C	2	●卒業研究	4	42
	●技術者倫理	2	C プログラミング入門	2	○ゼミナール A	1			
	○基礎数学 A2	2	C プログラミング応用	2	○ゼミナール B	1			
	○基礎数学 B2	2							
	○基礎力学 A	2							
	○基礎力学 B	2							
	○基礎化学 A	2							
	○基礎化学 B	2							
	○物理実験	2							
	☆基礎化学実験	1							
	☆線形代数 A	2							
	☆線形代数 B	2							
	●コンピュータリテラシー A	2							
コンピュータリテラシー B	2								
ものづくり基礎 A	1								
ものづくり基礎 B	1								
専門科目 (学系指定)	機械工学概論	2	○工業熱力学 A	2	○機械設計製図および DTPD E	2		60	
	○機械の基礎	3	○工業熱力学 B	2	○機械工学実験	2			
	○機械設計製図および DTPD A	1	○流体力学 A	2	○機械設計製作プロジェクト C	2			
	○機械設計製図および DTPD B	2	○流体力学 B	2	○研究開発プロジェクト基礎	2			
			○機械力学 A	2	計測工学	2			
			○機械力学 B	2	冷凍及び空気調和	2			
			○材料力学 A	2	機械材料工学	2			
			○材料力学 B	2	伝熱工学	2			
			○機械設計製図および DTPD C	2	流体工学	2			
			○機械設計製図および DTPD D	2	エンジン工学	2			
			○機械設計製作プロジェクト A	2	エネルギー工学	2			
			○機械設計製作プロジェクト B	2	環境工学	2			
			基礎電子回路	2	機構学	2			
外国語科目	●英語 1	1	●英語 3	1				8	
	●英語 2 (留学生は日本語必修)	1	●英語 4 (留学生は日本語必修)	1					
	●外国語科目群から選択	2	●外国語科目群から選択	2					
全学共通教育科目	●体育実習	2	●データサイエンス基礎	2	全学共通教育科目から選択	2		19	
	●AI とサイエンス	2	●データエンジニアリング基礎	2					
	●国士館を知る	2	●AI 基礎	2					
			●AI 基礎演習	1					
			全学共通教育科目から選択	4					
計		47		46		32		4	129

加工・生産に興味のある人

●：学科必修科目 ○：学系必修科目 ☆：学系として強く履修を推奨する科目 *：他学系科目

	1 年次	単位	2 年次	単位	3 年次	単位	4 年次	単位	単位計
専門科目 (学系共通)	●キャリアデザイン A	2	●キャリアデザイン B	1	☆キャリアデザイン C	2	●卒業研究	4	40
	●技術者倫理	2	C プログラミング入門	2	○ゼミナール A	1			
	○基礎数学 A2	2			○ゼミナール B	1			
	○基礎数学 B2	2							
	○基礎力学 A	2							
	○基礎力学 B	2							
	○基礎化学 A	2							
	○基礎化学 B	2							
	○物理実験	2							
	☆基礎化学実験	1							
	☆線形代数 A	2							
	☆線形代数 B	2							
	●コンピュータリテラシー A	2							
	コンピュータリテラシー B	2							
ものづくり基礎 A	1								
ものづくり基礎 B	1								
専門科目 (学系指定)	機械工学概論	2	○工業熱力学 A	2	○機械設計製図および DTPD E	2		62	
	○機械の基礎	3	○工業熱力学 B	2	○機械工学実験	2			
	○機械設計製図および DTPD A	1	○流体力学 A	2	○機械設計製作プロジェクト C	2			
	○機械設計製図および DTPD B	2	○流体力学 B	2	○研究開発プロジェクト基礎	2			
			○機械力学 A	2	計測工学	2			
			○機械力学 B	2	機械材料工学	2			
			○材料力学 A	2	エネルギー工学	2			
			○材料力学 B	2	機構学	2			
			○機械設計製図および DTPD C	2	生産加工学	2			
			○機械設計製図および DTPD D	2	メカトロニクス	2			
			○機械設計製作プロジェクト A	2	伝熱工学	2			
			○機械設計製作プロジェクト B	2	基礎ロボット工学	2			
			木材加工 A	2	環境工学	2			
			木材加工 B	2					
外国語科目	●英語 1	1	●英語 3	1				8	
	●英語 2 (留学生は日本語必修)	1	●英語 4 (留学生は日本語必修)	1					
	●外国語科目群から選択	2	●外国語科目群から選択	2					
全学系共通教育科目	●体育実習	2	●データサイエンス基礎	2	全学系共通教育科目から選択	2		19	
	●AI とサイエンス	2	●データエンジニアリング基礎	2					
	●国士館を知る	2	●AI 基礎	2					
			●AI 基礎演習	1					
		全学系共通教育科目から選択	4						
計		47		46		32		4	129

電子情報学系 の教育研究上の目的・方針

○ 教育研究上の目的

通信機器やコンピュータ、情報処理技術などの情報工学分野および電子機器や電力などの電気電子工学分野に関する講義、実験を通して、次々と開発される新技術に柔軟に対応し、快適な環境を創造できる人材の育成を目的とする。

1 特色

現代の社会において電気、電子、情報に関するシステムがマヒしてしまったら、私たちは直ちに生活に行き詰まってしまう。あらゆる分野で応用される電子情報技術は今日の私たちの生活に欠かせない要素であり、現在もさらに急激な勢いで進歩し普及を続けている。電子情報学系では環境にやさしいクリーンエネルギーの開発に不可欠な環境エネルギー技術、家電などあらゆるものに組み込まれているコンピュータや通信技術、高度情報通信技術の進歩に代表されるインターネットやマルチメディア技術、情報化社会を操るソフトウェア技術とITなどの分野について学ぶ。

このような発展著しい電子情報技術をしっかりと身につけるために、1年次では全学共通教育科目とともに主に2年次以降の専門科目の履修に必要な基礎を少人数教育によって重点的に学習する。2年次以降順次必要な専門科目を履修しながら情報工学分野や電気電子工学分野に分かれていき、3年次にはほぼ自分の進みたい方向を決定できるように指導していく。本学系では次々と開発される新技術や、刻々と移り変わるニーズに柔軟に対応し、快適な環境を創造できる技術者を育成する。電子情報学系の知識、技術を生かし、電力分野、通信分野、コンピュータシステムのハードウェアやソフトウェア関連、システムコンサルティング関連等の幅広い企業で活躍できる。

2 卒業要件

4年間在籍し、科目区分ごとに定められた単位数、またはそれ以上の単位を取得し、かつ合計で124単位以上取得しなければならない。

科目区分		単位数	備考
全学共通教育科目 (19 単位以上)	必修科目	13	全学共通教育科目の必修科目については、p.18 を参照すること。
	選択科目	6 以上	
外国語科目 (8 単位以上)	必修科目 (英語 1～4) (留学生は日本語必修)	4	
	選択科目	4 以上	
専門科目 (86 単位以上)	理工学科共通必修科目	11	
	電子情報学系必修科目	30	学科共通選択科目 14 単位を含む
	電子情報学系指定選択科目	40 以上	電子情報学系指定選択科目から 40 単位以上取得する。 電子情報コア選択科目群に配当されているのうち、分野別必修科目である 2 科目を含む 30 単位以上取得すること。
卒業に必要な単位数		124 以上	

注：表中の三科目区分（全学共通教育科目、外国語科目、専門科目）の必要最低単位数は、（19 単位、8 単位、86 単位）で、合計すると 113 単位となる。卒業に必要な残りの 11 単位以上は表中の三科目区分の中から選択できる。

電子情報学系必修科目（☆：理工学科共通選択科目）

科目名	学年	単位数	備考
☆コンピュータリテラシーB	1	2	
☆物理実験	1	2	
☆電子情報の基礎および演習A	1	3	
☆電子情報の基礎および演習B	1	3	
☆基礎数学A 1または基礎数学A 2	1	2	
☆基礎数学B 1または基礎数学B 2	1	2	
電子情報実験A	2	2	
電子情報実験B	2	2	
電磁気学Aと演習	2	3	
回路理論Aと演習	2	3	
電気数学A	2	2	
電気電子工学実験A	3	2	
電気電子工学実験B	3	2	
		合計 30 単位	

卒業研究着手条件（電子情報学系）

- (1) 卒業に必要な 124 単位中、105 単位以上を取得していること。
- (2) 2 年次までの理工学科共通必修科目 7 単位をすべて取得していること。
- (3) 2 年次までの電子情報学系必修科目 26 単位をすべて取得していること。

従って、4 年生の必修科目である「卒業研究」に着手するためには、着手しようとする前の年度までに、2 年次までの理工学科共通必修科目（7 単位）および電子情報学系必修科目（26 単位）の計 33 単位をすべて取得し、かつ卒業に必要な単位 124 単位のうち 105 単位以上を取得している必要がある。

AI・データサイエンス副専攻について

理工学部では、AI・データサイエンス副専攻の修了認定を受けることが卒業要件に含まれているため必修です。

詳細は p.37 を確認してください。

電子情報学系指定選択科目

(以下から 40 単位以上取得すること。電子情報コア選択科目として配当されている科目については、分野別必修科目である 2 科目 (4 単位) を含む 30 単位以上取得すること。)

電子情報学系指定選択科目 (以下から 40 単位以上取得すること)						
配当 学年	電子情報共通科目群		電子情報コア選択科目 (以下の科目のうち、分野別必修科目である 2 科目を含む 30 単位以上取得すること。)			
			電気電子工学科目群		情報工学科目群	
	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数
1	情報技術者演習 A	1	線形代数 A	2	線形代数 A	2
	ものづくり基礎 B	1	線形代数 B	2	線形代数 B	2
	基礎化学 A	2	基礎力学 A	2		
	基礎化学 B	2	基礎力学 B	2		
	基礎化学実験	1				
	コンピュータ操作演習	2				
	スクリプト言語プログラミング	2				
2	C プログラミング入門	2	制御工学	2	確率論 (基礎理)	2
	C プログラミング応用	2	電気製図	2	統計学 (基礎理)	2
	科学技術と知的財産法	2	電磁気学 B	2	制御工学	2
	情報社会及び情報倫理	2	回路理論 B	2	情報理論	2
	情報と職業 A	2	電気数学 B	2	情報技術概論	2
	情報と職業 B	2	◇電気電子計測 A	2	社会と情報システム	2
			電気電子計測 B	2	☆アルゴリズムとデータ構造	2
					オペレーティングシステム	2
					デジタル信号処理	2
					☆コンピュータ工学	2
				メディアコンテンツ演習	1	
3	インターンシップ	2	ゼミナール A	1	ゼミナール A	1
	キャリアデザイン C	2	ゼミナール B	1	ゼミナール B	1
	電磁波工学	2	電気機器 A	2	JAVA プログラミング	2
	電力工学	2	電気機器 B	2	デジタル通信	2
	通信工学	2	電気電子材料 A	2	パターン認識	2
	コンピューターグラフィックス	2	電気電子材料 B	2	画像音響処理	2
	マイクロ波・光工学	2	過渡現象論	2	データベース	2
	基礎ロボット工学 (機械)	2	◇電子回路	2	オブジェクト指向設計	2
	メカトロニクス (機械)	2			ソフトウェア工学 A	2
				ソフトウェア工学 B	2	
4			高電圧プラズマ工学	2		
			電波法規	2		
			電気法規及び施設管理	2		
			パワーエレクトロニクス	2		
	合計	41	合計	44	合計	43

分野別必修科目について (◇印あるいは☆印が添えられている科目)

学びの興味や目標とする専門性に応じて、電気電子工学分野あるいは情報工学分野から印の付いた 2 科目を必ず取得すること。

電気電子工学分野：◇電気電子計測 A、◇電子回路

情報工学分野：☆アルゴリズムとデータ構造、☆コンピュータ工学

3 履修モデル

電気電子工学と情報工学分野を幅広く学ぶ学生の履修モデル

それぞれの分野に配当されている講義を受講することで、電子情報分野に関する幅広い視野と知識を身につけることができる。

電気系や情報系の資格取得を目指す人は、p.58以降の「取得可能な資格」ページを参照の上、必要な科目を履修すること。

		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	単位計
専門科目	学科共通 必修科目	キャリアデザイン A 技術者倫理 コンピュータリテラシー A	2 2 2	キャリアデザイン B	1			卒業研究	4	11
	学系必修科目	電子情報の基礎および演習 A 電子情報の基礎および演習 B コンピュータリテラシー B 基礎数学 A1 (または A2) 基礎数学 B1 (または B2) 物理実験	3 3 2 2 2 2	電子情報実験 A 電子情報実験 B 電磁気学 A と演習 回路理論 A と演習 電気数学 A	2 2 3 3 2	電気電子工学実験 A 電気電子工学実験 B	2 2			30
	学系共通選択科目	ものづくり基礎 B 基礎化学実験	1 1	共通選択科目から選択	4	共通選択科目から選択	10			16
	電子情報コア選択科目	線形代数 A 線形代数 B 基礎力学 A 基礎力学 B	2 2 2 2	電気電子計測 A アルゴリズムとデータ構造 コンピュータ工学 電気電子工学科目群から選択 情報工学科目群から選択履修	2 2 2 8 8	ゼミナール A ゼミナール B 電子回路 電気電子工学科目群から選択 情報工学科目群から選択履修	1 1 2 10 10			54
外国語科目	英語 1 英語 2 (留学生は日本語必修) 外国語科目群から選択履修	1 1 2	英語 3 英語 4 (留学生は日本語必修) 外国語科目群から選択履修	1 1 2						8
全学共通教育科目	国士館を知る 体育実習 AI 基礎 AI とサイエンス データサイエンス基礎 データエンジニアリング基礎 外国語科目群から選択履修	2 2 2 2 2 2 2	AI 基礎演習 全学共通教育科目から選択履修	1 4						19
計		48		48			38		4	138

電気電子工学分野を重点的に学ぶ学生の履修モデル

主任技術者等の資格取得を目指す人は、p.58以降の「取得可能な資格」ページを参照の上、必要な科目を履修すること。

		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	単位計
専門科目	学科共通必修科目	キャリアデザイン A 技術者倫理 コンピュータリテラシー A	2 2 2	キャリアデザイン B	1			卒業研究	4	11
	学系必修科目	電子情報の基礎および演習 A 電子情報の基礎および演習 B コンピュータリテラシー B	3 3 2	電子情報実験 A 電子情報実験 B	2 2	電気電子工学実験 A 電気電子工学実験 B	2 2			30
	学系共通選択科目	基礎数学 A1 (または A2) 基礎数学 B1 (または B2) 物理実験	2 2 2	回路理論 A と演習 電気数学 A	3 3 2					
	電子情報学系科目	ものづくり基礎 B 基礎化学実験	1 1	共通選択科目から選択	8	共通選択科目から選択	8			18
	電子情報コア選択科目	線形代数 A 線形代数 B 基礎力学A 基礎力学B	2 2 2 2	電気電子計測 A 電気電子工学科目群の 科目を重点的に選択履修	2 14	電子回路 電気電子工学科目群の 科目を重点的に選択履修	2 16	電気電子工学科目群の 科目を重点的に選択履修	4	46
	外国語科目	英語 1 英語 2 (留学生は日本語必修)	1 1	英語 3 英語 4 (留学生は日本語必修)	1 1					8
	外国語科目群から選択履修		2	外国語科目群から選択履修	2					
	全学共通教育科目	国士館を知る 体育実習 AI 基礎 AI とサイエンス データサイエンス基礎 データエンジニアリング基礎	2 2 2 2 2 2	AI 基礎演習 全学共通教育科目群から選択履修	1 4					19
	全学共通教育科目群から選択履修		2							
	計		48		46		30		8	132

情報工学分野を重点的に学ぶ学生の履修モデル

基本情報技術者等の資格取得を目指す人は、p.58 以降の「取得可能な資格」ページを参照の上、必要な科目を履修すること。

		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
		単位		単位		単位		単位	単位計	
専 門 科 目	学科共通 必修科目	キャリアデザイン A 技術者倫理 コンピュータリテラシー A	2 2 2	キャリアデザイン B	1			卒業研究	4	11
	学系必修科目	電子情報の基礎および演習 A 電子情報の基礎および演習 B コンピュータリテラシー B 基礎数学 A1 (または A2) 基礎数学 B1 (または B2) 物理実験	3 3 2 2 2 2	電子情報実験 A 電子情報実験 B 電磁気学 A と演習 回路理論 A と演習 電気数学 A	2 2 3 3 2	電気電子工学実験 A 電気電子工学実験 B	2 2			30
	電子情報学系科目 電子情報共通選択科目	ものづくり基礎 B 基礎化学実験 スクリプト言語プログラミング	1 1 2	C プログラミング入門 C プログラミング応用 科学技術と知的財産法 情報社会及び情報倫理	2 2 2 2	共通選択科目から選択	6			18
	電子情報コア選択科目	線形代数 A 線形代数 B	2 2	アルゴリズムとデータ構造 コンピュータ工学 情報工学科目群の科目を 重点的に選択履修	2 2 14	情報工学科目群の科目を 重点的に選択履修	22			44
外国語科目	英語 1 英語 2 (留学生は日本語必修) 外国語科目群から選択履修	1 1 2	英語 3 英語 4 (留学生は日本語必修) 外国語科目群から選択履修	1 1 2					8	
全学共通教育科目	国士館を知る 体育実習 AI 基礎 AI とサイエンス データサイエンス基礎 データエンジニアリング基礎 全学共通教育科目群から選択履修	2 2 2 2 2 2 4	AI 基礎演習 全学共通教育科目群から選択履修	1 2					19	
計		48		46		32		4	130	

4 取得可能な資格

▶ 科目履修により取得できる国家資格

第一級陸上特殊無線技士
第二級海上特殊無線技士 } (科目履修により無試験で取得可能 [P59](#) ^)

▶ 科目履修により試験が免除となる国家資格

第一種、二種、三種電気主任技術者 (卒業後実務経験が必要 [P60](#) ^)
第二種電気工事士 [P59](#) ^

▶ 電子情報学系の専門講義で学ぶ内容と関連のある国家資格

第一種電気工事士
電気工事施工管理士
工事担任者
電気通信主任技術者
技術士
基本情報技術者 [P61](#) ^
応用情報技術者

▶ 教員免許状 (一種)

中学校 (数学・理科・技術)
高等学校 (情報・工業・数学・理科)

第一級陸上特殊無線技士免許、
第二級海上特殊無線技士免許取得
に必要な科目

(無線従事者規則)

科目名	単位数
通信工学	2
マイクロ波・光工学	2
電磁波工学	2
電波法規	2
電子情報実験 A	2

(補足) 電磁気学 A と演習、電磁気学 B、
回路理論 A と演習、回路理論 B で習った
内容が、上表にある科目の内容理解に
役立ちます。

第二種電気工事士の筆記試験免除に必要な科目
(電気工事士法)

必要な科目	本学の該当科目	単位数
電気理論	電磁気学 A と演習	3
	電磁気学 B	2
	回路理論 A と演習	3
	回路理論 B	2
	過渡現象論	2
電気計測	電気電子計測 A	2
	電気電子計測 B	2
電気機器	電気機器 A	2
	電気機器 B	2
電気材料	電気電子材料 A	2
	電気電子材料 B	2
送配電	電力工学	2
製図	電気製図	2
電気法規	電気法規及び施設管理	2

電気主任技術者免状取得に必要な科目

電気事業法第 54 条により、電子情報学系において指定の科目を修得して卒業後、所定の実務経験年数を有する者は申請によって電気主任技術者の免状を取得することができる。

電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令（平成 28 年通商産業省令第 65 号）第 1 条第 1 項に規定する科目

区分	授業科目名	単位数	履修単位数	免状の種類	業務内容	経験年数				
① 電気工学又は電子工学等の基礎に関するもの	◎科目	電磁気学 A と演習	3	17	第一種電気主任技術者免状	電圧 50,000V 以上の電気工作物の工事、維持または運用	5 年以上 (注 1) (注 2)			
		電磁気学 B	2							
		回路理論 A と演習	3							
		回路理論 B	2							
		電気電子計測 A	2							
		電気電子計測 B	2							
		小計	14		第二種電気主任技術者免状	電圧 10,000V 以上の電気工作物の工事、維持または運用	3 年以上 (注 1) または 5 年以上 (注 3)			
	○科目	過渡現象論	2							
		電子回路	2							
		電磁波工学	2							
		デジタル通信	2							
		小計	8							
		計	22					第三種電気主任技術者免状	電圧 500V 以上の電気工作物の工事、維持または運用	1 年以上 (注 1)
		計	22							
② 発電、変電、送電、配電及び電気材料並びに電機法規に関するもの	◎科目	電力工学	2	8						
		電気法規及び施設管理	2							
		技術者倫理	2							
		小計	6							
	○科目	電気電子材料 A	2							
		電気電子材料 B	2							
		高電圧プラズマ工学	2							
		小計	6							
		計	12							
	③ 電気及び電子機器、自動制御、エネルギー利用並びに情報伝送及び情報処理に関するもの	◎科目	電気機器 A				2	10		
		電気機器 B	2							
		制御工学	2							
		パワーエレクトロニクス	2							
		小計	8							
○科目		スクリプト言語プログラミング	2							
		C プログラミング入門	2							
		C プログラミング応用	2							
		JAVA プログラミング	2							
		コンピュータ工学	2							
		情報技術概論	2							
		情報理論	2							
		社会と情報システム	2							
		小計	16							
		計	24							
④ 電気電子光工学実験に関するもの		◎科目	電子情報実験 A	2	8					
		電子情報実験 B	2							
		電気電子工学実験 A	2							
		電気電子工学実験 B	2							
		小計	8							
	計	8								
⑤ 電気機器設計に関するもの	◎科目	電気製図	2	2						
		小計	2							
		計	2							

(注 1) 入学前の実務経験年数の二分の一と卒業後の経験年数との和の年数

(注 2) 第二種電気主任技術者免状の交付を受けた後の実務経験年数

(注 3) 第三種電気主任技術者免状の交付を受けた後の実務経験年数

注 1 これらの授業科目および単位数は、卒業時までには修得することが望ましい。

2 ◎科目は、資格に対して必ず履修し合格しなければならない。

3 卒業後の認定単位の取得方法

卒業大学で、卒業後 3 年以内に科目等履修生として各科目区分で合格した 1 科目（計 5 科目）に限り認められる。

独立行政法人 情報処理推進機構が発行している基本情報技術者試験のシラバスにおける中分類と対応している科目の一覧

大分類	中分類	対応している科目
基礎理論	1. 基礎理論	電子情報の基礎および演習B、線形代数A / B、確率論、AIとサイエンス、情報理論、デジタル通信
	2. アルゴリズムとプログラミング	アルゴリズムとデータ構造、Cプログラミング入門 / 応用、Javaプログラミング
コンピュータシステム	3. コンピュータ構成要素	コンピュータ工学
	4. システム構成要素	情報技術概論、コンピュータ工学、ソフトウェア工学B
	5. ソフトウェア	ソフトウェア工学A、オペレーティングシステム、
	6. ハードウェア	コンピュータ工学、回路理論、電子回路
技術要素	7. ヒューマンインターフェイス	コンピュータ工学
	8. マルチメディア	パターン認識
	9. データベース	データベース
	10. ネットワーク	デジタル通信
	11. セキュリティ	情報技術概論、アルゴリズムとデータ構造
開発技術	12. システム開発技術	ソフトウェア工学A
	13. ソフトウェア開発管理技術	ソフトウェア工学A
プロジェクトマネジメント	14. プロジェクトマネジメント	ソフトウェア工学B、社会と情報システム
サービスマネジメント	15. サービスマネジメント	ソフトウェア工学B、社会と情報システム
	16. システム監査	ソフトウェア工学B、社会と情報システム
システム戦略	17. システム戦略	社会と情報システム
	18. システム企画	社会と情報システム
経営戦略	19. 経営戦略マネジメント	社会と情報システム
	20. 技術戦略マネジメント	社会と情報システム
	21. ビジネスインダストリ	社会と情報システム
企業と法務	22. 企業活動	社会と情報システム
	23. 法務	社会と情報システム

建築学系 の教育研究上の目的・方針

○ 教育研究上の目的

建築福祉、建築デザイン、サステナブルをキーワードに自然と調和の取れた建築、町並み、都市の計画・設計を目指し、これに必要なデザイン、工学の深い知識と技術を持った人材の育成を目的とする。

1 特色

寒さをしのぎ・飢えをしのぎ・雨露をしのぐ、人が生活をする上で基盤となることばに「衣・食・住」がある。建築は、人が生きるのに必要不可欠な「住」に当たり、暮らしと切り離せない大変重要な役割を担っている。そのため、人の暮らしに関わるさまざまな分野ともつながっており、建築学は広い視野が求められる。

また、建築は、自然災害から身を守る最優先事項でもあり、環境とも深く関わっている。このように、建築学は、多角的な解釈を可能にする豊かさにあふれている。

建築学系では、さまざまな人の立場に立って快適で素敵な居住環境の構築を目指し、「誰もが心地よいユニバーサルな居住環境の計画」・「感動を与える想像力に富む建築の設計」・「環境と共生した安全で持続可能な建築の技術」の3つのキーワードをもとに教育指導を行っている。

建築学系は、人を中心として、暮らしに関わる小さなインテリアから住まいや地域、まち環境、地球規模まで対象とするため、入学年度から、さまざまなカリキュラムを用意している。入学年度は、建築のみならず、総合教育など幅の広い授業を通して、広い視野を持つ人間力の第一歩を養う。学年が上がるにつれて、3つのキーワードに関する専門的な科目を学習する。また、実験や実習、演習などの実践を積み重ねて、建築の技術や応用力を高め、目に見える「建築」を創造できる展開力を養う。

2 卒業要件

4年間で在籍し、科目区分ごとに定められた単位数、またはそれ以上の単位を取得すると卒業することができる。

また、建築学系を卒業する全卒業生は建築士の受験資格を得るために、別に定める卒業要件がある。

科目区分		単位数	備考
全学共通教育科目 (19 単位以上)	必修科目	13	体育実習、AI・データサイエンス教育プログラム科目、 国土館を知る
	選択科目	6 以上	
外国語科目 (8 単位以上)	必修科目 (英語 1～4) (留学生は日本語必修)	4	
	選択科目	4 以上	
専門科目 (86 単位以上)	理工学科共通必修科目	11	
	建築学系必修科目	49	
	建築学系選択必修科目	20 以上	
	建築学系選択科目	6 以上	
卒業に必要な単位数		124 以上	

注：共通教育科目、外国語科目、専門科目の必要最低単位数は、それぞれ 19、8、86 で、合計すると 113 単位となる。卒業するために必要な残り 11 単位以上は全学共通教育科目、外国語科目、専門科目の中から自由に選択できる。

理工学科共通必修科目

科目名	学年	単位数	備考
キャリアデザイン A	1	2	
技術者倫理	1	2	
コンピュータリテラシー A	1	2	
キャリアデザイン B	2	1	
卒業研究	4	4	
		合計 11 単位	

建築学系必修科目（☆：理工学科共通選択科目）

科目名	学年	単位数	備考
☆基礎数学 A1	1	2	習熟度に応じて A1、A2 のうち 1 科目を選択するよう 4 月に指示します。
☆基礎数学 A2	1		
☆基礎数学 B1	1	2	習熟度に応じて B1、B2 のうち 1 科目を選択するよう 4 月に指示します。
☆基礎数学 B2	1		
☆基礎力学 A	1	2	
☆基礎力学 B	1	2	
建築意匠概論	1	2	
建築基礎演習	1	1	
設計基礎演習 A	1	1	
建築構法	1	2	
建築実務 CAD	2	2	
設計演習 1 a	2	2	
設計演習 1 b	2	2	
建築計画	2	2	
住居論	2	2	
日本建築史 A	2	2	
都市計画	2	2	
建築福祉医療	2	2	
建築環境工学	2	2	
建築設備工学 A	2	2	
建築構造力学 A	2	2	
建築構造力学 B	2	2	
建築構造材料	2	2	
建築材料実験	2	1	
建築施工法 A	2	2	
建築設備工学 B	3	2	
構造デザインと材料力学	3	2	
建築の法規	3	2	
		合計 49 単位	

建築学系選択必修科目（以下の科目群から 20 単位以上取得）

科目名	学年	単位数	備考
設計基礎演習 B	1	1	
日本建築史 B	2	2	
建築デザイン A	2	2	
建築ユニバーサルデザイン	2	2	
建築生産	2	2	
住環境の心理学	3	2	
広域・都市環境論	3	2	
設計演習 2	3	2	
設計演習 3	3	2	
建築設備製図	3	2	
建築構造製図	3	2	
建築と人間工学	3	2	
近代建築論	3	2	
未来建築論	3	2	
建築環境・生理学実験	3	2	
建築地震工学	3	2	
建築構造力学 C	3	2	
建築の利用と再生	3	2	
建築構造設計 A	3	2	
建築構造設計 B	3	2	
建築仕上材料	3	2	
建築施工法 B	3	2	
建築仕様積算	3	2	
建築材料施工演習	3	2	
福祉のまちづくり	4	2	
建築設備計画	4	2	
建築構造計画	4	2	
建築材料施工計画	4	2	
	合計 55 単位		

建築学系選択科目（以下の科目群から6単位以上取得）

科目名	学年	単位数	備考
福祉住環境	1	2	
造形基礎演習 A	1	1	
造形基礎演習 B	1	1	
建築の力とかたち	1	1	
建築デザイン B	2	2	
インテリア・デザイン A	2	2	
建築構造力学演習 A	2	1	
建築構造力学演習 B	2	1	
インテリア・デザイン B	3	2	
西洋建築史	3	2	
都市デザイン	3	2	
3D プレゼンテーション CAD	3	2	
建築福祉の調査統計	3	2	
生活支援工学	4	2	
福祉施設計画	4	2	
建築安全防災計画	4	2	
	合計 27 単位		

卒業研究着手条件（建築学系）

1. 卒業に必要な 124 単位中、105 単位以上修得していること。
2. 理工学科共通必修科目（卒業研究を除く）7 単位^{*1}をすべて取得していること。
3. 建築学系必修科目の取得単位数が 41 単位以上であること。
4. 建築学系必修科目のうち理工学科共通選択科目 8 単位^{*2}をすべて取得していること。
5. 「建築基礎演習」「設計基礎演習 A」「設計演習 1 a」「設計演習 1 b」及び「建築実務 CAD」をすべて合格していること。
6. 「設計演習 2」「建築構造製図」「建築設備製図」のいずれかに合格していること。

^{*1} 「技術者倫理」「キャリアデザイン A」「キャリアデザイン B」「コンピュータリテラシー A」

^{*2} 「基礎数学 A1、A2（いずれか一方）」「基礎数学 B1、B2（いずれか一方）」「基礎力学 A」「基礎力学 B」

3 履修モデル

建築・都市デザインコース

☆：理工学科共通選択科目（うち、★は建築学系の必修科目。「ゼミナールA」「ゼミナールB」は卒業研究に向けて履修するのが望ましい。）

		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		単位計	
			単位		単位		単位		単位		単位計
専門科目	必修科目共通	キャリアデザイン A 技術者倫理 コンピュータリテラシー A	2 2 2	キャリアデザイン B	1			卒業研究	4		9
	学系必修科目	★基礎数学 A1 または基礎数学 A2 ★基礎数学 B1 または基礎数学 B2 ★基礎力学 A ★基礎力学 B 建築意匠概論 建築基礎演習 設計基礎演習 A 建築構法	2 2 2 2 2 1 1 2	建築実務 CAD 設計演習 1 a 設計演習 1 b 建築計画 住居論 日本建築史 A 都市計画 建築福祉医療 建築環境工学 建築設備工学 A 建築構造力学 A 建築構造力学 B 建築構造材料 建築材料実験 建築施工法 A	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 2	建築設備工学 B 構造デザインと材料力学 建築の法規	2 2 2			51	
	学系選択必修科目	設計基礎演習 B	1	日本建築史 B 建築デザイン A	2 2	住環境の心理学 広域・都市環境論 設計演習 2 設計演習 3 近代建築論 未来建築論 建築構造設計 A 建築構造設計 B 建築の利用と再生 建築仕上材料	2 2 2 2 2 2 2 2 2	福祉のまちづくり	2	112	
	科目選択	造形基礎演習 A 造形基礎演習 B 建築の力かたち	1 1 1	建築デザイン B インテリア・デザイン A 建築構造力学演習 A 建築構造力学演習 B	2 2 1 1	インテリア・デザイン B 西洋建築史 都市デザイン 3D フレゼンテーション CAD	2 2 2 2			17	
	専門科目 その他	☆コンピュータリテラシー B	2			☆キャリアデザイン C ☆ゼミナール A ☆ゼミナール B ☆インターンシップ	2 1 1 2			8	
	外国語科目	英語 1 英語 2 (留学生は日本語必修) 外国語科目群から選択履修 外国語科目群から選択履修	1 1 1 1	英語 3 英語 4 (留学生は日本語必修) 外国語科目群から選択履修 外国語科目群から選択履修	1 1 1 1					8	
	全学共通教育科目	国士館を知る 体育実習 AI とサイエンス AI 基礎 データサイエンス基礎 データエンジニアリング基礎 防災!リーダー養成論 共通教育科目群から選択履修	2 2 2 2 2 2 2 4	AI 基礎演習 共通教育科目群から選択履修	1	共通教育科目群から選択履修		共通教育科目群から選択履修		19	
	計		48		45		40		6	139	

建築総合技術・サステナブルコース

☆：理工学科共通選択科目（うち、★は建築学系の必修科目。「ゼミナールA」「ゼミナールB」は卒業研究に向けて履修するのが望ましい。）

	1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	単位計	
専門科目	必修科目共通	キャリアデザインA 技術者倫理 コンピュータリテラシーA	2 2 2	キャリアデザインB	1		卒業研究	4	9	
	学系必修科目	★基礎数学A1または基礎数学A2 ★基礎数学B1または基礎数学B2 ★基礎力学A ★基礎力学B 建築意匠概論 建築基礎演習 設計基礎演習A 建築構法	2 2 2 2 2 1 1 2	建築実務CAD 設計演習1a 設計演習1b 建築計画 住居論 日本建築史A 都市計画 建築福祉医療 建築環境工学 建築設備工学A 建築構造力学A 建築構造力学B 建築構造材料 建築材料実験 建築施工法A	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 2	建築設備工学B 構造デザインと材料力学 建築の法規	2 2 2		51	
	学系選択必修科目	設計基礎演習B	1	建築生産	2	広域・都市環境論 設計演習2 建築設備製図 建築構造製図 建築環境・生理学実験 建築地震工学 建築構造力学C 建築の利用と再生 建築構造設計A 建築構造設計B 建築仕上材料 建築施工法B 建築仕様構算 建築材料施工演習	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	建築設備計画 建築構造計画 建築材料施工計画	2 2 2	114
	科目選択	造形基礎演習A 造形基礎演習B 建築の力とかたち	1 1 1	建築構造力学演習A 建築構造力学演習B	1 1	3DプレゼンテーションCAD	2	建築安全防災計画	2	9
	その他 専門科目	☆コンピュータリテラシーB	2			☆キャリアデザインC ☆ゼミナールA ☆ゼミナールB ☆インターンシップ	2 1 1 2		8	
	外国語科目	英語1 英語2 (留学生は日本語必修) 外国語科目群から選択履修 外国語科目群から選択履修	1 1 1 1	英語3 英語4 (留学生は日本語必修) 外国語科目群から選択履修 外国語科目群から選択履修	1 1 1 1					8
	全学共通教育科目	国土館を知る 体育実習 AIとサイエンス AI基礎 データサイエンス基礎 データエンジニアリング基礎 防災リーダー養成論 共通教育科目群から選択履修	2 2 2 2 2 2 2 4	AI基礎演習 共通教育科目群から選択履修	1	共通教育科目群から選択履修		共通教育科目群から選択履修		19
	計		48		39		42		12	141

建築福祉・医療コース

☆：理工学科共通選択科目（うち、★は建築学系の必修科目。「ゼミナールA」「ゼミナールB」は卒業研究に向けて履修するのが望ましい。）

	1 年次	単位	2 年次	単位	3 年次	単位	4 年次	単位	単位計	
専門科目	必修科目	キャリアデザイン A 技術者倫理 コンピュータリテラシー A	2 2 2	キャリアデザイン B	1		卒業研究	4	9	
	学系必修科目	★基礎数学 A1 または基礎数学 A2 ★基礎数学 B1 または基礎数学 B2 ★基礎力学 A ★基礎力学 B 建築意匠概論 建築基礎演習 設計基礎演習 A 建築構法	2 2 2 2 2 1 1 2	建築実務 CAD 設計演習 1 a 設計演習 1 b 建築計画 住居論 日本建築史 A 都市計画 建築福祉医療 建築環境工学 建築設備工学 A 建築構造力学 A 建築構造力学 B 建築構造材料 建築材料実験 建築施工法 A	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 2	建築設備工学 B 構造デザインと材料力学 建築の法規	2 2 2		51	
	学系選択必修科目	設計基礎演習 B	1	住環境の心理学 建築デザイン A 建築ユニバーサルデザイン 建築生産	2 2 2 2	建築構造製図 建築と人間工学 近代建築論 建築環境・生理学実験 建築地震工学 建築構造設計 A 建築施工法 B	2 2 2 2 2 2 2	福祉のまちづくり 建築構造計画	2 2	120
	学系選択必修科目	設計基礎演習 B	1	住環境の心理学 建築デザイン A 建築ユニバーサルデザイン 建築生産	2 2 2 2	建築構造製図 建築と人間工学 近代建築論 建築環境・生理学実験 建築地震工学 建築構造設計 A 建築施工法 B	2 2 2 2 2 2 2	福祉のまちづくり 建築構造計画	2 2	27
	学系選択必修科目	福祉住環境 造形基礎演習 A 造形基礎演習 B 建築の力とかたち	2 1 1 1	建築構造力学演習 A 建築構造力学演習 B	1 1	3D プレゼンテーション CAD 建築福祉の調査統計	2 2	生活支援工学 福祉施設計画	2 2	15
	学系選択必修科目	福祉住環境 造形基礎演習 A 造形基礎演習 B 建築の力とかたち	2 1 1 1	建築構造力学演習 A 建築構造力学演習 B	1 1	3D プレゼンテーション CAD 建築福祉の調査統計	2 2	生活支援工学 福祉施設計画	2 2	15
	学系選択必修科目	☆コンピュータリテラシー B 医学概論	2 2			☆キャリアデザイン C ☆ゼミナール A ☆ゼミナール B ☆インターンシップ 臨床医学各論 A 臨床医学各論 B 臨床医学各論 C 医療統計学	2 1 1 2 2 2 2 2			18
	学系選択必修科目	☆コンピュータリテラシー B 医学概論	2 2			☆キャリアデザイン C ☆ゼミナール A ☆ゼミナール B ☆インターンシップ 臨床医学各論 A 臨床医学各論 B 臨床医学各論 C 医療統計学	2 1 1 2 2 2 2 2			18
	外国語科目	英語 1 英語 2 (留学生は日本語必修) 外国語科目群から選択履修 外国語科目群から選択履修	1 1 1 1	英語 3 英語 4 (留学生は日本語必修) 外国語科目群から選択履修 外国語科目群から選択履修	1 1 1 1					8
	外国語科目	英語 1 英語 2 (留学生は日本語必修) 外国語科目群から選択履修 外国語科目群から選択履修	1 1 1 1	英語 3 英語 4 (留学生は日本語必修) 外国語科目群から選択履修 外国語科目群から選択履修	1 1 1 1					8
全学共通教育科目	国士館を知る 体育実習 AI とサイエンス AI 基礎 データサイエンス基礎 データエンジニアリング基礎 防災リーダー養成論 共通教育科目群から選択履修	2 2 2 2 2 2 2 2	AI 基礎演習 共通教育科目群から選択履修	1	共通教育科目群から選択履修		共通教育科目群から選択履修		19	
計		48		45		38		12	143	

4 取得可能な資格

【重要】

大臣指定科目のうち必修科目 30 単位とその他の科目 30 単位の計 60 単位以上の修得が、一級建築士受験に必要な最低単位数となる。この制度は、平成 21 年度以降に入学した学生に適用される。大臣指定科目として認定を受けた国士舘大学理工学部理工学科の科目を、以下の表に示す。

建築学系に所属する学生は、建築学系の卒業要件を満たすことにより、一級建築士及び二級建築士の受験資格を得る。

指定科目の分類 (最低修得単位数)		指定科目				指定科目の分類 (最低修得単位数)		指定科目					
二級・木造	一級	科目名	履修 学年	必・選	単位数	二級・木造	一級	科目名	履修 学年	必・選	単位数		
①建築設計 製図 実務 0～2 年 (5 単位以上) 実務 3～5 年 (3 単位以上)	①建築設計 製図 (7 単位以上)	設計基礎演習 A	1	必修	1	⑤～⑦ 構造力学、 建築一般構 造又は建築 材料 実務 0～2 年 (6 単位以上) 実務 3～5 年 (3 単位以上)	⑤構造力学 (4 単位以上)	建築構造力学 A	2	必修	2		
		設計基礎演習 B	1	選択	1			建築構造力学 B	2	必修	2		
		建築実務 CAD	2	必修	2			建築地震工学	3	選択	2		
		設計演習 1 a	2	必修	2			建築構造力学 C	3	選択	2		
		設計演習 1 b	2	必修	2			単位数小計	8				
		設計演習 2	3	選択	2			⑥建築一般 構造 (3 単位以上)	建築構法	1	必修	2	
		設計演習 3	3	選択	2				建築の利用と再生	3	選択	2	
		建築設備製図	3	選択	2				構造デザインと材料力学	3	必修	2	
		建築構造製図	3	選択	2				建築構造計画	4	選択	2	
		単位数小計	単位数小計						建築構造設計 A	3	選択	2	
16	16			建築構造設計 B	3	選択	2						
②～④ 建築計画、 建築環境工 学又は建築 設備 実務 0～2 年 (7 単位以上) 実務 3～5 年 (2 単位以上)	②建築計画 (7 単位以上)	建築計画	2	必修	2	⑦建築材料 (2 単位以上)	⑦建築材料 (2 単位以上)	建築構造材料	2	必修	2		
		住居論	2	必修	2			建築仕上材料	3	選択	2		
		日本建築史 A	2	必修	2			建築材料実験	2	必修	1		
		日本建築史 B	2	選択	2			単位数小計	5				
		建築デザイン A	2	選択	2			⑧建築生産 (1 単位以上)	⑧建築生産 (2 単位以上)	建築施工法 A	2	必修	2
		建築ユニバーサルデザイン	2	選択	2					建築施工法 B	3	選択	2
		福祉のまちづくり	4	選択	2			建築生産	2	選択	2		
		建築福祉医療	2	必修	2			建築仕様積算	3	選択	2		
		建築と人間工学	3	選択	2			建築材料施工演習	3	選択	2		
		近代建築論	3	選択	2			建築材料施工計画	4	選択	2		
		単位数小計						単位数小計	12				
20				単位数小計	12								
③建築環境 工学 (2 単位以上)	③建築環境 工学 (2 単位以上)	建築環境工学	2	必修	2	④建築法規 (1 単位以上)	④建築法規 (1 単位以上)	建築の法規	3	必修	2		
		建築環境・生理学実験	3	選択	2			単位数小計	2				
		単位数小計						⑩その他 (適宜)	⑩その他 (適宜)	建築意匠概論	1	必修	2
4				住環境の心理学	3	選択	2						
④建築設備 (2 単位以上)	④建築設備 (2 単位以上)	建築設備工学 A	2	必修	2	広域・都市環境論	3	選択		2			
		建築設備工学 B	3	必修	2	都市計画	3	必修		2			
		建築設備計画	4	選択	2	未来建築論	3	選択		2			
単位数小計	単位数小計			単位数小計	2								
30	6			10	10								
				85	85	①～⑨の単位数合計							
				95	95	①～⑩の単位数合計							

国家資格

- ・一級建築士（卒業後即受験可能）
- ・二級建築士（卒業後即受験可能）
- ・宅地建物取引士（在学中に受験が可能）
- ・1級建築施工管理技士（卒業後実務経験3年以上）
- ・2級建築施工管理技士（学科試験は在学中に受験が可能、実地試験は卒業後実務経験1年以上）
- ・建築基準適合判定資格者検定（建築主事試験、国土交通省）

公的資格

- ・福祉住環境コーディネーター検定（東京商工会議所）
- ・カラーコーディネーター検定（東京商工会議所）
- ・環境社会検定（eco検定）（東京商工会議所）

民間資格

- ・建築CAD検定（一般社団法人全国建築CAD連盟）
- ・インテリアプランナー（公益財団法人建築技術教育普及センター）
- ・アソシエイト・インテリアプランナー（公益財団法人建築技術教育普及センター）
- ・インテリアコーディネーター（公益社団法人インテリア産業協会）
- ・キッチンスペシャリスト（公益社団法人インテリア産業協会）
- ・マンションリフォームマネジャー（公益財団法人住宅リフォーム・紛争処理支援センター）
- ・建築積算士、建築積算士補（公益社団法人日本建築積算協会）

建築積算士補は、「建築仕様積算」授業終了後に試験を行う。

単位取得が条件となるため、授業回数の2/3以上の出席を満たすこと等が必要。（初回授業時に説明）

まちづくり学系の教育研究上の目的・方針

○ 教育研究上の目的

多くの人が暮らす都市から自然豊かな農村漁村まで、そこに住む人々が安全・安心で生き生きと暮らせる「まち」を創造し、維持するための基礎知識や技術を持った人材の育成を目的とする。

1 特色

活気あふれる都市から自然豊かな農山漁村まで、そこに住む人々が安全・安心で生き生きと暮らせる持続可能な「まち」を創造するための計画・設計に必要なデザイン力と、まちを支える社会基盤整備および維持管理に必要な知識や技術を学ぶ学系である。

まちづくりには、都市やまちの魅力や課題を発見する力、土木・建築・都市学の知識を踏まえた空間デザイン、それを実施するためのシステムや工学技術、住民や行政といった多くの関係者の合意形成を図るためのコミュニケーション技術などが関係している。そのため、総合的な視野から都市やまちのあり方を考え、それを実現できる知識や技術を持つ、まちづくりの専門家が必要とされている。

「まち」の将来構想から運営を担う公務員、魅力ある環境や空間の計画・デザインから地域の賑わいやコミュニティづくりまでを担う設計コンサルタント、実際の空間づくりを担う建設会社など、まちづくりの幅広い分野で活躍できる人材の養成を目指している。

2 卒業要件

4年間で在籍し、科目区分ごとに定められた単位数、またはそれ以上の単位を取得し、かつ合計で124単位以上取得しなければならない。

科目区分	単位数	備考
全学共通教育科目 (19単位以上)	必修科目 13 選択科目 6以上	国語館を知る・体育実習・AIデータサイエンス副専攻必修科目
外国語科目 (8単位以上)	必修科目(英語1~4) (留学生は日本語必修) 選択科目 4以上	4
専門科目 (86単位以上)	理工学科共通必修科目 11 まちづくり学系必修科目 40 まちづくり学系選択科目 35以上	11 40 35以上
卒業に必要な単位数	124以上	

注：表中の三科目区分（全学共通教育科目、外国語科目、専門科目）の必要最低単位数は、（19単位、8単位、86単位）で、合計すると113単位となる。卒業に必要な残りの11単位以上は表中の三科目区分の中から自由に選択できる。

卒業研究着手条件（まちづくり学系）

- (1) 卒業に必要な124単位中、105単位以上を取得していること。
- (2) 2年次までの理工学科共通必修科目7単位をすべて取得していること。

理工学科共通必修科目

科目名	学年	単位数	備考
コンピュータリテラシー A	1	2	
キャリアデザイン A	1	2	
技術者倫理	1	2	
キャリアデザイン B	2	1	
卒業研究	4	4	
	合計 11 単位		

まちづくり学系必修科目（☆：理工学科共通選択科目）

科目名	学年	単位数	備考
☆基礎力学 A	1	2	
☆基礎数学 A1	1	2	習熟度に応じて A1、A2 のうち 1 科目を選択するよう 4 月に指示します。
☆基礎数学 A2	1		
☆基礎数学 B1	1	2	習熟度に応じて B1、B2 のうち 1 科目を選択するよう 4 月に指示します。
☆基礎数学 B2	1		
☆ゼミナール A	3	1	
☆ゼミナール B	3	1	
まちづくり概論	1	1	(理工学基礎科目群)
まちづくり基礎演習	1	1	(理工学基礎科目群)
景観デザインの基礎 A	1	1	
景観デザインの基礎 B	1	1	
測量学	1	2	
測量実習 A	1	2	
構造力学及び演習 A	1	3	
設計製図 A	1	1	
設計製図 B	2	1	
建築構造材料	2	2	建築学系専門科目
構造力学及び演習 B	2	3	
水理学及び演習	2	3	
土質力学 A	2	2	
コンクリート工学及び演習	2	3	
構造物設計演習	3	1	
土質力学 B	3	2	
土木施工	3	2	
力学総合演習	3	1	
	合計 40 単位		

まちづくり学系選択科目（以下の科目群から 37 単位以上取得）

科目名	学年	単位数	備考
測量実習B	1	2	
景観デザイン A	2	2	
景観デザイン B	2	2	
まちづくりの計画と進め方 A	2	2	
まちづくりの計画と進め方 B	2	2	
ランドスケープデザイン	2	2	
まちづくりの実際	2	2	
防災まちづくり	2	2	
都市計画	2	2	建築学系専門科目
住環境の心理学 *	2	2	建築学系専門科目
まちづくりフィールド演習	3	1	
空間情報学	3	2	
まちづくりの交通計画	3	2	
建設材料・構造実験	3	2	
土質実験	3	2	
都市緑地計画学	3	2	
河川工学	3	2	
河川環境とまちづくり	3	2	
公共空間デザイン演習	3	2	
維持管理工学	3	2	
まちづくりの調査解析	3	2	
建築福祉の調査統計	3	2	建築学系専門科目
都市デザイン	3	2	建築学系専門科目
広域・都市環境論	3	2	建築学系専門科目
プロジェクト実践演習	4	2	
福祉のまちづくり	4	2	建築学系専門科目
	合計	51 単位	

*：建築学系は 3 年次配当科目

3 履修モデル

●：学科必修科目 ○：学系必修科目

	1 年次	単位	2 年次	単位	3 年次	単位	4 年次	単位	単位計
専門科目 (学科共通)	●キャリアデザイン A ●技術者倫理 ●コンピュータリテラシー A ○基礎数学 A1 (または A2) ○基礎数学 B1 (または B2) ○基礎力学 A 基礎力学 B 物理実験	2 2 2 2 2 2 2	●キャリアデザイン B	1	○ゼミナール A ○ゼミナール B キャリアデザイン C インターンシップ	1 1 2 2	●卒業研究	4	27
専門科目 (学系指定)	○まちづくり概論 ○まちづくり基礎演習 ○景観デザインの基礎 A ○景観デザインの基礎 B ○測量学 ○測量実習 A 測量実習 B ○構造力学及び演習 A ○設計製図 A	1 1 1 1 2 2 2 3 1	○設計製図 B ○建築構造材料 ○構造力学及び演習 B ○水理学及び演習 ○土質力学 A ○コンクリート工学及び演習 景観デザイン A 景観デザイン B まちづくりの計画と進め方 A まちづくりの計画と進め方 B 防災まちづくり ランドスケープデザイン まちづくりの実際 都市計画 住環境の心理学	1 2 3 3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	○構造物設計演習 ○土質力学 B ○土木施工 ○力学総合演習 まちづくりフィールド演習 空間情報学 まちづくりの交通計画 建設材料・構造実験 土質実験 都市緑地計画学 河川工学 河川環境とまちづくり 公共空間デザイン演習 維持管理工学 まちづくりの調査解析 建築福祉の調査統計 都市デザイン 広域・都市環境論	1 2 2 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	福祉のまちづくり プロジェクト実践演習	2 2	83
外国語科目	●英語 1 ●英語 2 (留学生は日本語必修) ●他外国語科目 (英語含) ●他外国語科目 (英語含)	1 1 1 1	●英語 3 ●英語 4 (留学生は日本語必修) ●他外国語科目 (英語含) ●他外国語科目 (英語含)	1 1 1 1					8
全学共通教育科目	●国史を知る ●体育実習 ●AI 基礎 ●AI とサイエンス ●データサイエンス基礎 ●データエンジニアリング基礎 防災リーダー養成論	2 2 2 2 2 2 2	●AI 基礎演習 日本史 A 日本史 B 自然科学 (地学系 A) 地理学 A 地理学 B	1 2 2 2 2 2					25
計		48		48		39		8	143

4 取得可能な資格

資格
測量士補（卒業と同時に登録のみで取得）
測量士
技術士補・技術士
土木施工管理技士
造園施工管理技士
土木学会認定1級・2級土木技術者等
防災士
環境管理士
登録ランドスケープ・アーキテクト
ビオトープ管理士
土地区画整理士
コンクリート技士

人間情報学系 の教育研究上の目的・方針

○ 教育研究上の目的

日常の健康管理から医療・福祉、スポーツ現場など多様な分野で、ヒトの身体から得られる情報を活用することのできる知識・技能を持った人材の育成を目的とする。

1 特色

基本的な情報処理技能を基盤として、ヒトの身体から得られるさまざまな情報を、工学的視点から適切かつ効率的に扱うための知識とスキルを身につけた人材を育成します。身体から得られる情報は、医療分野における機器の開発や情報の管理だけではなく、アスリートにとっての最適なトレーニング方法の発見、家庭や企業における健康増進のための企画など、現代社会では非常に重要な意味を持つものです。また、身体情報は、人々の生活全般を豊かにするデバイスの開発などにもつながるものであり、高齢化社会における QOL (Quality of Life) の維持・向上に大きく貢献します。本学系では、こうした身体情報のスポーツ・健康への応用を目指す「身体情報分野」と、医療での応用を目指す「医療情報分野」の2分野を柱として、実験やプロジェクト形式の授業など実践的な学びを提供します。将来は、病院などの医療機関をはじめ、医療機器・スポーツ関連の各種メーカーや情報関連企業での活躍が期待されます。

※卒業要件を満たせば、履修モデルに拘わらず「身体情報」と「医療情報」両分野の単位を取得し、複数の資格を目指すことも可能です。

2 卒業要件

大学に4年間在籍し、科目区分ごとに定められた単位数、またはそれ以上の単位を取得し、かつ合計で124単位以上取得しなければならない。

科目区分		単位数	備考
全学共通教育科目 (19単位以上)	必修科目(体育実習ほか)	13	
	選択科目	6以上	
外国語科目 (8単位以上)	必修科目(英語1~4) (留学生は日本語必修)	4	
	選択科目	4以上	
専門科目 (86単位以上)	理工学科共通必修科目	11	
	人間情報学系必修科目	24	
	人間情報学系選択科目(コア)	26以上	
	人間情報学系選択科目(分野別)	10以上	
卒業に必要な単位数		124以上	

注：表中の3科目区分(全学共通教育科目、外国語科目、専門科目)の必要最低単位数は、(19単位、8単位、86単位)で、合計すると113単位となる。卒業に必要な残りの11単位以上は表中の3科目区分の中から選択できる。

ゼミナールAおよびB着手条件（人間情報学系）

卒業に必要な124単位中、60単位以上を取得していること。

卒業研究着手条件（人間情報学系）

- (1) 卒業に必要な124単位中、105単位以上を取得していること。
- (2) 2年次までの理工学科共通必修科目7単位をすべて取得していること。

人間情報学系必修科目（☆：理工学科共通選択科目）

科目名	学年	単位数	備考
人間情報学基礎演習 A	1	1	(理工学基礎科目群)
人間情報学基礎演習 B	1	1	(理工学基礎科目群)
☆コンピュータリテラシー B	1	2	
☆基礎数学 A1	1	2	習熟度に応じてA1、A2のいずれか1科目を履修するよう4月に指示をする。
☆基礎数学 A2			
☆基礎数学 B1	1	2	習熟度に応じてB1、B2のいずれか1科目を履修するよう4月に指示をする。
☆基礎数学 B2			
人間情報学 A	2	2	
人間情報学技術実験	2	2	
人間情報学基礎実験	2	2	
人間情報学 B	3	2	
人間情報学 C	3	2	
人間情報学実験 A	3	2	
人間情報学実験 B	3	2	
☆ゼミナール A	3	1	2年次終了までに60単位以上を取得していること。
☆ゼミナール B	3	1	2年次終了までに60単位以上を取得していること。
		合計 24 単位	

人間情報学系選択科目（以下から36単位以上合格すること）

学系コア科目 (以下から26単位以上)	学系分野別科目（以下のどちらかを選ぶ）	
	身体情報分野 (以下から10単位以上)	医療情報分野 (以下から10単位以上)
医学概論	機能解剖学	医療情報学
人間情報学序論	医療機器学	医療管理
医学各論 A	身体動作学	医用工学特別講義
医学各論 B	生体計測論	医用流体工学
医学各論 C	生体情報システム A	診療情報学
認知科学概論 A	生体情報システム B	医療情報システム A
認知科学概論 B	神経生理学	医療情報システム B
生理学	トレーニング情報科学	生体エネルギー応用論
生化学		
人間情報処理演習 A		
人間情報処理演習 B		
言語情報論 A		
言語情報論 B		
生命科学		
脳科学概論		
統計処理論		
ニューロテクノロジー		
ニューラルネットワーク		
34 単位	16 単位	16 単位

3 履修モデル

身体情報分野

☆：理工学科共通選択科目

		1 年次	単位	2 年次	単位	3 年次	単位	4 年次	単位	単位計
専 門 科 目	必修科目 共通	キャリアデザイン A 技術者倫理 コンピュータリテラシー A	2 2 2	キャリアデザイン B	1			卒業研究	4	11
	選択科目 共通	(他学系科目) (他学系科目)	2 2	(他学系科目) (他学系科目)	2 2	(他学系科目) (他学系科目)	2 2			12
	学系必修科目	人間情報学基礎演習 A 人間情報学基礎演習 B ☆コンピュータリテラシー B ☆基礎数学 A1 ☆基礎数学 B1	1 1 2 2 2	人間情報学 A 人間情報学基礎実験 人間情報学技術実験	2 2 2	☆ゼミナール A ☆ゼミナール B 人間情報学 B 人間情報学 C 人間情報学実験 A 人間情報学実験 B	1 1 2 2 2 2			24
	学系選択科目 (コア)	医学概論 医学各論 A 人間情報学序論	2 2 2	医学各論 B 医学各論 C 認知科学概論 A 認知科学概論 B 生理学 生化学 人間情報処理演習 A 人間情報処理演習 B	2 2 2 2 2 2 1 1	統計処理論 言語情報論 A 言語情報論 B 生命科学 ニューロテクノロジー 脳科学概論	2 2 2 2 2 2	ニューラルネットワーク	2	34
	学系選択科目 (身体情報)			医療機器学 機能解剖学	2 2	神経生理学 身体動作学 生体計測論 トレーニング情報科学 生体情報システム A 生体情報システム B	2 2 2 2 2 2			16
	外国語科目	英語 1 英語 2 (英語または第 2 外国語) (英語または第 2 外国語)	1 1 1 1	英語 3 英語 4 (英語または第 2 外国語) (英語または第 2 外国語)	1 1 1 1					8
	全学共通教育科目	国土館を知る 体育実習 AI 基礎 AI とサイエンス データサイエンス基礎 データエンジニアリング基礎 (全学共通教育科目) (全学共通教育科目)	2 2 2 2 2 2 2 2	(全学共通教育科目) AI 基礎演習	2 2 1					21
	計		44		37		40		6	126

医療情報分野

☆：理工学科共通選択科目

		1 年次	単位	2 年次	単位	3 年次	単位	4 年次	単位	単位計
専門科目	必修科目共通	キャリアデザイン A	2	キャリアデザイン B	1			卒業研究	4	11
		技術者倫理 コンピュータリテラシー A	2 2							
	選択科目共通	(他学系科目)	2	(他学系科目)	2	(他学系科目)	2			12
		(他学系科目)	2	(他学系科目)	2	(他学系科目)	2			
	学系必修科目	人間情報学基礎演習 A	1	人間情報学 A	2	☆ゼミナール A	1	人間情報学基礎実験	2	24
		人間情報学基礎演習 B	1	人間情報学基礎実験	2	☆ゼミナール B	1			
		☆コンピュータリテラシー B	2	人間情報学技術実験	2	人間情報学 B	2			
		☆基礎数学 A1	2			人間情報学 C	2			
		☆基礎数学 B1	2			人間情報学実験 A	2			
					人間情報学実験 B	2				
学系選択科目 (A)	医学概論	2	医学各論 B	2	統計処理論	2	ニューラルネットワーク	2	97	
	医学各論 A 人間情報学序論	2 2	医学各論 C 認知科学概論 A 認知科学概論 B 生理学 生化学 人間情報処理演習 A 人間情報処理演習 B	2 2 2 2 2 1 1	言語情報論 A 言語情報論 B 生命科学 ニューロテクノロジー 脳科学概論	2 2 2 2 2				
学系選択科目 (医療情報)			医療管理 医療情報学	2 2	医用工学特別講義 診療情報学 医用流体力学 生体エネルギー応用論 医療情報システム A 医療情報システム B	2 2 2 2 2 2			16	
外国語科目	英語 1	1	英語 3	1					8	
	英語 2	1	英語 4	1						
	(英語または第 2 外国語)	1	(英語または第 2 外国語)	1						
	(英語または第 2 外国語)	1	(英語または第 2 外国語)	1						
全学共通教育科目	国土館を知る	2	(全学共通教育科目)	2					21	
	体育実習	2	(全学共通教育科目)	2						
	AI 基礎	2	AI 基礎演習	1						
	AI とサイエンス	2								
	データサイエンス基礎	2								
	データエンジニアリング基礎 (全学共通教育科目)	2								
	(全学共通教育科目)	2								
	(全学共通教育科目)	2								
計		44		37		40		6	126	

4 取得可能な資格

■学系共通

【健康管理検定】

特定非営利活動法人日本成人病予防協会 (<https://kentei.healthcare/>) が運営、文部科学省が後援する検定で、ヒトの体内リズムを司る「体内時計」の知識を基盤に、生活リズムや健康管理・予防医学に関する広い知識を身につけることで合格可能である。

- ✓ 健康管理検定 3 級 (基礎レベル) : 生活リズムアドバイザー
- ✓ 健康管理検定 2 級 (応用レベル) : 健康リズムカウンセラー
- ✓ 健康管理検定 1 級 (プロフェッショナルレベル) : 健康リズムプロフェッショナル

人間情報学系では、1 年次必修科目である「人間情報学基礎演習 A・B」などでの学習を通じ、2 級まで合格可能な知識が得られる。よって 1～2 年次に 2 級までの合格を目指す (2・3 級は同時受験可能。)

【MOS 試験 (マイクロソフトオフィススペシャリスト)】

(株) オデッセイコミュニケーションズ (<https://mos.odyssey-com.co.jp/outline/>) が実施する試験である。人間情報学系での学びの基本とも言える情報処理技能の基盤となるのは、社会一般に広く利用されているアプリケーションソフトを自在に使いこなす能力である。マイクロソフト社の Word[®]、Excel[®]、PowerPoint[®] 等の各ソフトウェアの使い方に熟達するためにも、この試験の受験が推奨される。

人間情報学系では、授業や演習の中で各ソフトウェアを実際に使いながら学んでいくカリキュラムになっており、授業で得られる知識や技術で、十分に合格可能な技能が習得できる。

■身体情報分野

【JATI-ATI (Accredited Training Instructor)】

JATI (Japan Association of Training Instructors) による ATI (Accredited Training Instructor) は、対象や目的に応じた科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成・指導するために必要な知識を習得したと認められた者に授与されるトレーニング指導者の資格である。スポーツ選手に対する競技力向上や障害予防、一般人に対する健康増進など幅広い知識と技術を学ぶことができる。人間情報学系はこの資格の認定校となっており、下記の科目単位を取得することで、受験資格が得られる。

試験は年間 2～3 回 (3 回目は主に不合格者が対象)、全国の会場で行われる。

なお、JATI-ATI の資格を取得したものは、本大学大学院工学研究科に進学して所定の単位を修得することで、IPAS (Institute of Performance Analysis in Sport) の「スポーツパフォーマンス分析士」資格も取得可能となる。

★受験に必要な科目

科目名	学年	単位数	科目名	学年	単位数
人間情報処理演習 A	2	2	人間情報学 B	3	2
機能解剖学	2	2	人間情報学 C	3	2
生体計測論	3	2	身体動作学	3	2
生命科学	3	2	トレーニング情報科学	3	2

※全科目に合格することが望まれる。受験資格の詳細は教員に質問すること。

■医療情報分野

【医療情報技師能力検定試験】

一般社団法人日本医療情報学会 (<http://jami.jp/jadite/new/first/news-f.html>) が実施する検定試験であるが、診療情報管理業務のみにとどまらず、医学医療および情報処理技術の基礎知識を基盤に、医療情報システム全般を管理する能力が求められる試験である。本検定の前段階としては、「基礎知識検定」があり、さらに上位検定として「上級医療情報技師能力検定」も設定されている。受験予定者は、2年次選択科目である「人間情報処理演習 A・B」、「医療情報学」、「医療管理」、「医療機器学」を履修することが望ましい。

【ME 技術実力検定（第2種）】

医療情報分野を選んだ学生は、さらに以下に挙げる選択科目を学ぶことで、日本生体医工学会による「ME 技術実力検定試験」の合格が見込まれる。ME とは医用工学 (Medical Engineering) の意味であるが、本試験は、医用生体工学に関する知識を有し、医療機器・システムの安全管理など、ME 技術を実際の医療現場で応用しうる資質を検定する試験であり、合格することにより、本学系では取得できない「臨床工学技士」国家資格の取得への道も開ける。

★検定試験合格を目指し、受験指導を行う科目

科目名	学年	単位数	科目名	学年	単位数
医療機器学	2	2	医療情報システム A	3	2
医用工学特別講義	3	2	医療情報システム B	3	2

★検定試験に関連する知識を得るために有効な科目

科目名	学年	単位数	科目名	学年	単位数
電気電子計測 A	2	2	医用流体工学	3	2
電子工学	2	2	生体エネルギー応用論	3	2

※上記以外にも、理工学科の特長を生かし、他学系開講科目を含め多くの科目を学ぶことが望ましい。

6

基礎理学系

基礎理学系 の教育研究上の目的・方針

○ 教育研究上の目的

科学技術を支える理学の各分野を有機的また専門的に学び、情報を的確に判断し、新たな知識を創造し発信していける人材の育成を目的とする。教職関係の科目を配置し、数学・理科の教員の育成も目指す。

1 特色

「数学」、「物理学」、「化学・生物学・地球科学」、「情報科学」の4つの分野の科目を設置している。これらの科目の中から自分の興味や適性に合わせて、次の履修モデルに沿って学ぶことができる。

「数学を中心に学ぶ」

理学部の数学科や教育学部の数学教員養成課程などのように数学を中心に学ぶ。中学・高校の数学の教員免許が自然に取れるカリキュラム構成になっているので教職を目指す人にお薦めである。

「情報科学と数学を中心に学ぶ」

数学と情報科学系科目を中心に学ぶ。この両方の分野の基礎的な知識や応用力が身につくため、将来は情報関連企業や金融関連企業などでの活躍が期待できる。また、数学、情報の教員も目指せる。

「物理学を中心に学ぶ」

1年生で力学・数学を中心に基礎を固める。2年生では電磁気学、熱力学、量子力学等の物理学の基盤になる科目を修得し、3年生では相対性理論、素粒子物理学、宇宙物理学等の現代物理学を学ぶことができる。また、理科・数学の教員免許を目指すことができる。

「サイエンスを広く学ぶ」

1、2年生で科学の基礎になる分野を学び、その知識を基盤として2、3、4年生で各自の興味に応じて「物理学」「化学・生物学・地球科学」の各専門領域の知識を学ぶことが出来る。中学・高校の理科の教員免許が自然に取れるカリキュラム構成になっている。研究開発担当者からシステムエンジニアまで幅広い分野で活躍できる。

2 卒業要件

4年間在籍し、各科目区分ごとに定められた単位数、またはそれ以上の単位数を取得し、かつ合計で124単位以上取得しなければならない。

科目区分		単位数	備考
全学共通教育科目 (19単位以上)	必修科目	13	体育実習、AI・データサイエンス副専攻の科目群、国士館を知る(建学の精神と教育理念)
	選択科目	6以上	
外国語科目 (8単位以上)	必修科目(英語1~4) (留学生は日本語必修)	4	
	選択科目	4以上	
専門科目 (86単位以上)	理工学科共通必修科目	11	
	基礎理学系必修科目	10	
	基礎理学系選択科目	32以上	
	選択科目		
卒業に必要な単位数		124以上	

注：表中の三科目区分(全学共通教育科目、外国語科目、専門科目)の必要最低単位数は、(19単位、8単位、86単位)で、合計すると113単位となる。卒業に必要な残りの11単位以上は表中の三科目区分の中から選択すること。

基礎理学系必修科目（☆：理工学科共通選択科目）

以下の科目の単位をすべて取得しなければならない。

科目名	学年	単位数	備考
基礎理学演習	1	1	【理工学基礎科目群】
☆基礎数学 A1	1	2	習熟度に応じて A1、A2 のいずれか 1 科目を履修するよう 4 月に指示をする。
☆基礎数学 A2			
☆基礎数学 B1	1	2	習熟度に応じて B1、B2 のいずれか 1 科目を履修するよう 4 月に指示をする。
☆基礎数学 B2			
☆物理実験	1	2	
☆コンピュータリテラシー B	1	2	
☆ゼミナール B	3	1	
	合計 10 単位		

(1) 基礎数学 A、基礎数学 B について

「基礎数学 A 2」を履修後に「基礎数学 A 1」を履修することは原則としてできない。また「基礎数学 A 2」と「基礎数学 A 1」を同一年度に履修することもできない。「基礎数学 B 2」と「基礎数学 B 1」も同様である。

(2) 線形代数概論 A、B と線形代数 A、B について

「線形代数概論 A」の単位取得後に「線形代数 A」を履修することはできない。また「線形代数概論 A」と「線形代数 A」は同一年度に履修することもできない。「線形代数概論 B」と「線形代数 B」も同様である。

卒業研究着手条件（基礎理学系）

（必修科目「卒業研究」を 4 年次に履修するためには、3 年次の年度末までに下の条件を満たす必要がある。）

- (1) 卒業に必要な 124 単位中、105 単位以上を取得していること。
- (2) 2 年次までの理工学科共通必修科目 7 単位をすべて取得していること。

ゼミナール B 着手条件（基礎理学系）

（必修科目「ゼミナール B」を 3 年次に履修するためには、2 年次の年度末までに下の条件を満たす必要がある。）

卒業に必要な 124 単位中、60 単位以上を取得していること。

基礎理学系選択科目

以下の科目の中から 32 単位以上取得しなければならない。

1 年次配当科目	2 年次配当科目	3 年次配当科目
☆線形代数 A 線形代数概論 A (上記のいずれか 1 科目を履修)	解析学精義 A 解析学精義 B 解析学 A	☆ゼミナール A 数学特別演習 解析学 D
☆線形代数 B 線形代数概論 B (上記のいずれか 1 科目を履修)	解析学 B 解析学 C 解析特論 A	解析学 E 解析特論 B 解析特論 C
数学基礎演習 (他学系からは履修できない)	行列論 A	代数学 C
力学	行列論 B	幾何学 B
※特別活動の理論と実践	代数学 A	幾何学 C
※道德教育の理論と実践	代数学 B 幾何学 A	□アルゴリズム論 ☆ JAVA プログラミング
	代数学幾何学精義	素粒子と宇宙
	確率論	相対性理論
	統計学	放射線科学概論
	論理と集合	原子・分子の科学
	数理解析入門	生命科学
	☆理工系の数理解析 A	固体地球物質科学
	☆理工系の数理解析 B	地球惑星発達史
	情報と符号化 A	※教育課程論
	情報と符号化 B	※教育行財政
	☆C プログラミング入門	※教育相談
	☆C プログラミング応用	物理化学
	☆スクリプト言語プログラミング	計算科学入門
	熱・統計力学	
	基礎量子力学	
	基礎電磁気学	
	◇電磁気学 B	
	振動と波動	
	無機化学	
	有機化学	
	生物学 A	
	生物学 B	
	地球科学 A	
	地球科学 B	
	環境科学 A	
	環境科学 B	
	生物学実験	
	地学実験	
	△認知科学概論 A	☆：理工学科共通選択科目
	△認知科学概論 B	◇：電子情報学系科目
	※教育心理学	△：人間情報学系科目
	※教職論	※：教職科目
	※教育方法論 (情報通信技術の活用を含む)	□：端末室を使用するために履修制限を 行う。数学教員免許取得希望者およ び、基礎理学系の学生を優先する。
	※生徒・進路指導論	

3 履修モデル

数学を中心に学ぶ（数学教員免許取得モデル）

☆：理工学科共通〔必修・選択〕科目 ※：教職科目 ■：卒業単位に含まれない科目

	1 年次	単位	2 年次	単位	3 年次	単位	4 年次	単位	単位計	
学科共通必修科目	☆キャリアデザイン A ☆技術者倫理 ☆コンピュータリテラシー A	2 2 2	☆キャリアデザイン B	1			☆卒業研究	4	11	
基礎学必修科目	基礎理学演習 ☆基礎数学 A1 (または A2) ☆基礎数学 B1 (または B2) ☆物理実験 ☆コンピュータリテラシー B	1 2 2 2 2			☆ゼミナール B	1			10	
基礎理学系選択科目	☆線形代数 A (または 線形代数概論 A) ☆線形代数 B (または 線形代数概論 B) 力学 ※特別活動の理論と実践 ※道徳教育の理論と実践	2 2 2 2 2 2	解析学精義 A 解析学精義 B 解析学 A 解析学 B 代数学 A 代数学 B 行列論 A 行列論 B 幾何学 A 代数学幾何学精義 確率論 統計学 論理と集合 数理情報入門 ※教職論 ※教育心理学 ※教育方法論(情報通信技術の活用を含む) ※生徒・進路指導論	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	☆ゼミナール A 数学特別演習 アルゴリズム論 解析学 C 解析学 D 解析学 E 解析特論 B 解析特論 C 代数学 C 幾何学 B 幾何学 C ※教育課程論 ※教育行財政 ※教育相談	1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2			72	80
選択科目	☆基礎力学 A ☆基礎力学 B	2 2			☆インターンシップ ☆キャリアデザイン C	2 2			8	
外国語科目	英語 1 英語 2 (英語または第二外国語科目) 英語 または 第二外国語科目	1 1 1 1	英語 3 英語 4 (英語または第二外国語科目) 英語 または 第二外国語科目	1 1 1 1					8	
全学共通教育科目	国士館を知る (建学の精神と教育理念) 体育実習 日本国憲法 防災リーダー養成論 AI とサイエンス データサイエンス基礎 データエンジニアリング基礎	2 2 2 2 2 2 2	防災リーダー養成論実習 AI 基礎 AI 基礎演習	2 2 1	(全学共通教育科目から選択履修)	2			21	
	卒業単位合計	47		46		33		4	130	
教職	■教育基礎論	2	■数学科教育論 I ■数学科教育論 II	2 2	■特別支援教育概論 ■総合的な学習の時間の指導法 ■数学科指導法 I ■数学科指導法 II ■教育実習 I (事前指導)	2 2 2 2 1	■教育実習 II (事後指導を含む) ■教育実習 III (事後指導を含む) ■教職実践演習	4 2 2	21*	
計		49		50		42		10*	151*	

〈注意〉教職を希望しない人は ※ の科目を各自の興味に従い、他の科目に置き換えること。

*教育実習 II を履修した場合の合計

情報科学と数学を中心に学ぶ

☆：理工学科共通 [必修・選択] 科目 ◇：電子情報学系科目 △：人間情報学系科目 (2年次配当科目)

	1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	単位計		
学科共通必修科目	☆キャリアデザイン A	2	☆キャリアデザイン B	1			☆卒業研究	4	11		
	☆技術者倫理	2									
	☆コンピュータリテラシー A	2									
基礎理系必修科目	基礎理学演習	1			☆ゼミナール B	1			10		
	☆基礎数学 A1 (または A2)	2									
	☆基礎数学 B1 (または B2)	2									
	☆物理実験	2									
	☆コンピュータリテラシー B	2									
基礎理学系選択科目	☆線形代数 A (または 線形代数概論 A)	2	解析学精義 A	2	☆ゼミナール A	1			66		
	☆線形代数 B (または 線形代数概論 B)	2	解析学精義 B	2	数学特別演習	1					
	力学	2	解析学 A	2	解析学 C	2					
			解析学 B	2	解析学 D	2					
			代数学 A	2	解析学 E	2					
			行列論 A	2	代数学 B	2					
			行列論 B	2	幾何学 B	2					
			幾何学 A	2	幾何学 C	2					
			論理と集合	2	アルゴリズム論	2					
			情報と符号化 A	2	☆ JAVA プログラミング	2					
			情報と符号化 B	2	△認知科学概論 A	2					
			数理情報入門	2	△認知科学概論 B	2					
			☆ C プログラミング入門	2	計算科学入門	2					
			☆ C プログラミング応用	2							
			☆スクリプト言語プログラミング	2							
			☆理工系の数理解析 A	2							
			☆理工系の数理解析 B	2							
			統計学	2							
	選択科目	☆基礎力学 A	2	◇情報技術概論	2	☆インターンシップ	2				12
		☆基礎力学 B	2	◇情報理論	2	☆キャリアデザイン C	2				
外国語科目	英語 1	1	英語 3	1					8		
	英語 2 (英語または第二外国語科目)	1	英語 4 (英語または第二外国語科目)	1							
		1		1							
		1		1							
全学系共通教育科目	国士館を知る (建学の精神と教育理念)	2	AI 基礎	2	(全学共通教育科目から選択履修)	2			21		
	体育実習	2	AI 基礎演習	1	(全学共通教育科目から選択履修)	2					
	防災リーダー養成論	2									
	防災リーダー養成論実習	2									
	AI とサイエンス	2									
	データサイエンス基礎	2									
	データエンジニアリング基礎	2									
計		43		48		33		4	128		

物理学を中心に学ぶ（理科教員免許取得モデル）

☆：理工学科共通 [必修・選択] 科目 ◇：電子情報学系科目 ※：教職科目 ■：卒業単位に含まれない科目

	1 年次	単位	2 年次	単位	3 年次	単位	4 年次	単位	単位計
学科共通必修科目	☆キャリアデザイン A ☆技術者倫理 ☆コンピュータリテラシー A	2 2 2	☆キャリアデザイン B	1			☆卒業研究	4	11
基礎理系必修科目	基礎理学演習 ☆基礎数学 A1 (または A2) ☆基礎数学 B1 (または B2) ☆物理実験 ☆コンピュータリテラシー B	1 2 2 2 2			☆ゼミナール B	1			10
基礎理系選択科目	☆線形代数 A (または 線形代数概論 A) ☆線形代数 B (または 線形代数概論 B) ※特別活動の理論と実践 ※道徳教育の理論と実践	2 2 2 2 2	振動と波動 基礎電磁気学 基礎量子力学 熱・統計力学 力学 無機化学 有機化学 生物学 A 生物学 B 地球科学 A 地球科学 B 生物学実験 地学実験 ※教職論 ※教育心理学 ※教育方法(情報通信技術の活用を含む) ※生徒・進路指導論	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	◇電磁気学 B ☆ゼミナール A 原子・分子の科学 相対性理論 素粒子と宇宙 放射線科学概論 ※教育課程論 ※教育行財政 ※教育相談 固体地球物質科学 地球惑星発達史 ☆理工系の数理解析 A ☆理工系の数理解析 B 計算科学入門	2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2			69 84
選択科目	☆基礎力学 A ☆基礎力学 B ☆基礎化学実験 ☆基礎化学 A ☆基礎化学 B	2 2 1 2 2	☆化学実験	2	☆インターンシップ ☆キャリアデザイン C	2 2			15
外国語科目	英語 1 英語 2 (英語または第二外国語科目) (英語または第二外国語科目)	1 1 1 1	英語 3 英語 4 (英語または第二外国語科目) (英語または第二外国語科目)	1 1 1 1					8
全学共通教育科目	国士館を知る (建学の精神と教育理念) 体育実習 日本国憲法 基礎物理学 物理学 AI とサイエンス	2 2 2 2 2 2	AI 基礎 AI 基礎演習 データサイエンス基礎 データエンジニアリング基礎	2 1 2 2	(全学共通教育科目から選択履修) (全学共通教育科目から選択履修) 防災リーダー養成論 防災リーダー養成論実習 人と宇宙	2 2 2 2 2			29
	卒業単位合計	48		48		42		4	142
教職	■教育基礎論	2	■理科教育論 I ■理科教育論 II	2 2	■特別支援教育概論 ■総合的な学習の時間の指導法 ■理科指導法 I ■理科指導法 II ■教育実習 I (事前指導)	2 2 2 2 1	■教育実習 II (事後指導を含む) ■教育実習 III (事後指導を含む) ■教職実践演習	4 2 2	21*
計		50		52		51		10*	163*

〈注意〉教職を希望しない人は ※ の科目を各自の興味に従い、他の科目に置き換えること。

*教育実習 II を履修した場合の合計

サイエンスを広く学ぶ（理科教員免許取得モデル）

☆：理工学科共通【必修・選択】科目 ※：教職科目 ■：卒業単位に含まれない科目

	1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	単位計		
学科共通必修科目	☆キャリアデザインA	2	☆キャリアデザインB	1			☆卒業研究	4	11		
	☆技術者倫理	2									
	☆コンピュータリテラシーA	2									
基礎理学系必修科目	基礎理学演習	1			☆ゼミナールB	1			10		
	☆基礎数学A1（またはA2）	2									
	☆基礎数学B1（またはB2）	2									
	☆物理実験	2									
	☆コンピュータリテラシーB	2									
基礎理学系選択科目	☆線形代数A （または線形代数概論A）	2	無機化学	2	☆ゼミナールA	1			71		
	☆線形代数B （または線形代数概論B）	2	有機化学	2	放射線科学概論	2					
	※特別活動の理論と実践	2	生物学A	2	生命科学	2					
	※道徳教育の理論と実践	2	生物学B	2	固体地球物質科学	2					
		2	力学	2	地球惑星発達史	2					
		2	地球科学A	2	素粒子と宇宙	2					
		2	地球科学B	2	※教育課程論	2					
		2	環境科学A	2	※教育行財政	2					
		2	環境科学B	2	※教育相談	2					
		2	生物学実験	2	確率論	2					
		2	地学実験	2	統計学	2					
		2	熱・統計力学	2	基礎量子力学	2					
		2	基礎電磁気学	2	原子・分子の科学	2					
		2	※教職論	2	物理化学	2					
		2	※教育心理学	2	計算科学入門	2					
		2	※教育方法論(情報通信技術の活用を含む)	2							
		2	※生徒・進路指導論	2							
	選択科目	☆基礎力学A	2	☆化学実験	2	☆インターンシップ	2				15
		☆基礎力学B	2			☆キャリアデザインC	2				
		☆基礎化学A	2								
		☆基礎化学B	2								
		☆基礎化学実験	1								
外国語科目	英語1	1	英語3	1					8		
	英語2	1	英語4	1							
	(英語または第二外国語科目)	1	(英語または第二外国語科目)	1							
	(英語または第二外国語科目)	1	(英語または第二外国語科目)	1							
全学共通教育科目	国立館を知る (建学の精神と教育理念)	2	データサイエンス基礎	2	防災リーダー養成論	2			23		
	体育実習	2	データエンジニアリング基礎	2	防災リーダー養成論実習	2					
	日本国憲法	2	A1 基礎	2							
	基礎物理学	2	A1 基礎演習	1							
	物理学	2									
	AIとサイエンス	2									
卒業単位合計	48		48		38		4	138			
教職	■教育基礎論	2	■理科教育論Ⅰ	2	■特別支援教育概論	2	■教育実習Ⅱ（事後指導を含む）	4	21*		
			■理科教育論Ⅱ	2	■総合的な学習の時間の指導法	2	■教育実習Ⅲ（事後指導を含む）	2			
					■理科指導法Ⅰ	2	■教職実践演習	2			
					■理科指導法Ⅱ	2					
					■教育実習Ⅰ（事前指導）	1					
計	50		52		47		10*	159*			

<注意> 教職を希望しない人は ※ の科目を各自の興味に従い、他の科目に置き換えること。

*教育実習Ⅱを履修した場合の合計

4 基礎理学系 資格

履修モデル	資格
数学を中心に学ぶ	「数学」中学・高校教員免許
情報科学と数学を中心に学ぶ	基本情報技術者*
物理学を中心に学ぶ サイエンスを広く学ぶ	「理科」中学・高校教員免許 放射線取扱主任者* 一般計量士* 環境計量士* 危険物取扱者（甲種）* 技術士補（応用理学部門）*

* 資格試験に合格する必要がある。

IV

科目ナンバリング

■ 科目ナンバリングについて

科目ナンバリングについて

■科目ナンバリングについて

全学部のすべての科目について、レベルや学修の段階、順序などを示す「科目ナンバー」を付番する「科目ナンバリング」を導入している。ナンバリングされた「科目ナンバー」を見ることにより、その科目がどの学部で何年生の時に履修すべきかを把握することができ、体系的な学修計画を立てる時の参考となる。なお、科目ナンバーはホームページ (https://www.kokushikan.ac.jp/campus_life/learning_support/numbering.html) やシラバス等に掲載されている。

◆科目ナンバリングの活用

従来の科目名だけの識別ではなく、科目ナンバーを見るだけでどの学部で開講されている講座であるか、何学年で受講できるのか、科目の性格はどのようなものかなどの概略を知ることができる。また、既に履修した、または履修を考えている科目ナンバーをリストにすることで、履修科目全体のバランスなどを確認するための目安となる。



首都圏西部大学単位互換・ 世田谷6大学コンソーシアム 連携授業

I 首都圏西部大学単位互換・
世田谷6大学コンソーシアム
連携授業

首都圏西部大学単位互換・ 世田谷6大学コンソーシアム 連携授業

■首都圏西部大学単位互換

首都圏西部大学単位互換制度とは、本制度に加盟する他大学の開講科目を履修することができ、修得した単位を所属する大学の単位として認定する制度である。詳細については、教務課で実施する説明会で確認すること。

1. 受験資格

首都圏西部大学単位互換科目を受講するためには、説明会に参加し出願書類の提出が必要。

2. 説明会日程

通年科目及び春期科目：4月のガイダンス期間中

秋期科目：6月中旬頃（予定）

※詳細な日程等は manaba 等で連絡する。

3. 問い合わせ先

世田谷キャンパス 教務部教務課（5号館1階）

TEL：03-5481-3312

E-Mail：tannigokan@kokushikan.ac.jp

※理工学部における単位認定

単位認定については、学部担当窓口にお問い合わせください。

■世田谷6大学コンソーシアム連携授業

世田谷6大学コンソーシアム連携授業とは、世田谷区内に所在する6つの大学で締結されている協定に基づき実施されている。各大学の特色を活かした授業科目を協定大学が相互に提供し、教育・研究の交流による自己啓発と教育の質向上に資することを目的としている。

1. 協定大学

国士館大学、駒澤大学、昭和女子大学、成城大学、東京都市大学、東京農業大学

2. 提供科目

開講される科目は、通常の場合、半期科目で毎年度変更される。詳しくは時間割表等で確認すること。

VI

学籍と学費

1 休学・復学・退学・除籍・復籍・再入学

1. 休学
2. 復学
3. 退学
4. 除籍
5. 復籍
6. 再入学

2 願出・届出の手続きについて

1. 学籍異動に関する願出
2. 身上項目変更の届出
3. 研究室等の利用について

3 学費の納入

1. 振込依頼書の発送時期と納入内訳
2. 納入期限
3. 納入方法
4. 延納制度について

休学・復学・退学・除籍 復籍・再入学

学期は次の通り定められている。

春期：4月1日から9月15日まで

秋期：9月16日から翌年3月31日まで

※国士館大学学則第6条参照

1 休学

病気その他やむを得ない理由のため1ヶ月以上にわたり欠席する場合は「休学」することができる。休学するためには「休学願」を教務課学部担当窓口へ提出し、学長の許可を得なければならない。休学の期間は、当該学年のうち1年または学期を区分とし、連続2年、通算4年を限度とする。なお、休学期間は在学年数に含まれないため、半年または1年間休学すると卒業が半年以上遅れることになる。

※国士館大学学則第18条、国士館大学学籍管理規程第7条、国士館大学納入金規程第6条・第7条参照

【休学時の学費と休学費】

休学期間	休学願の提出	前期学費等	後期学費等	休学費
年間	学期の開始から1ヶ月以内	免除	免除	20,000円
	上記を過ぎた場合	全額納入	免除	20,000円
半期休学 春期	学期の開始から1ヶ月以内	免除	全額納入 ※前期分学費 (秋期復学の場合)	20,000円
	上記を過ぎた場合	全額納入	全額納入 (秋期復学の場合)	—
半期休学 秋期	学期の開始から1ヶ月以内	全額納入	免除	20,000円
	上記を過ぎた場合	全額納入	全額納入	—

2 復学

休学していた者は、休学期間を満了する次の期に「復学」することができる。復学する場合には、休学期間満了前に「復学願」を教務課学部担当窓口へ提出しなければならない。

※国士館大学学則第18条、国士館大学学籍管理規程第7条、国士館大学納入金規程第6条・第7条参照

※復学時の進級・留年については、Ⅱ授業科目と履修要領-3.卒業要件・留年要件の頁を参照

3 退学

病気その他理由により大学を辞めることを「退学」という。健康上の理由や経済的理由、進路変更などにより退学する場合には「退学願」を教務課学部担当窓口へ提出し、学長の許可を得なければならない。なお、退学する場合でも、退学が許可された時期に応じて学費を納入しなければならない。学費が納入されていない場合は「除籍」となる。

退学願の提出	学費等の納入
春期開始後1ヶ月以内	全額免除 (新入生・再入学生・復籍者及び当該年度に 編転入学・転部等した者を除く)
春期開始後1ヶ月を過ぎてから 秋期開始後1ヶ月以内	後期学費等は免除 (前期学費は納入)
秋期開始後1ヶ月を過ぎた場合	全額納入

学生が本大学の規則に背き又は学生の本分に反する行為をした時は、懲戒処分として退学させられることがある。

※国土館大学学則第19条・第73条、国土館大学学籍管理規程第8条、国土館大学納入金規程第8条・第9条参照

4 除籍

次の項目に該当する場合は、「除籍」となり学籍を失うことになる。

- ①在学年限が8年を超えた者
- ②休学期間を超えた者
- ③正当な理由がなく、無届で3日以上連続して欠席した者
- ④正当な理由がなく、所定の期日までに学費等定められた納入金を納入しない者

※国土館大学学則第20条、国土館大学学籍管理規程第9条参照

5 復籍

除籍(上記4の③の場合のみ)された者が復籍を願い出る場合は、除籍日から2ヶ月以内に「復籍願」を教務課学籍担当窓口へ提出し、学長から許可された者は復籍が認められる。

なお、除籍日から2ヶ月を超えた学生の願い出については、再入学の取扱いとなり、学長の許可を得なければならない。

※国土館大学学則第20条、国土館大学学籍管理規程第8条・第9条、国土館大学納入金規程第11条参照

6 再入学

退学・除籍となった者が、再入学を希望する場合は、学年が始まる2ヶ月前までに「再入学願」を教務課学部担当窓口へ提出し、選考の上、学長の許可を得なければならない。(ただし、退学の理由や修学の意思等を審議するため、必ず認められるとは限らない。)

再入学が認められた場合は、指定された期日までに再入学する年度の入学金及び学費を納入するものとする。また、これまでに修得した単位は有効であり、退学・除籍時の学年に戻ることができる。(ただし、単位は一部認められない場合がある。)

※国土館大学学則第19条、国土館大学学籍管理規程第8条、国土館大学納入金規程第8条、第9条参照

2

願出・届出の手続きについて

1 学籍異動に関する願出

学生が身分の変更（学籍異動）を希望する場合、次に示すとおり願出しなければならない。

異動項目	願出書類	出願方法
休学 ↕ 復学	休学願	学部担当窓口で願出書を受領（またはホームページからダウンロード）
	復学願	願出書に必要事項を記入・押印の上、学部担当窓口または学年担任へ提出 ※理由が病気・けがの場合は診断書を添付
退学 ↕ 再入学	復学願	学年担任と面談
	再入学願	学系主任会及び教授会で審議 ※内容によっては承認されない場合もある
除籍 ↕ 復籍	復籍願	保証人へ通知（除籍のみ） 異動期間、納入等に関する詳細は、「学則」「国士館大学学籍管理規程」及び「国士館大学学籍管理規程施行細則」を参照のこと

（注意）復学者で、入学時と復学時の教育課程に相違のある場合、既履修科目の単位の認定及び復学後履修する科目の指定は、教務主任がこれを行う。再入学者、編入学者についても復学者に準じる

2 身上項目変更の届出

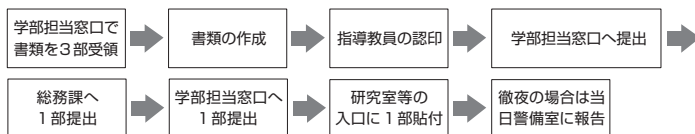
異動項目	届出書類	届出方法
保証人・学費納入者・ 学生住所の変更 納入者氏名の変更		各自で、Kaede-i 上のプロフィールを更新
本籍地の変更 学生・保証人氏名 変更	本籍地変更届 学生・保証人氏名 変更届	学部担当窓口で届出書を受領（またはホームページからダウンロード）
		届出書に必要事項を記入・押印の上、学部担当窓口へ提出 ↓ 教務課で学生証の訂正 （学生氏名変更の場合のみ） ↓ 手続き完了

3 研究室等の利用について

卒業研究等による場合

卒業研究等で研究室及び製図室を授業時間外（平日 18 時以降）及び休日に使用する場合は、「研究室使用願」の提出が必要となる。提出は時間外使用については当日、休日使用については前日のそれぞれ 17 時までとし、それ以降は原則として受け付けない。行事等により使用できない時もある。（入試関係等）

- 「研究室使用願」提出までの手続き



（注）実習工場を使用する場合も「研究室使用願」が必要だが、手続きは異なる。

1 納入期限

	1 回目（年間分または前期分）	2 回目（後期分）
新入生 （転部・再入学 含む）	入学手続き時に納入済	10月1日 （延納制度を利用した場合 1月15日）
在学学生	5月1日 （延納制度を利用した場合 8月15日）	10月1日 （延納制度を利用した場合 1月15日）

※納入期限が金融機関休業日にあたる場合は、翌営業日までに手続きをすること。

2 納入方法

大学所定の「振込依頼書」を使用して金融機関窓口から電信扱いで納入する。

※現金書留等による送金や、大学窓口での現金納入はできない。

ATM・インターネットバンキングを利用する場合は、「振込依頼書」左側中央部の太枠内に記載されている（1）識別番号および（2）学生氏名を振込依頼人名に必ず入力すること。払出口座の名義のみで振り込まれた場合、学生個人を特定できず未納扱いの原因となるので注意すること。

※（1）識別番号は、振込依頼書に記載されている「7」で始まる10桁の数字を指す。入力の際は注意すること。

※領収書が発行されないため、ATMを利用された場合はATM利用控え、インターネットバンキングの場合は、振込手続き完了画面等を印刷し保管すること。

※在学中に納入方法が変更された場合は指示に従うこと。

3 延納制度について

学業を継続する意思があり、やむを得ない事情等で納入期限までに納入できない場合は、延納制度を利用すると納入期限を下記の通り延ばすことができる。（ただし、新入生（転部・再入学含む）の前期分学費は対象とならない。）

【延納制度を利用した納入期限】

前期分	後期分
8月15日	1月15日

○延納の手続方法

各期の納入期限までにKaede-iより延納の申請を行うこと。原則オンライン申請とするが、やむをえず郵送する場合は、大学ホームページより様式をダウンロードして、教務課学費窓口に送付すること。

※各期の納入期限を過ぎて手続きを行った場合、延納は認められない。

※前期に延納申請をしている場合でも、後期分の延納を希望する場合は、後期分の延納申請を改めて行うこと。

※延納が認められた場合、納入期限を延長した振込依頼書を、前期分は7月中旬頃、後期分は

12月中旬頃に教務課から再送する。

4 納入金

納入金は大学ホームページに掲載されている。下記ページから確認すること。

アクセス方法：「学生生活」→「学費等の納入について」

URL：https://www.kokushikan.ac.jp/campus_life/payment/

5 高学年生の実験実習費納入について

高学年生（5年次生以上）で、下記のいずれかの科目を1つでも履修する学生は『実験実習費』を学費以外に別途納入しなければならない。

実験実習費は、学内の証明書自動発行機（パピルスメイト）を利用・納入し、その納入票を必ず教務課理工学部担当窓口へ提出すること。

未納入または、教務課理工学部担当窓口へ提出されない場合「当該科目は、不可」となるため、注意すること。

○納入金額 97,000円

○納入期限 春期科目は春期開始から7月31日まで、秋期科目は秋期開始から12月20日まで。

※期限日が日曜日の場合は、前日を締切りとする。

※春期に納入した場合、秋期は必要ありません。

■履修該当科目（卒業研究は必ず7月31日までに納入してください。）

機械工学系	電子情報学系	建築学系	まちづくり学系	人間情報学系	基礎理学系
卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究
物理実験	物理実験	物理実験	物理実験	物理実験	物理実験
基礎化学実験	基礎化学実験	基礎化学実験	基礎化学実験	基礎化学実験	基礎化学実験
化学実験	化学実験	化学実験	化学実験	化学実験	化学実験
機械工学実験	電気製図	設計演習 1a,1b	測量実習 A,B	人間情報学 基礎実験	生物学実験
機械設計製図 およびDTPD A,B,C,D,E	電子情報実験 A,B	設計演習 2,3	設計製図 A,B	人間情報学 技術実験	地学実験
機械設計製作 プロジェクト A,B,C	電気電子 工学実験 A,B	建築構造製図	構造物設計演習	人間情報学実験 A, B	
研究開発 プロジェクト基礎		建築設備製図	土質実験	人間情報学 A,B,C	
機械の基礎		建築材料実験	建設材料・ 構造実験		
		建築環境・ 生理学実験	まちづくり フィールド演習		

VII

転部・転学系

Ⅰ 転部・転学系

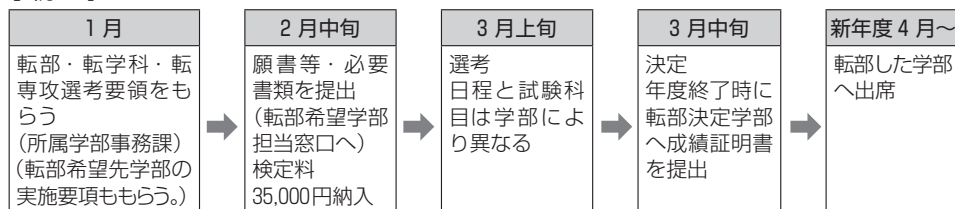
1

転部・転学系

1 転部

入学した所属学部から、本大学にある他学部へ異動することを「転部」という。希望する相手学部へ欠員があり、受け入れ可能な場合、選考の上（各学部実施試験あり）転部することができる。

手続き等



転部するに当たり、自分の取得した単位がすべて希望学部において卒業所要単位として認められるとは限らない。また、転部が認められても、転部した学部の必修科目は必ず取得しなければならないので、4年間で卒業するためには努力が必要である。

2 転学系

所属している学系から、理工学科の他の学系へ異動することを「転学系」という。

転学系をするには所属学系と希望する学系の承認が必要となる。

希望する学生は、原則として1月末までに理工学部担当窓口へ申し出ること。

注意

あらかじめ希望する学部・学系についてよく調べて、志望動機をはっきりさせ、学習計画を立てておくことが、その後の学習を進める上で重要である。

転部・転学系を希望する学生は、手続きをする前に、アカデミックアドバイザーとよく相談をすること。

VIII

学則及び諸規程

国土館大学学則・諸規程

国土館大学学則

「国土館大学学則」は、大学ホームページから閲覧可能です。

https://www.kokushikan.ac.jp/disclosure/educational_info/degree/



諸規程

以下の諸規程は、講義支援システム「manaba」から閲覧可能です。

- ・ 国土館大学履修規程
- ・ 国土館大学教職課程履修規程
- ・ 国土館大学学籍管理規程
- ・ 国土館大学学籍管理規程施行細則
- ・ 国土館大学科目等履修生規程
- ・ 国土館大学聴講生規程
- ・ 国土館大学研究生規程
- ・ 国土館大学納入金規程
- ・ 国土館におけるキャンパス・ハラスメント防止等に関する規程
- ・ 諸資格取得のための受講料等に関する内規
- ・ 公欠に関する取扱要領
- ・ 自然災害等に対する全学的休講措置の申し合わせ

<https://kokushikan.manaba.jp/ct/login>

コース名「〇〇年度 全学生向け連絡・お知らせ」

※〇〇は毎年年度が更新されます。

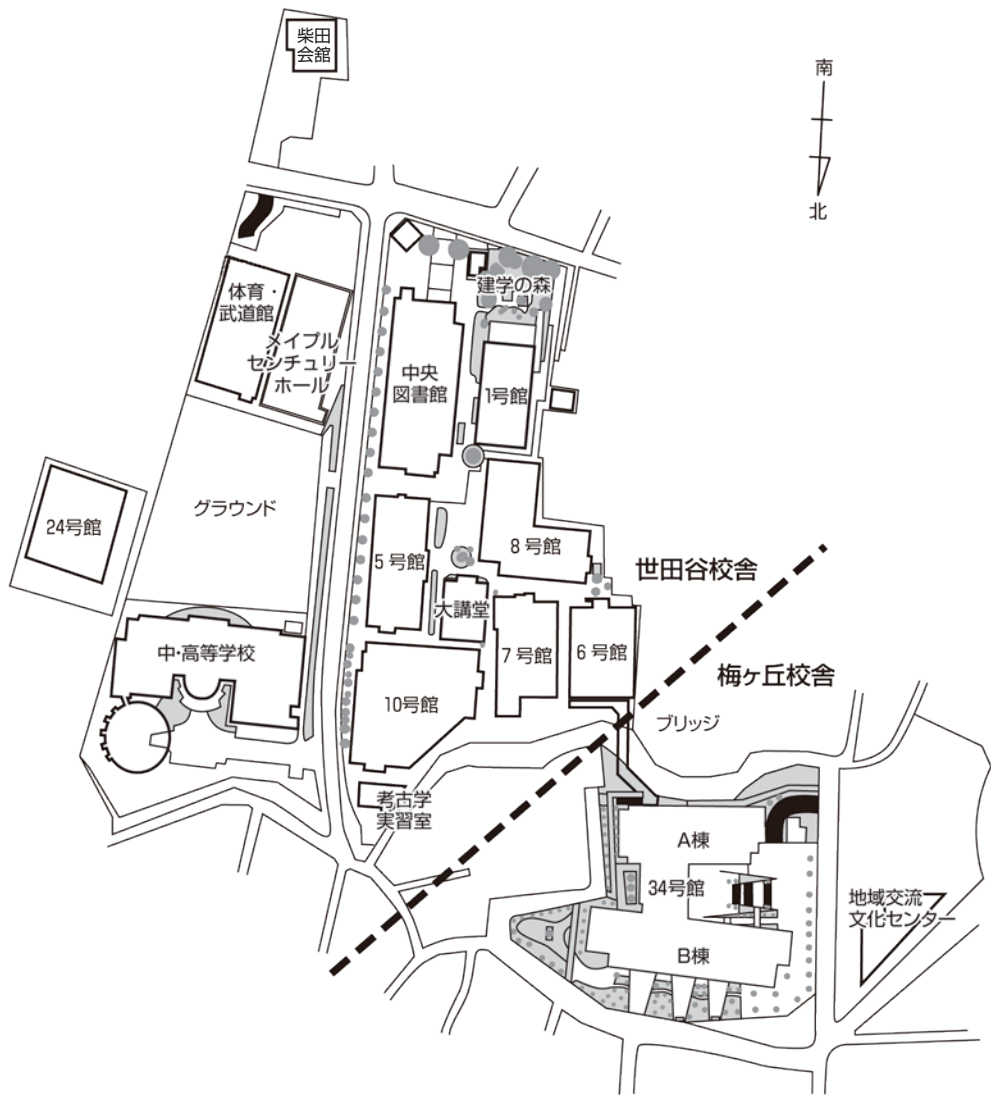


IX

キャンパス案内

建物配置図

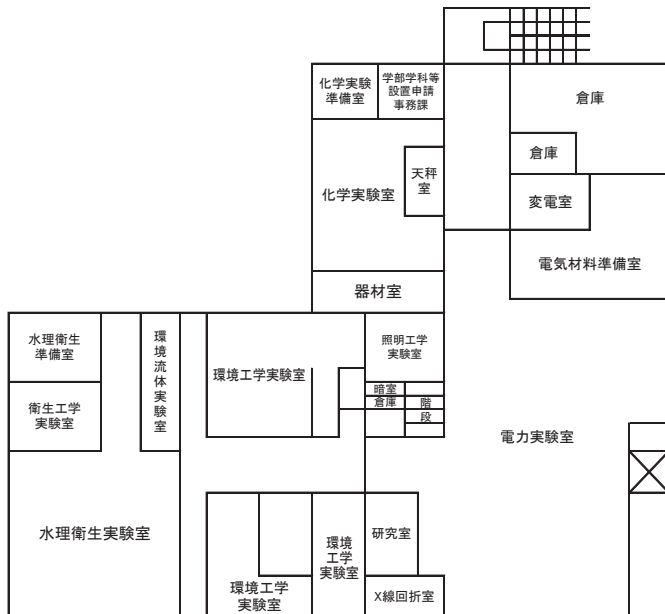
世田谷キャンパス（本部）



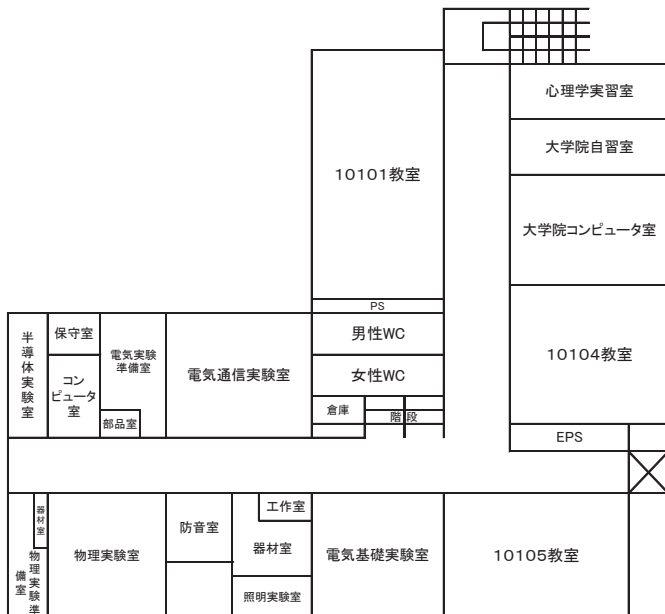
- 正門受付：受付・警備室
- 大講堂
- 1号館：理事長室、理事室、総務課、人事課、経理課、管財課、企画課、監査室、学生ラウンジ、学生食堂、国土館キャンパス環境整備計画推進室
- 5号館：学長室、副学長室、学部長室、学長課、FD推進課、IR課、教務課（学部担当・証明書・教職・教室貸出）、授業支援課、学術研究支援課、統合学部事務課、研究室、教室
- 6号館：書店、文具店、研究室、教室
- 7号館：国際交流センター、国際交流ルーム、研究室、教室、実験・実習室
- 8号館：広報課、大学院課、入学課、学生募集課、キャリア形成支援センター、学生食堂、研究室、教室
- 10号館：学部学科等設置申請事務課、多目的フロア、教員コミュニティルーム、研究室、教室、実験・実習室
- 中央図書館：図書館・情報メディアセンター、多目的ホール
- メイプルセンチュリーホール：フィットネスセンター、温水プール、柔道場、剣道場、ランニングロード、アリーナ、多目的フロア、実験・実習室、学生ラウンジ、教室
- 体育・武道館：柔道場、剣道場、アリーナ
- 中学・高校校舎
- 24号館：高校昼間定時制、クラブ部室、松陰寮
- 柴田会館：同窓会事務局、国土館史資料室、空手道場
- 34号館：学生・厚生課、学生相談室、健康管理室、募金事務室、国土館スポーツプロモーションセンター、教員コミュニティルーム、スカイラウンジ、研究室、教室、実習室、アトリウム、学生食堂、展示コーナー
- 地域交流センター：地域連携・社会貢献推進センター、イラク古代文化研究所展示室

世田谷 10 号館各室配置図

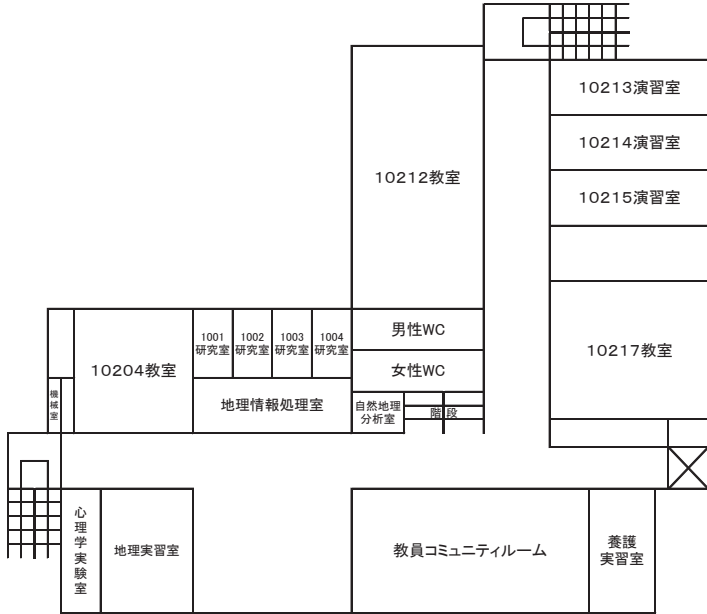
B1F



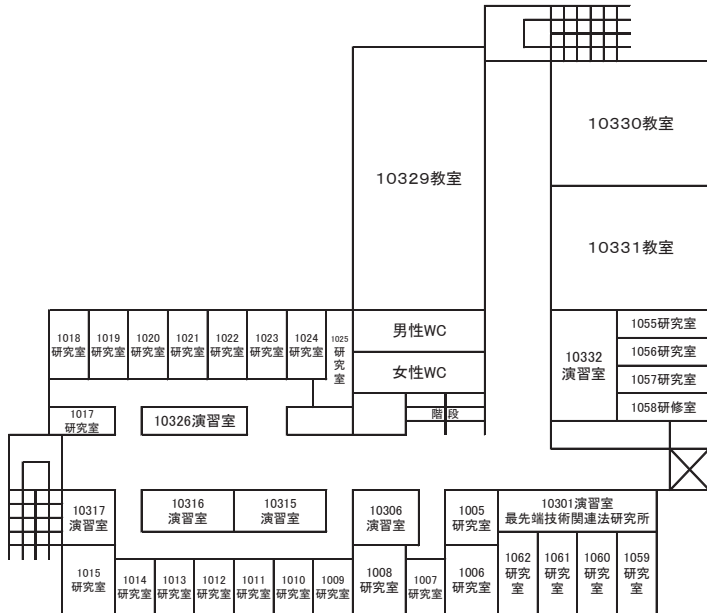
1F



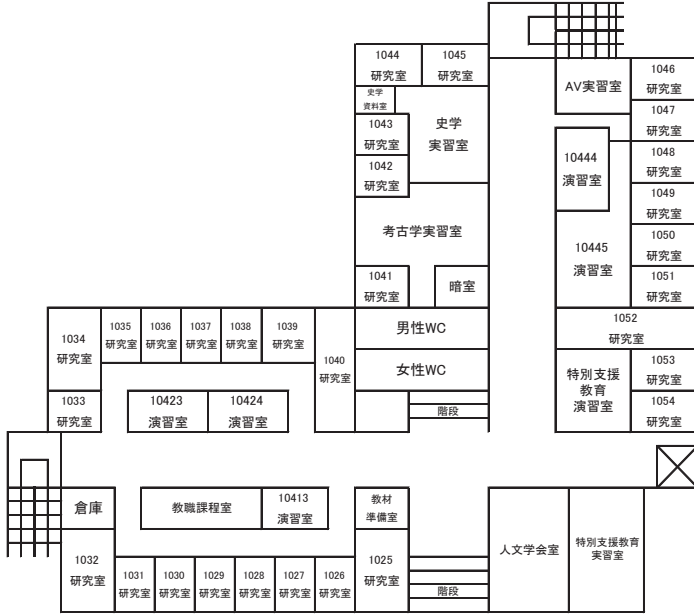
2F



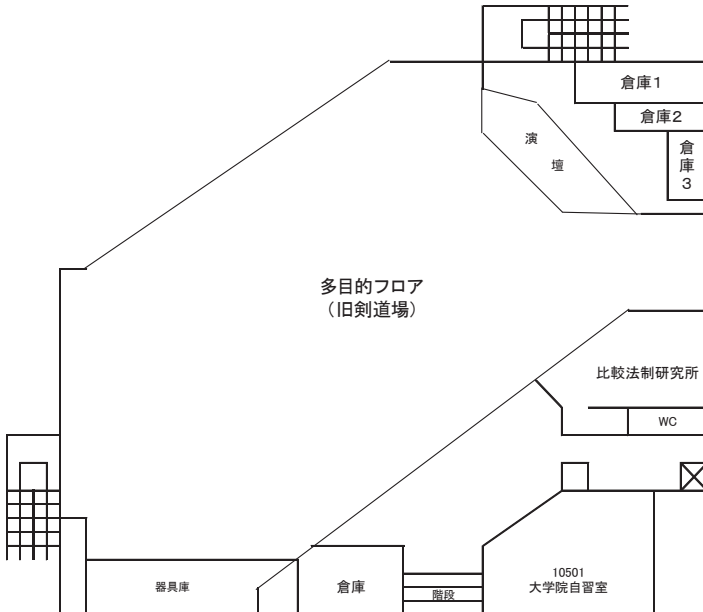
3F



4F

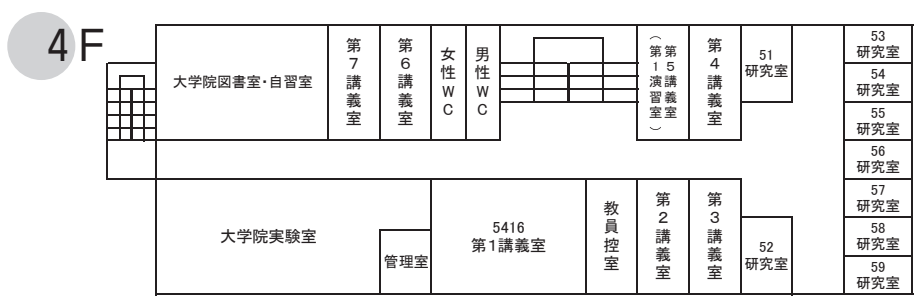
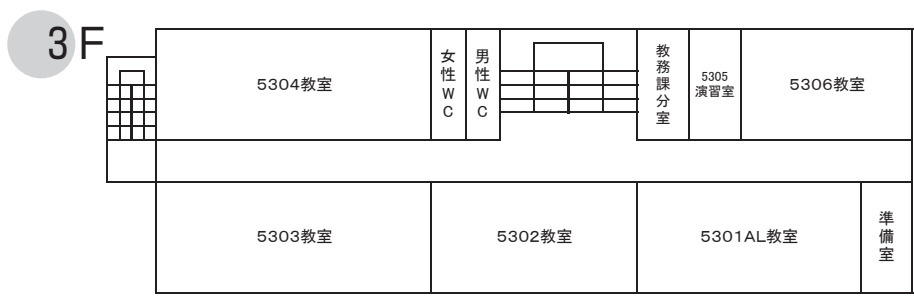
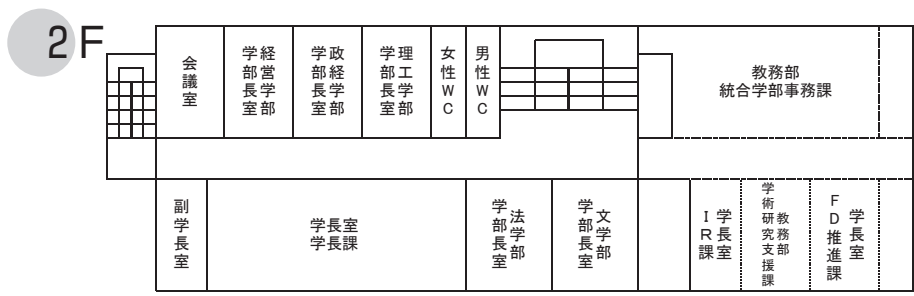
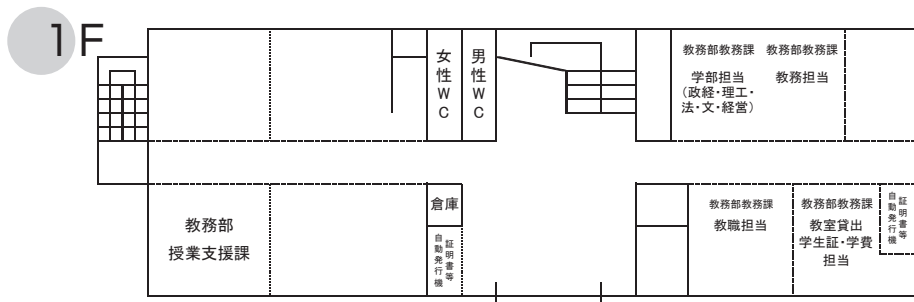


5F



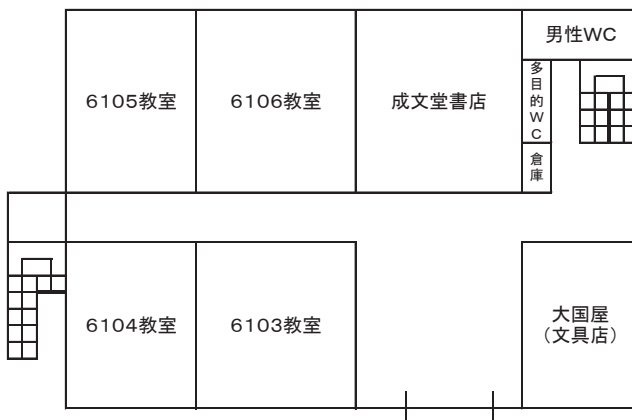
世田谷5号館各室配置図

キャンパス案内

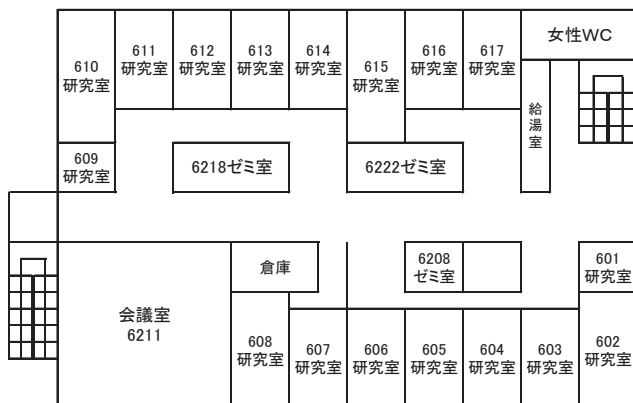


世田谷 6 号館各室配置図

1F



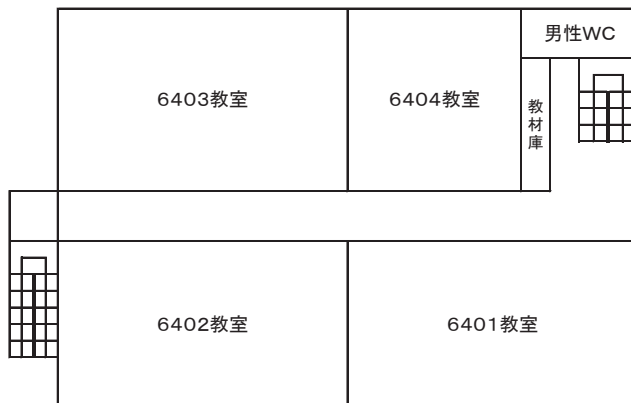
2F



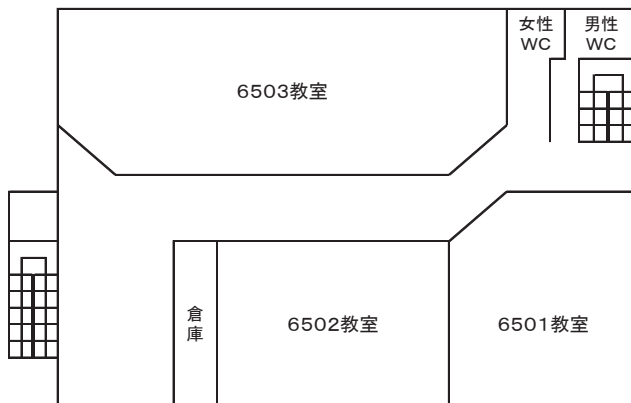
3F



4F

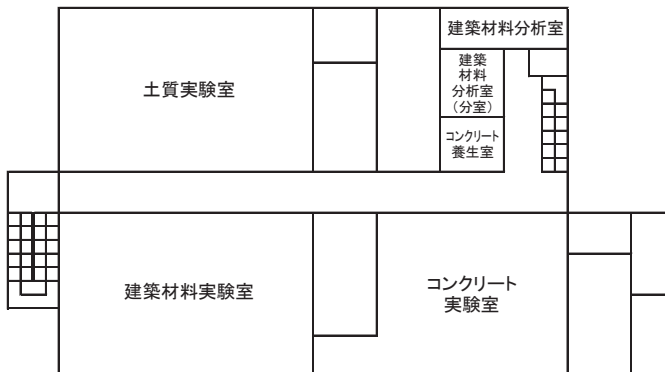


5F

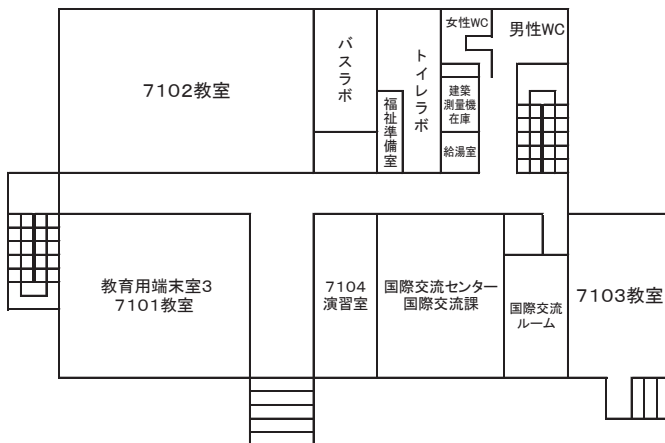


世田谷7号館各室配置図

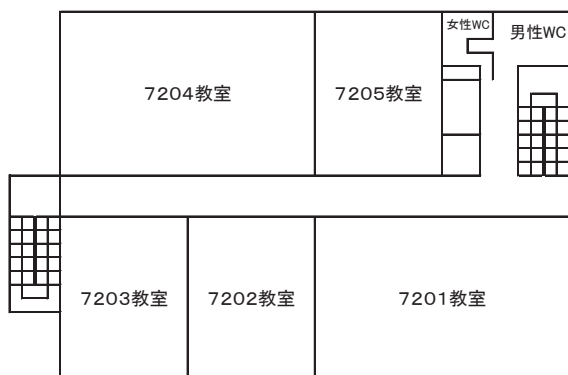
B1F



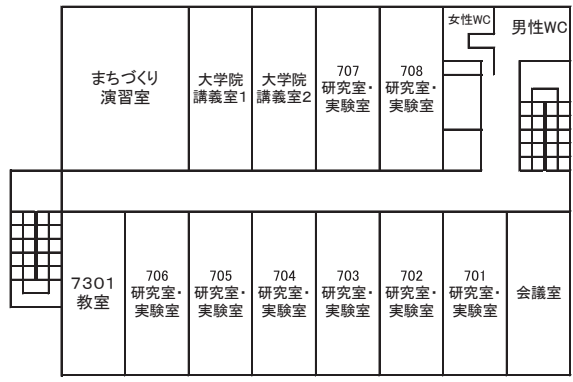
1F



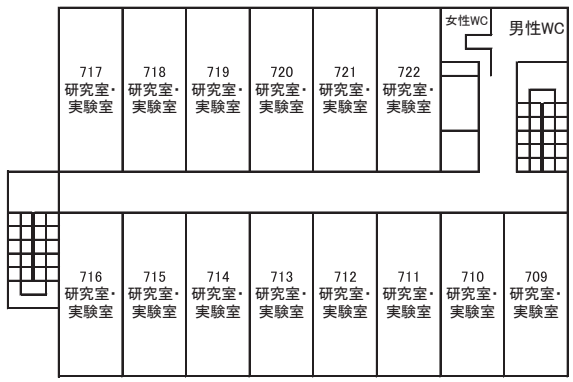
2F



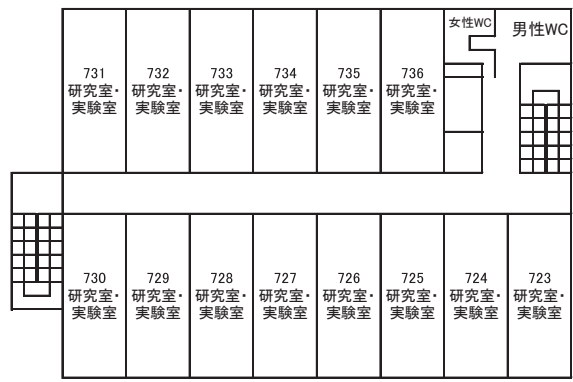
3F



4F

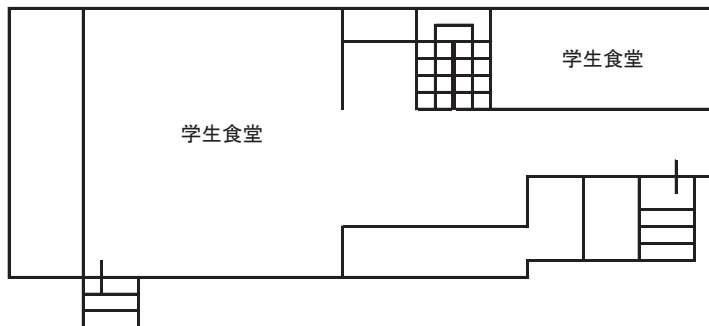


5F

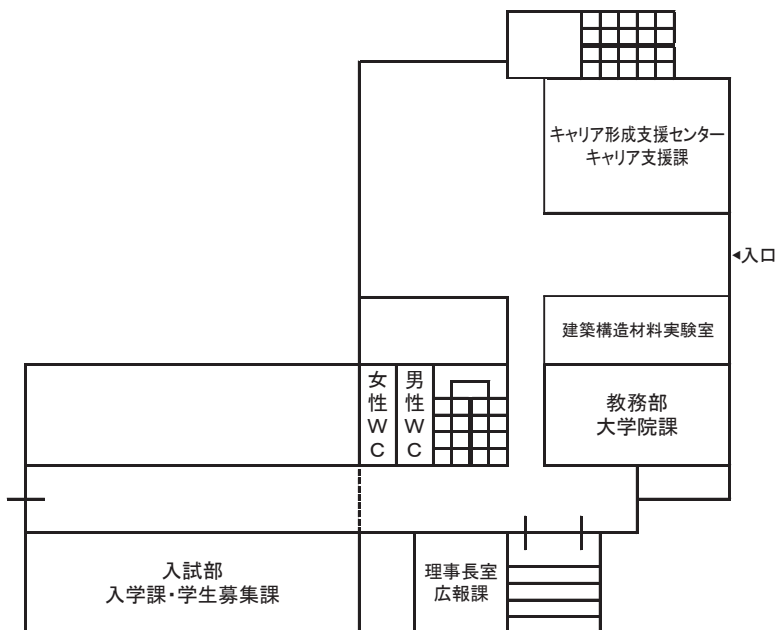


世田谷8号館各室配置図

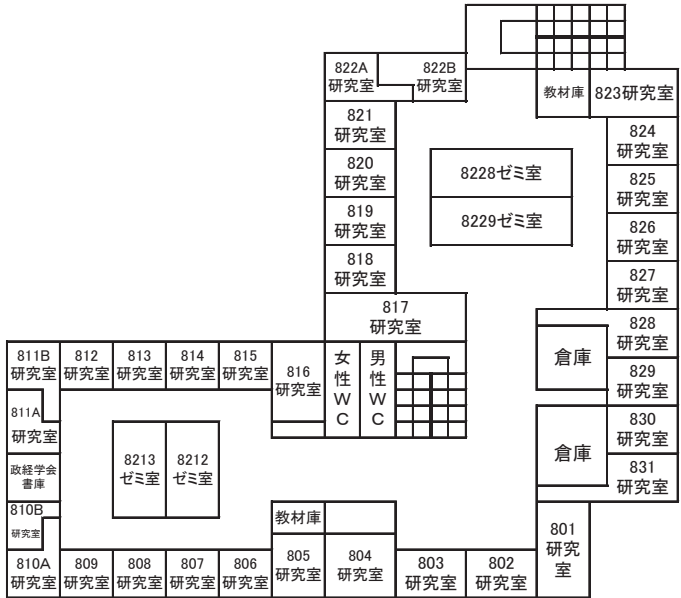
B1F



1F

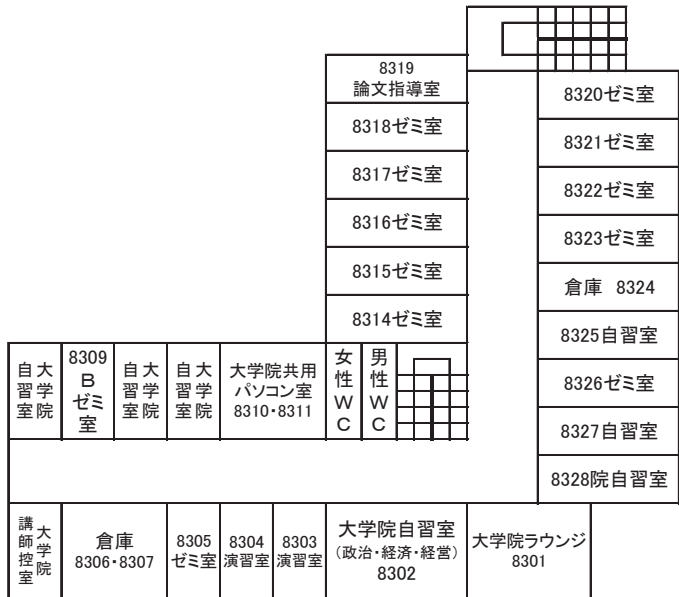


2F

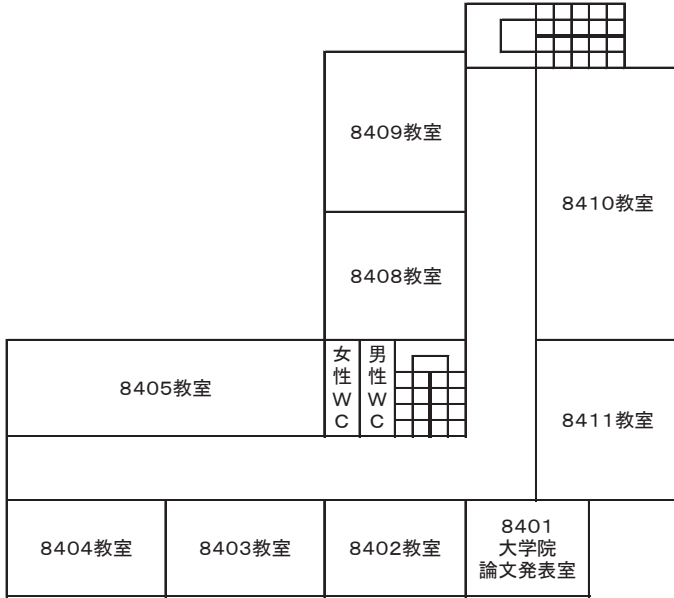


キャンパス案内

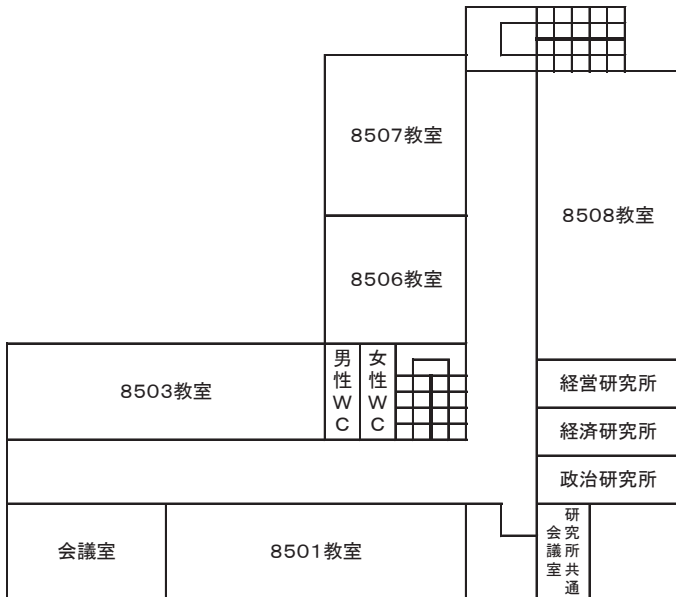
3F



4F



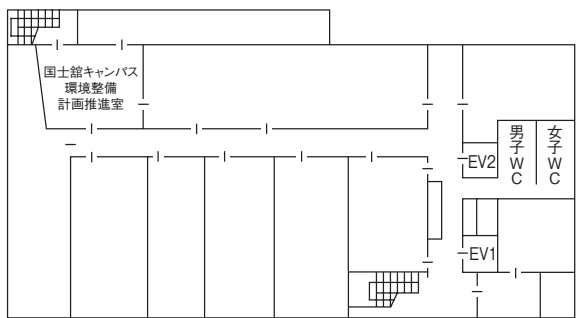
5F



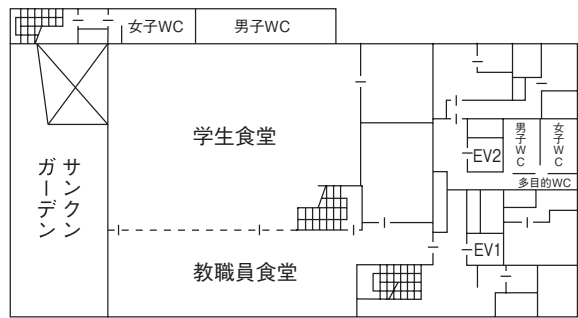
世田谷1号館各室配置図

キャンパス案内

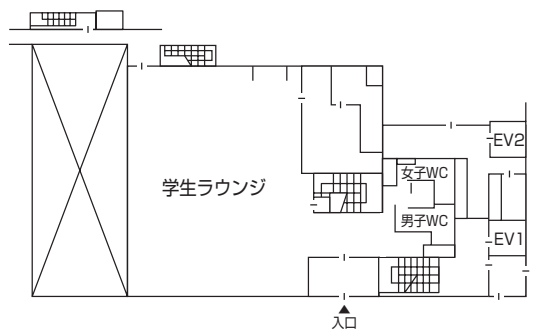
B2F



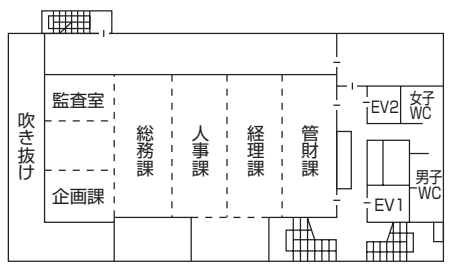
B1F



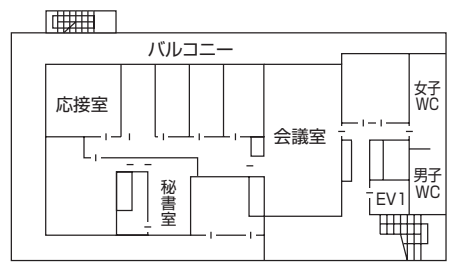
1F



2F

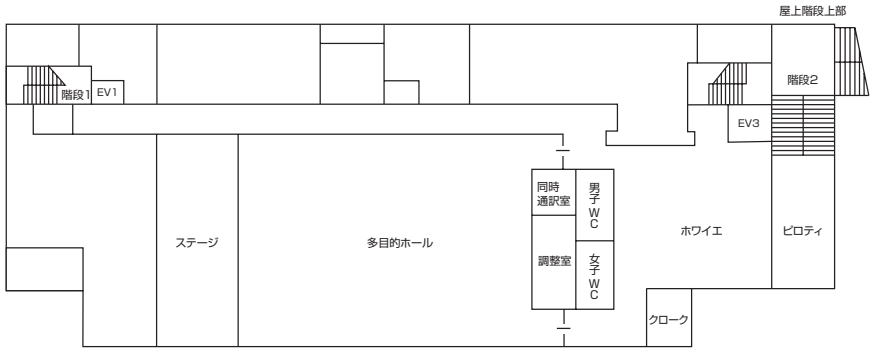


3F

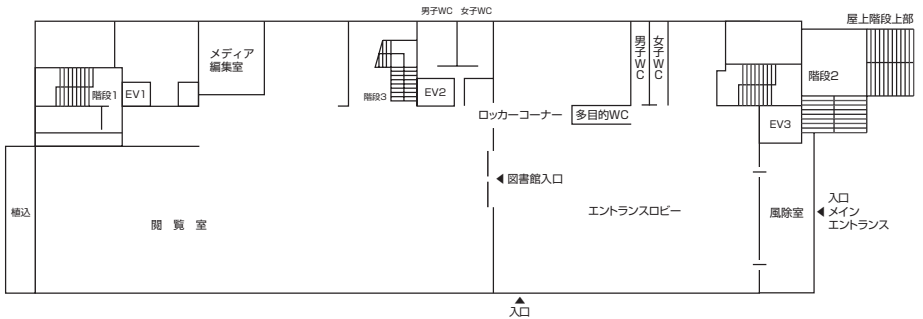


中央図書館配置図

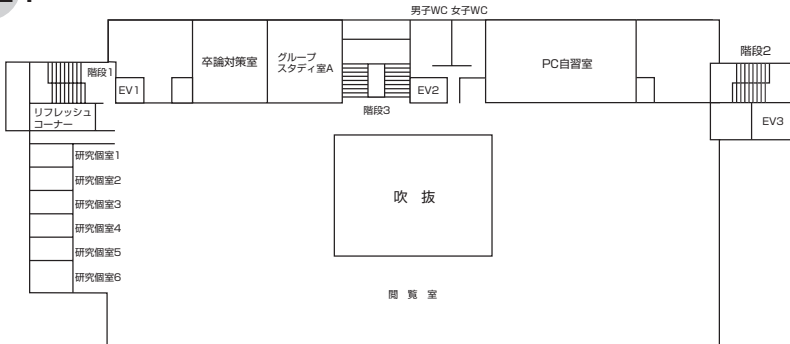
B1F



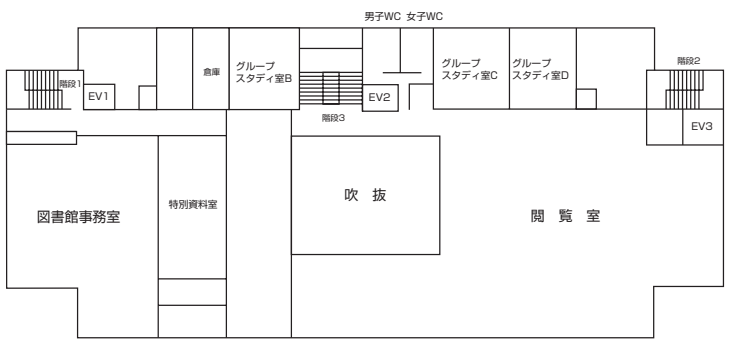
1F



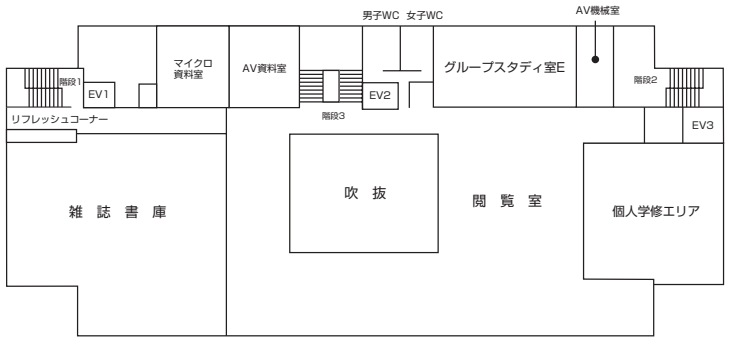
2F



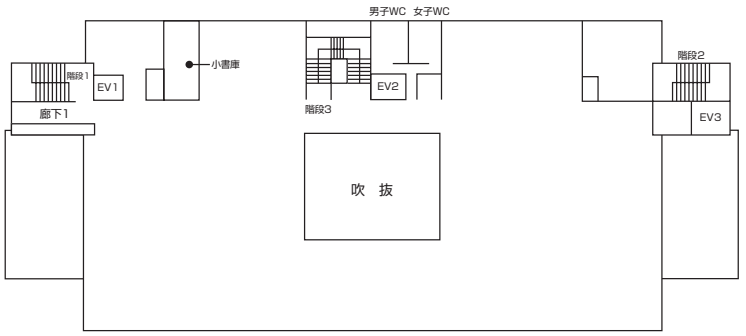
3F



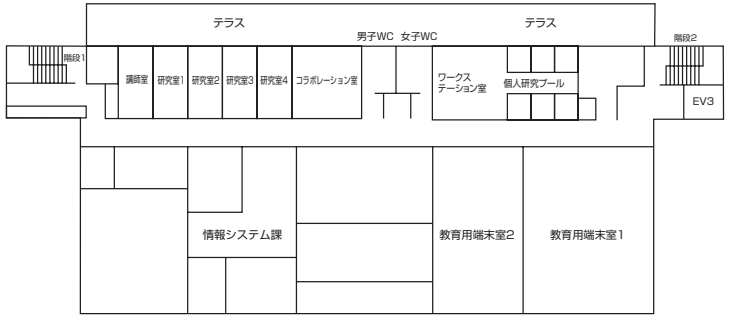
4F



5F

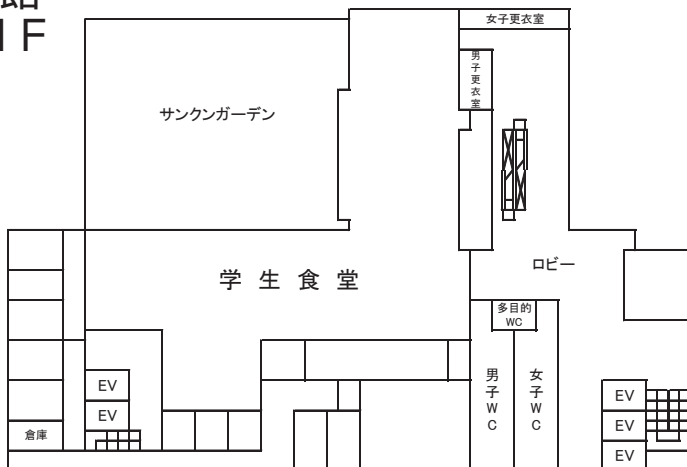


6F

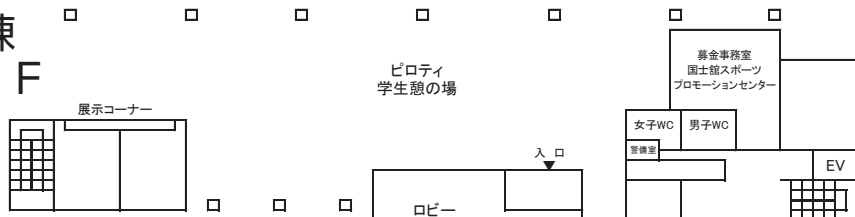


34号館A棟・B棟梅ヶ丘校舎配置図

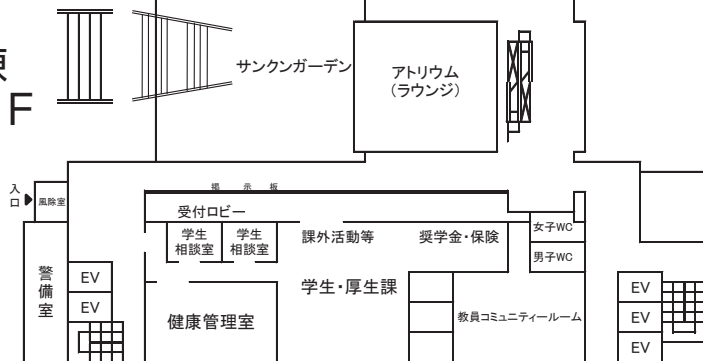
34号館 B1F



B棟 1F



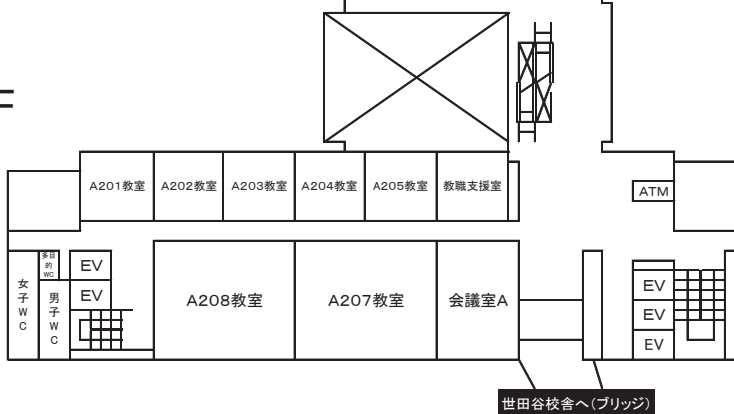
A棟 1F



B棟 2F



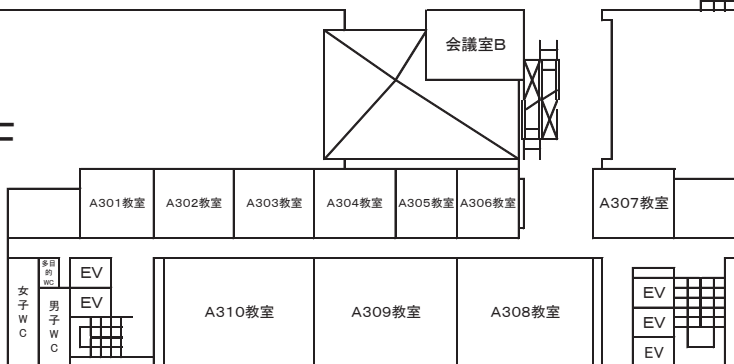
A棟 2F



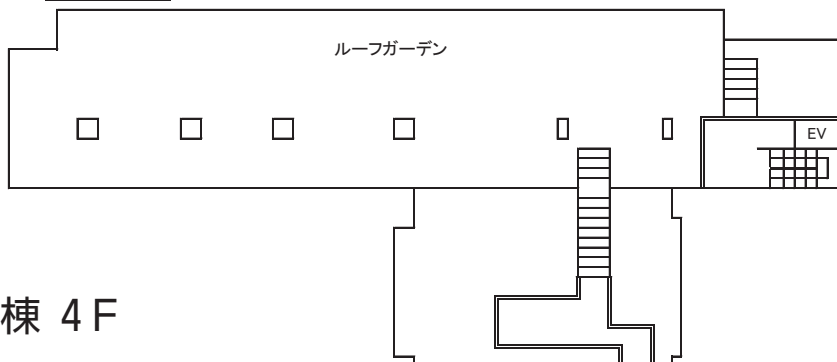
B棟 3F



A棟 3F



B 棟屋上ルーフガーデン



A 棟 4 F



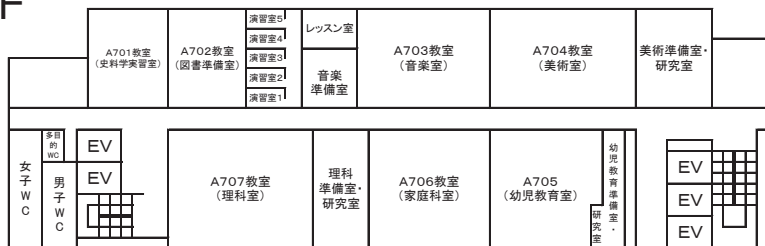
A 棟 5 F



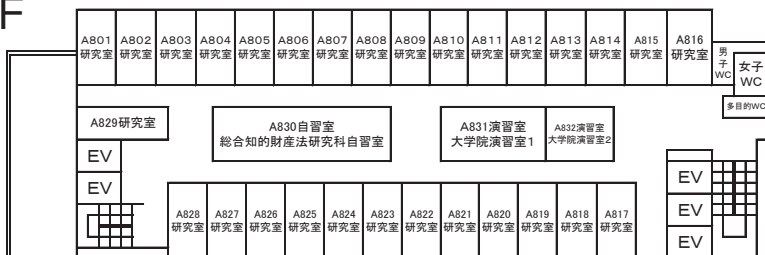
A 棟 6 F



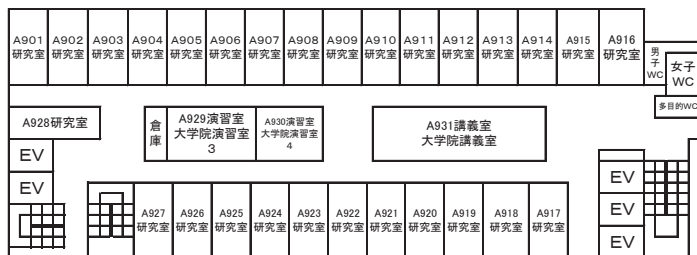
A棟 7F



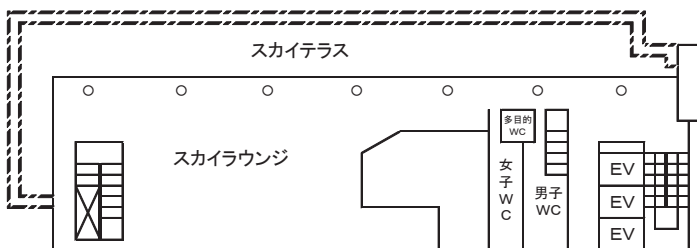
A棟 8F



A棟 9F

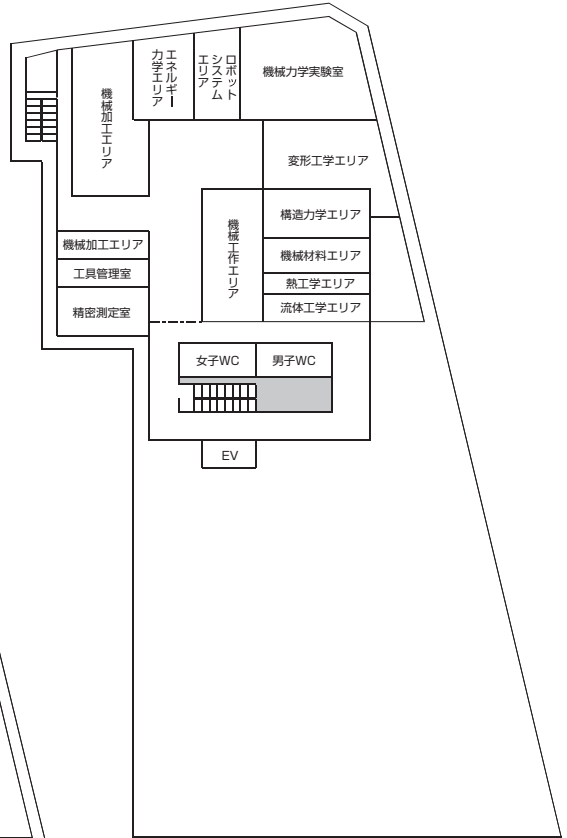


A棟 10F

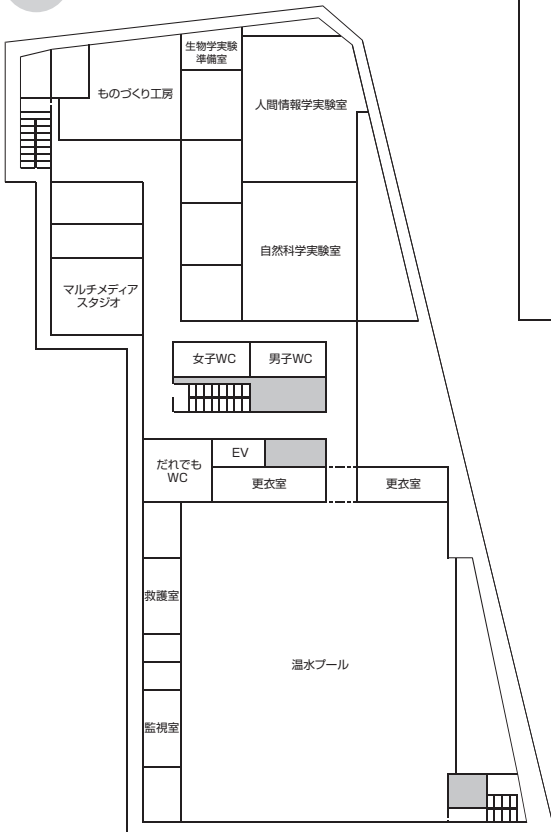


メイプルセンチュリーホール

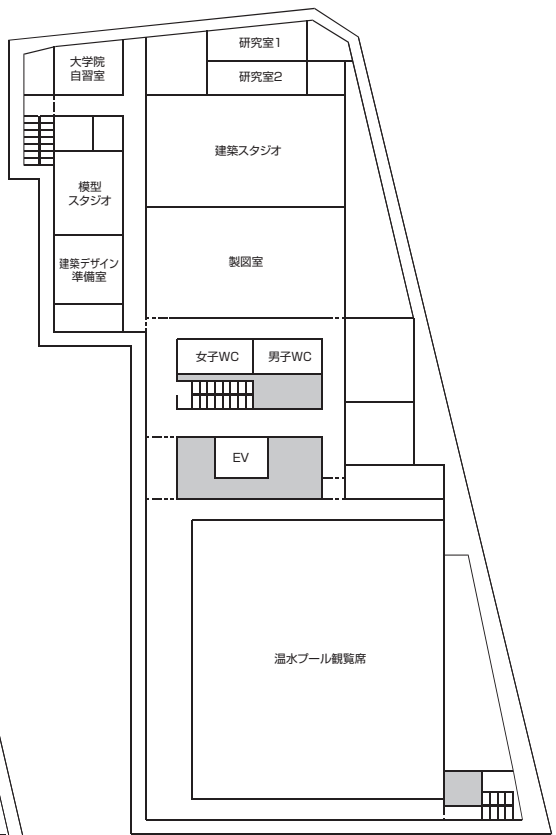
B3F



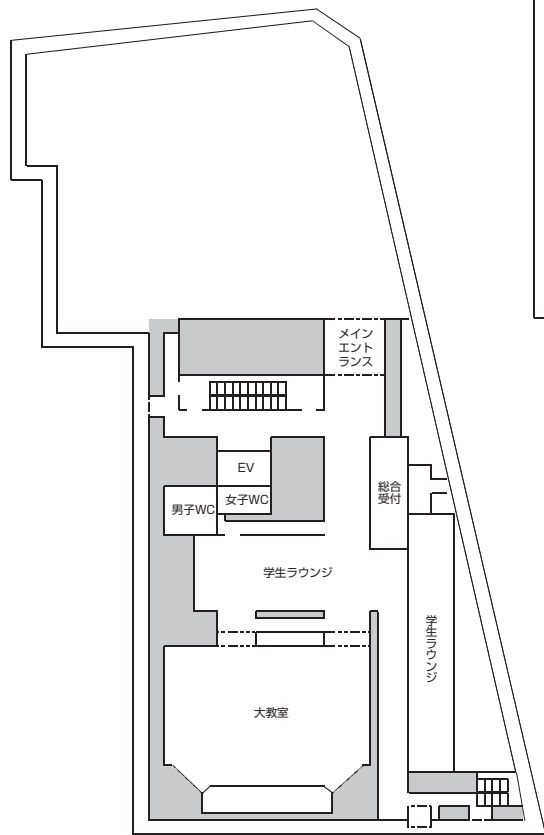
B2F



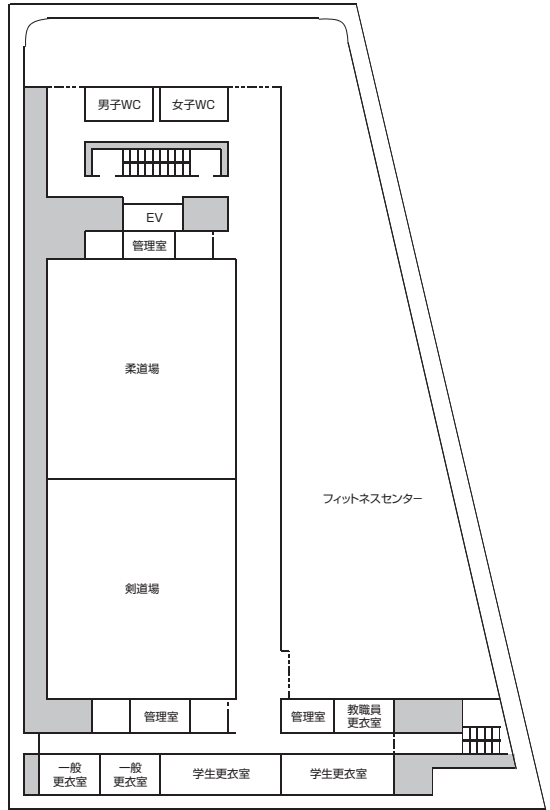
B1F



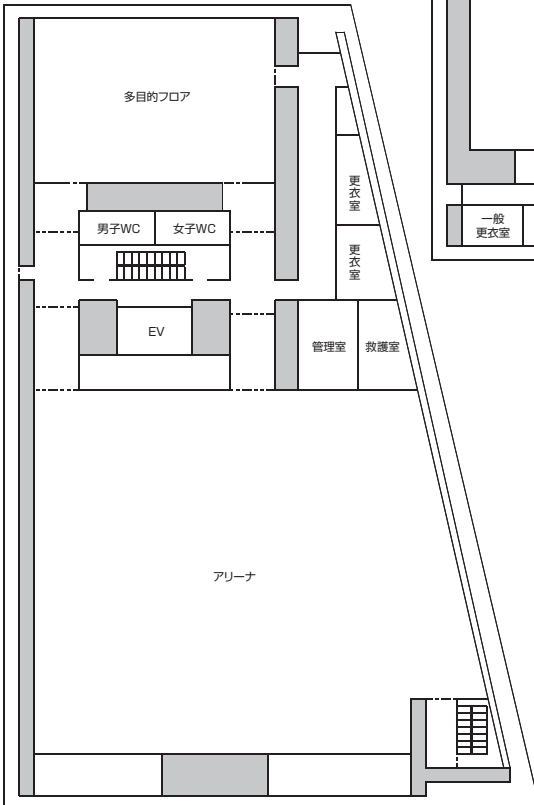
1F



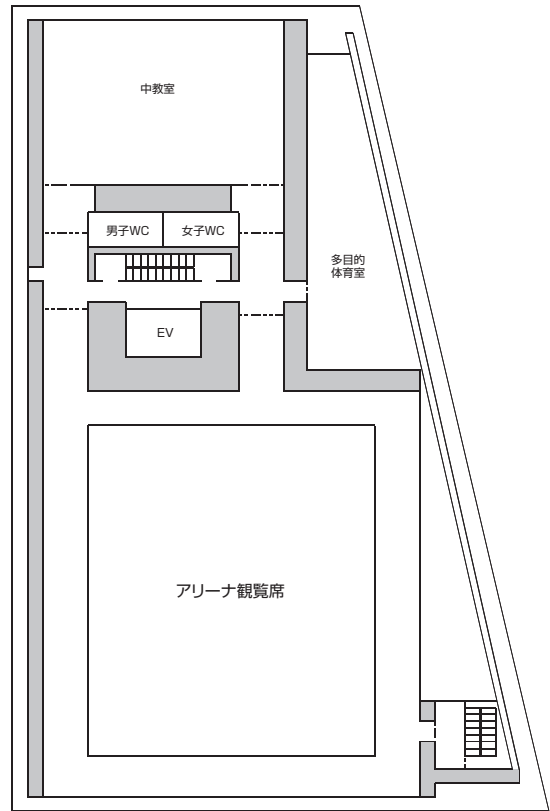
2F



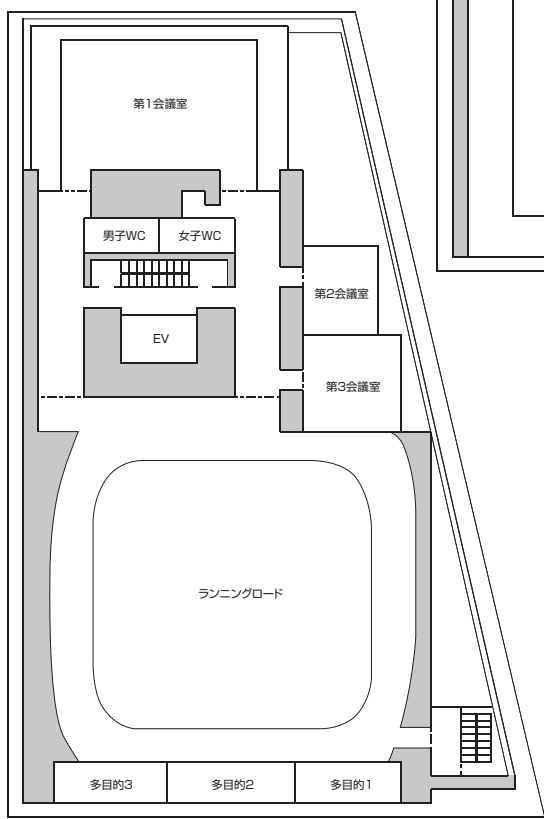
3F



4F



5F





付 録

非暴力宣言

国士館

1. 国士館が武道精神を教育の根幹としてきたのは、「礼に始まり礼に終わる」といわれているように、武道には世界的にみても水準の高い「人としての生きるべき道」が含まれており、人格の陶冶に寄与するところが大きいと考えているからである。
1. 武道は格闘技に属するが、それを超えるものがある。例えば剣道を学ぶ者は剣が人を殺しうる道具であるからこそ、日常生活の中で剣を抜かないことを信条とすべきである。そうしてこそ、武道を学ぶ者が人として光り輝くことになる。
1. 武道精神を教育の根幹とする国士館は、したがって、それ故にこそ暴力を否定する学園でなければならない。今後一時の感情にかられ、言論による説得を忘れて暴力を振るう者が出た場合、国士館はもはやこれを構成員と認めることはできない。
1. 国士館は、過去に起こった本学学生による事件を契機として、以上のような覚悟をもって非暴力を誓うことを内外に宣言する。

国士館

スポーツアスリート憲章

スポーツアスリートの倫理規定として「国士館スポーツアスリート憲章」を制定する。

この憲章は、スポーツ・武道等のスポーツ文化を实践する者が身につけなければならない行動規範を意味し、コモンロー的な性格を有するものである。

この意味において、本学建学の精神から導き出される道徳規範、倫理、慣習を反映し、単にスポーツ・武道等における倫理にとどまらず、一般化・普遍化された市民的・人間的な道徳と倫理を象徴するものである。

- スポーツアスリートは、スポーツが個人の尊厳の上に立脚していることを知る。
- スポーツアスリートの最上の報酬は、たゆまぬ努力から生まれる喜びと充実している自己の存在である。
- スポーツアスリートは、ルールとその精神に従い、スポーツに忠誠を誓う。
- スポーツアスリートは、常に自制を心がけ、自己への尊厳と他者への尊厳を保つ。
- スポーツアスリートは、スポーツの美の創造者であり、スポーツ文化の継承・変革者である。
- スポーツアスリートは、スポーツが「人を生かし、国を活かし、世界に貢献する」ことを知る。

国士館 館歌

柴田徳次郎 作詞 / 東儀 鉄笛 作曲 / 石川 太郎 編曲

一 霧わけ昇る陽を仰ぎ

梢こずえに高き月を浴び

皇国に殉す大丈夫の

ここ武威野の国士館

二 松陰の祠に節を磨し

豪徳の鐘かね氣を澄すます

朝あさな夕ゆふなにつく呼吸いきは

富ふ獄かく風かぜの天てんの風かぜ

三 区々うつつしみ現身あらまきの粗薪あらまきに

大覚だいかくの火ひを打ち点とし

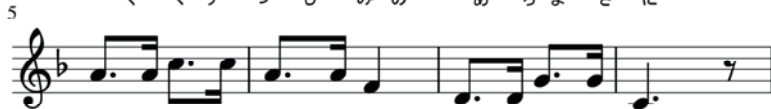
三世さんぜ十方じつぽう焼やき尽つくす

至心ししんの焰ほのおあふらばや

至心ししんの焰ほのおあふらばや



き り わ け の ほ る ひ を あ お ぎ
し ゅ う い の の し に せ つ を つ ま ま き
く く う つ し み の あ ら ま き し に



こ ず え に た か き つ き を あ び
こ だ ず と か く の の か か ひ を す と ま も し
だ かい く の の ひ を す と ま も し



み く に ゆ る す 一 ま す ら お の
あ さ さん な げ 一 ゆ じ り っ ぼ に う や き つ お き
あ さ さん な げ 一 ゆ じ り っ ぼ に う や き つ お き



こ が む さ し の の 一 こ く し か ん
ふ し が くん の の ほ ろ の し の て あ くん の か か げ
し が し ん の の ほ ろ の し の て あ くん の か か げ

